

平成 24 年度

保健学専攻シラバス

博士前期課程・博士後期課程

信州大学大学院医学系研究科

## 目次

ディプロマ・ポリシー	1
カリキュラム・ポリシー	2
学年歴	3
博士前期課程	
授業科目・単位数一覧	7
専攻共通科目	9
看護学分野	
分野共通科目	18
看護教育学・基礎看護学領域	
看護教育学・基礎看護学	21
成人・老年看護学領域	
成人看護学	26
老年看護学	28
母子看護学領域	
小児保健・看護学	32
リプロダクティブ・ヘルス看護学	36
子ども・女性・家族支援（CNS）	38
地域・国際・精神看護学領域	
地域・国際看護学	42
在宅看護学（CNS）	47
精神看護学	51
検査技術科学分野	
病因・病態検査学領域	
分野共通科目	56
病態血液検査学	67
生体分子情報検査学	68
感染生体防御検査学	70
組織細胞病態検査学	72
神経呼吸免疫科学	74
76	
理学・作業療法学分野	
理学療法学領域	
運動器・スポーツ理学療法学	87
障害予防理学療法学	89
機能障害学領域	
機能障害学	95
作業療法学領域	
生活支援作業療法学	101
機器開発作業療法学	102
精神作業療法学	104
博士後期課程	
授業科目・単位数一覧	111
共通科目	113
生涯保健学分野	
母子保健学領域	
母子保健学	115
成人保健学領域	
成人保健学	126
老年保健学領域	
老年保健学	139
医療生命科学分野	
医療生命科学領域	
医療生命科学	146
博士前期課程履修プロセス概念図	161
博士後期課程履修プロセス概念図	162
保健学専攻共通時間割表	163

**信州大学大学院医学系研究科**  
**学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）**

信州大学大学院医学系研究科の各課程を修了し、次に該当する者に学位を授与する。

1. 医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力，研究技術を備えており，共同もしくは単独で，それぞれの分野における諸課題を解決できる。
2. 自らの得た成果を世界に向けて発表するグローバルな情報発信能力を有するとともに，国際的な諸課題に積極的に取り組むことができる。
3. 医学，保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち，科学的基盤に基づいて医療，医学研究もしくは教育を実践できる。

**信州大学大学院医学系研究科保健学専攻**  
**学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）**

信州大学大学院医学系研究科保健学専攻の博士前期課程を修了し、次に該当するものに修士（看護学もしくは保健学）の学位を授与する。

1. 高い倫理観と専門的知識や技術，科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。
2. 保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。
3. 国際的な諸問題に積極的に取り組み，共同研究や活動に参画できる能力を有する。
4. 地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。

信州大学大学院医学系研究科保健学専攻の博士後期課程を修了し、次に該当するものに博士（保健学）の学位を授与する。

1. 保健学の学問体系の確立と発展に寄与し，学際的研究を積極的に推進することにより，世界に向けてその成果を発信できる。
2. 保健・医療・福祉の分野の教育を行う大学あるいは大学院において教育・研究指導に貢献できる。
3. 保健・医療・福祉の現場において，高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち，指導的・専門的立場から課題を見つけ，自立的な研究を行うことができる。
4. 保健医療職者に対して，根拠に基づく実践（Evidence-based Practice）の概念に則ったエビデンスを構築するための質の高い臨床研究方法を指導できる。

## 信州大学大学院教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

### 大学院課程における教育課程編成の方針

1. 信州大学大学院は、研究科及び専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設するとともに、研究指導の計画を策定し、体系的に教育課程を編成します。
2. 信州大学大学院は、教育課程の編成に当たっては、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮します。

### 大学院課程における教育課程実施の方針

1. 信州大学大学院は、専門性の一層の向上を図り幅広い学識を涵養するため、コースワークを充実させ、コースワークから研究指導へ有機的につながる体系的な教育を行います。また、各研究科の「学位授与の方針」に定めた、修了時までには修得すべき知識・能力等がカリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバスで「学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応を示し、それら諸能力等を修得するプロセスを履修プロセス概念図で示します。
2. 信州大学大学院は、学生個々人の主体的で活発な勉学意欲を促進する立場から、授業時間外の多様な学修研究機会を通じ、諸課題に積極的に挑戦させます。
3. 信州大学大学院は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度をめやすとして採点します。
4. 信州大学大学院は、修士課程及び博士課程の学位論文審査体制を充実させ、厳格な審査を行います。





# 博士前期課程

## 信州大学大学院医学系研究科（博士前期課程）保健学専攻

### 教育・研究の理念

本大学院医学系研究科（博士前期課程）保健学専攻は、高い倫理観と豊かな人間性を有し、高度な専門的知識・技術と、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力、国際的な視野を持つ高度専門保健医療職者を育成することを基本理念とする。精神的・身体的・社会的な側面から人間を全人的な存在としてとらえ、保健・医療・福祉に関する教育・研究の成果を社会に還元することにより、健康保持と疾病や障害の予防・治療、医療安全に広く貢献し、人類の幸福と福祉の向上に寄与する保健学を構築する。

### 教育・研究上の目標

- (1) 高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を備えた人材の育成
- (2) 保健・医療・福祉の現場において研究を推進できる人材の育成
- (3) 国際的な共同研究や活動に参画できる人材の育成
- (4) 地域保健・医療・福祉の実践現場で働く有職者の活性化

信州大学大学院医学系研究科保健学専攻では以下のような学生を求めています。

- (1) 高い倫理観と豊かな人間性を有し、人類の幸福と福祉の向上に熱意のある人
- (2) 科学的思考による問題解決能力を有し、国際的視野でものごとを考えることができる人
- (3) 高度専門職業人として、地域社会の保健医療に貢献する意欲のある人
- (4) 保健・医療・福祉において、指導的役割を担う意欲のある人
- (5) 将来の保健学における教育者・研究者を志望する基礎学力と熱意のある人

## 授 業 科 目 ・ 単 位 数

医学系研究科博士前期課程（保健学専攻）

平成24年度

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		備考	
			必修	選択		
専攻共通科目	医療倫理学	1・前	2	2		
	研究方法論	1・前				
	医療情報処理学	1・前				
	臨床判断解析学Ⅰ（内科系）	1・前				
	臨床判断解析学Ⅱ（外科系）	1・前				
	国際保健論	1・前				
	保健医療福祉システム論	1・前				
	社会システム論	1・前				
地域の生活と福祉	1・後	2				
看護学分野	看護学分野 科目共通	看護理論	1・前	2	C   N S	
		看護研究	1・前	2		
		看護管理	1・前	2		
	基礎看護学・ 看護教育学領域	看護教育学・基礎看護学特論	1・前	10		2
		看護教育学・基礎看護学方法特論	1・前			2
		看護教育学・基礎看護学演習Ⅰ	1・後			2
		看護教育学・基礎看護学演習Ⅱ	1・後			2
		看護教育学・基礎看護学特別研究	2			2
	成人・老年看護学領域	成人・老年看護学特論	1・前	10		2
		成人・老年看護学方法特論	1・前			2
		成人看護学演習Ⅰ	1・後			2
		成人看護学演習Ⅱ	1・後			2
		成人看護学特別研究	2			2
		老年看護学演習Ⅰ	1・後			2
		老年看護学演習Ⅱ	1・後			2
	老年看護学特別研究	2	2			
	母子看護学領域	母子看護学特論	1・前	10		2
		母子看護学支援特論	1・前			2
		小児保健・看護学演習Ⅰ	1・後			2
		小児保健・看護学演習Ⅱ	2・前			2
		小児保健・看護学特別研究	2			2
		リプロダクティブ・ヘルス看護学演習Ⅰ	1・後			2
		リプロダクティブ・ヘルス看護学演習Ⅱ	2・前			2
		リプロダクティブ・ヘルス看護学特別研究	2			2
子ども・女性・家族支援演習A		1・後	2			
子ども・女性・家族支援演習B		2・前	2			
子ども・女性・家族支援実習	2	6	C   N S			
子ども・女性・家族支援課題研究	2	4				
地域・国際・精神看護学領域	地域・国際看護学特論	1・前	10	2		
	地域・国際看護学援助特論	1・前		2		
	地域・国際看護学演習Ⅰ	1・後		2		
	地域・国際看護学演習Ⅱ	2・前		2		
	地域・国際看護学特別研究	2		2		
	在宅看護学援助特論	1・前		2		
	在宅看護学方法特論	1・前		2		
	在宅看護学演習A	1・後		2		
	在宅看護学演習B	2・前		2		
	在宅看護学実習	2		6	C   N S コ ー ス	
	在宅看護学課題研究	2		4		
	精神看護学特論Ⅰ	1・前		10	2	
	精神看護学特論Ⅱ	1・後			2	
	精神看護学演習Ⅰ	1・後			2	
精神看護学演習Ⅱ	2・前	2				
精神看護学特別研究	2	2				
	2	2				

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		備 考																
			必修	選択																	
検査技術科学分野	病因・病態検査学領域	病態検査解析学	1・前	2																	
		病態血液検査学特論	1・後		2																
		病態血液検査学演習	2・前		4																
		生体分子情報検査学特論	1・前		2																
		生体分子情報検査学演習	2・前		4																
		感染生体防御検査学特論	1・後		2																
		感染生体防御検査学演習	2・前		4																
		組織細胞病態検査学特論	1・前		2																
		組織細胞病態検査学演習	2・前		4																
		神経呼吸免疫科学特論	1・後		2																
		神経呼吸免疫科学演習	2・前		4																
		病因・病態検査学特別研究	2	10																	
理学・作業療法学分野	理学療法学領域	運動器・ｽﾎｰﾝ理学療法学特論	1・前		2																
		運動器・ｽﾎｰﾝ理学療法学演習	1・後		4																
		障害予防理学療法学特論	1・前		2																
		障害予防理学療法学演習	1・後		4																
		理学療法学特別研究	2	10																	
	機能障害学領域	機能障害学特論	1・後		2																
		機能障害学演習	2・前		4																
		機能障害学特別研究	2	10																	
	作業療法学領域	生活支援作業療法学特論	1・前		2																
		機器開発作業療法学特論	1・後		2																
		生活支援・機器開発作業療法学演習	2・前		4																
		精神作業療法学特論	1・後		2																
		精神作業療法学演習	2・前		4																
	作業療法学特別研究	2	10																		
	<p>※ 修了要件及び履修方法</p> <p>看護学分野 必修科目12単位，選択科目18単位以上を修得</p> <p>検査技術科学分野 必修科目14単位，選択科目16単位以上を修得</p> <p>理学・作業療法学分野 必修科目12単位，選択科目18単位以上を修得</p> <p>上記単位を修得し，かつ必要な論文指導を受けた上で，本大学院が行う修士論文の審査又は課題研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。</p>																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">授業時限</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1時限</td> <td>9:00～10:30</td> </tr> <tr> <td>2時限</td> <td>10:40～12:10</td> </tr> <tr> <td>3時限</td> <td>13:00～14:30</td> </tr> <tr> <td>4時限</td> <td>14:40～16:10</td> </tr> <tr> <td>5時限</td> <td>16:20～17:50</td> </tr> <tr> <td>6時限</td> <td>18:00～19:30</td> </tr> <tr> <td>7時限</td> <td>19:40～21:10</td> </tr> </tbody> </table>						授業時限		1時限	9:00～10:30	2時限	10:40～12:10	3時限	13:00～14:30	4時限	14:40～16:10	5時限	16:20～17:50	6時限	18:00～19:30	7時限	19:40～21:10
授業時限																					
1時限	9:00～10:30																				
2時限	10:40～12:10																				
3時限	13:00～14:30																				
4時限	14:40～16:10																				
5時限	16:20～17:50																				
6時限	18:00～19:30																				
7時限	19:40～21:10																				

登録コード:MA700100	県内大学履修科目	市民開放授業	授業科目区分	必修科目
科目名	医療倫理学 Medical Ethics			
担当教員	玉井 真理子 福嶋 義光, 濱口 恵子, 大西 香代子			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	保健学専攻共通 / 1年次		前期	土曜・1時限
単位数、講義室	2単位		保健学科211講義室	
授業概要	医療倫理学 / 生命倫理学の素養を身につけるとともに、当該領域に関する「情報収集能力」「分析能力」「(グローバルな)情報発信能力」を養い、医療現場で起きる倫理問題解決のための方法論を学ぶ。			
一般学習目標G10(期待される学習効果)	医療倫理学 / 生命倫理学の成立と発展の経緯を知る。 医療倫理学の代表的なトピックスについて認識を深める。 医療現場で起きる倫理問題解決のために様々な方法論があることを知る。			
SBOs(行動目標)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命倫理学 / 医療倫理学の成り立ちについて説明できる。</li> <li>2. ヒトゲノム解析、脳死と臓器移植、ニューロエシックスなど、生命倫理関連の代表的なトピックスのいくつかについて、それらの歴史と現状について説明できる。</li> <li>3. 医療現場でおきる倫理問題解決のための方法論を応用できる。</li> </ol>			
授業計画	<p>1) 医療 / 生命倫理学入門 (4月14日土曜日10:40-12:10玉井)</p> <p>2) ~ 4) 看護と倫理その1 (6月2日土曜日9:00-12:10非常勤講師: 濱口恵子)</p> <p>5) ~ 6) 先端生命科学と倫理的課題 (7月4日水曜日18:00-21:10福嶋 &amp; 市川家國) 旭研究棟9階A・B講義室</p> <p>7) ~ 11) 市民公開授業: ゲノム時代を迎えて (7月7日土曜日9:00-17:50玉井) 旭研究棟9階A・B講義室</p> <p>12) ~ 14) 看護と倫理その2 (9月1日土曜日9:00-12:10非常勤講師: 大西香代子)</p> <p>15) 試験あるいは最終レポート提出</p> <p>医学科の大学院との合同授業。場所に注意。</p>			
授業の進め方	視聴覚教材を用い、受講者同士のディスカッションを中心にすすめる。 他の研究課程(医学科の大学院)との合同授業になることもある。			
テキスト, 教材, 参考書	<p>次のテキストを参考図書として推薦するが、授業の際に購入することができる(著者割引価格適用あり)ので、必ずしも事前に購入する必要はない。これ以外にも適宜紹介する。</p> <p>『捨てられるいのち、利用されるいのち 胎児組織の研究利用と生命倫理』(生活書院、2009年、単行本) 玉井 真理子(編集)、平塚 志保(編集) 価格¥3,150</p>			
成績評価の方法	出席状況に加え、レポートの提出を求める。			
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	日時および場所の設定がかなり変則的になります。直前の変更もあり得ますので掲示やメール等での連絡に十分注意してください。			

登録コード:MA700200		授業科目区分	選択科目
科目名	研究方法论 Methods in Health Science Research		
担当教員	相良 淳二 玉井 眞理子, 上村 智子, 横川 吉晴, 谷口 俊一郎, 山崎 浩司		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	保健学専攻共通 / 1年次 前期(後半) 土曜・2時限 土曜・3時限		
単位数、講義室	2単位 保健学科2 1 1 講義室		
授業概要	保健医療の分野で研究を遂行するものに必要な知識、態度、技術、科学的根拠に基づく分析能力を獲得するために、保健医療の歴史とその背景を概説しながら、道義的責任と倫理、各分野における科学的研究の種類と特徴、問題解決のための研究方法を探究する。		
一般学習目標G10(期待される学習効果)	<p>医学・医療系の研究を実施するうえで留意する点を理解する(玉井)</p> <p>論文を読むことの重要性を理解する相良)</p> <p>保健・医療・福祉サービスの改良や開発において主要な役割を果たすプログラム評価の理論と方法・プログラムのニーズ、設計、実施、その効果性や効率性を査定する評価の枠組みについて学ぶ(上村)</p> <p>修士課程における研究のすすめ方、倫理審査、研究申請書の作成と研究助成(横川)</p> <p>保健医療研究における質的研究の概要を知る(質的研究の位置づけ、主な方法論、まとめ方)(山崎)</p>		
SBOs(行動目標)	<p>講義と自由なディスカッションから自分の研究について考える。</p> <p>科学について調べて考えたことを人に伝える。</p> <p>科学について人の考えを聞いて自分の意見を述べる。</p>		
授業計画	<p>4月14日 研究と倫理(玉井; 1コマ目)</p> <p>6月 9日 論文から研究法を学ぶ(相良; 1,2コマ)</p> <p>6月23日 保健・医療・福祉サービスにおけるプログラム評価(上村; 1,2,3コマ)</p> <p>6月30日 質的研究入門I(山崎; 1,2コマ)</p> <p>7月14日 分子生物学の研究法 メンデルからiPSまで(相良、谷口; 1,2コマ)</p> <p>7月21日 研究の進め方 倫理審査、研究計画、研究補助金申請、論文の書き方、文献検索(横川; 1,2,3コマ)</p> <p>7月28日 質的研究入門II(山崎; 1,2コマ)</p>		
授業の進め方	<p>講義と自由なディスカッションを両輪として進める。</p> <p>積極的な学習への参加を望みます。</p> <p>授業計画や時間は変更されることがある。その場合は皆さんにメールでお知らせします。</p>		
テキスト, 教材, 参考書	<p><b>【参考書】</b></p> <p>秋田喜代美・能智正博監修(2007)『はじめての質的研究法』東京:東京図書。</p> <p>「医療・看護編」、「臨床・社会編」、「生涯発達編」、「教育・学習編」の4種類あるので、それぞれの目次を確認し、自分の関心に適したものを1冊入手すること。(山崎担当分)</p> <p>Rossi PH他著・大島巖他監訳:プログラム評価の理論と方法。日本評論社。2005。(上村担当分)</p> <p>古谷野亘,長田久雄:実証研究の手引き。ワールドプランニング。1992。(横川担当分)</p>		
成績評価の方法	授業への出席および電子メールによる授業参加レポート提出		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	学生と教員は常に電子メールでつながっており、質問や相談は何時でも受け付ける。		

登録コード:MA700300		授業科目区分	選択科目																				
科目名	医療情報処理科学 Medical Information Processing																						
担当教員	日高 宏哉 小林 正義, 横川 吉晴, 鈴木 治郎, 五十嵐 久人																						
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	保健学専攻共通 / 1 年次 前期(前半) 土曜・2 時限 土曜・3 時限																						
単位数、講義室	2 単位 保健学科 2 1 1 講義室																						
授業概要	<p>保健・医療データの解析およびバイオサイエンス分野で活用される統計学的解析法の理論、技術、実践について講義する。さらに、保健医療情報に関する各種のデータの統計的解析、結果全体の解釈、研究・試験計画の検討、画像情報の処理などについて実例を用いて紹介し、生体情報の解析法およびその実践できる技術を教授する。また、E-learning教材を提供し、学生の知識や技術の向上を図る。授業形態は、オムニバス方式でおこなう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統計学的解析法の実践のために、コンピュータ-プログラムでの統計学的推定、検定およびモデルの処理法を教授する。統計学的解析法の基礎は主にE-learning教材を用い、質問などに応じながら学生の知識や技術の向上を図る。(鈴木)</li> <li>・臨床化学や生化学分野における実験データの統計学的解析法について講義し、実例を用いてその解析法を指導する。また、画像情報の処理について実践する(日高)</li> <li>・事例研究で用いられるシングルシステムデザインについて、測定値の属性、妥当性、信頼性等について解説し、効果判定の方法と準統計的解析手法について実例を通じて指導する。(小林)</li> <li>・調査研究における調査票の作成方法、尺度の作成方法について解説し、それらに必要な多変量解析手法について実例を通じて指導する。(横川)</li> <li>・看護研究における情報処理の実際を教授する。(五十嵐)</li> </ul>																						
一般学習目標G10(期待される学習効果)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) バイオサイエンス分野における医療情報を統計学的解析法、シングルシステムデザイン、多変量解析手法を用いて実践できる能力を養う。</li> <li>2) E-learning教材による統計学的解析法の基礎を学ぶ。</li> <li>3) コンピュータ-プログラムでの統計学的推定、検定およびモデルの処理法を習得する。</li> <li>4) 実験研究、事例研究、調査研究を行うにあたっての、準備、実施、解析、評価の手法を習得する。</li> </ol>																						
SBOs(行動目標)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) コンピュータ-での統計学的推定、検定およびモデルの処理法を説明でき実践できる。</li> <li>2) 統計学的解析法のE-learning教材を用いて学習できる。</li> <li>3) 実験データの解析のための統計学的解析法の基本を説明でき、実践できる。</li> <li>4) 事例研究で用いられるシングルシステムデザインについての基本を説明でき、実践できる。</li> <li>5) 調査研究における調査票の作成方法、尺度の作成方法についての基本を説明でき、多変量解析手法の実践ができる。</li> <li>6) 看護研究における情報処理の実践ができる。</li> </ol>																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>4/21</td> <td>第1-3回</td> <td>医療情報処理科学と実験研究手法の基礎と実践</td> <td>(日高)(1-3コマ)</td> </tr> <tr> <td>4/28</td> <td>第4-6回</td> <td>統計学的解析法の基礎と実践</td> <td>(鈴木)(1-3コマ)</td> </tr> <tr> <td>5/12</td> <td>第7-9回</td> <td>事例研究手法の基礎と実践</td> <td>(小林)(1-3コマ)</td> </tr> <tr> <td>5/19</td> <td>第10-12回</td> <td>調査研究手法の基礎と実践</td> <td>(横川)(1-3コマ)</td> </tr> <tr> <td>5/26</td> <td>第13-15回</td> <td>看護領域研究手法の基礎と実践</td> <td>(五十嵐)(1-3コマ)</td> </tr> </table>			4/21	第1-3回	医療情報処理科学と実験研究手法の基礎と実践	(日高)(1-3コマ)	4/28	第4-6回	統計学的解析法の基礎と実践	(鈴木)(1-3コマ)	5/12	第7-9回	事例研究手法の基礎と実践	(小林)(1-3コマ)	5/19	第10-12回	調査研究手法の基礎と実践	(横川)(1-3コマ)	5/26	第13-15回	看護領域研究手法の基礎と実践	(五十嵐)(1-3コマ)
4/21	第1-3回	医療情報処理科学と実験研究手法の基礎と実践	(日高)(1-3コマ)																				
4/28	第4-6回	統計学的解析法の基礎と実践	(鈴木)(1-3コマ)																				
5/12	第7-9回	事例研究手法の基礎と実践	(小林)(1-3コマ)																				
5/19	第10-12回	調査研究手法の基礎と実践	(横川)(1-3コマ)																				
5/26	第13-15回	看護領域研究手法の基礎と実践	(五十嵐)(1-3コマ)																				
授業の進め方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 統計学の基礎は復習しておくこと。</li> <li>2) E-learning教材の使用方法を習得しておくこと。</li> </ol>																						
テキスト、教材、参考書	自作テキスト(プリントおよびスライド)、E-learning教材を用いる。																						
成績評価の方法	出席(20%)およびレポート(80%)の採点により評価する																						
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問などは、授業中、授業後、またはE-メールで受け付け、回答は授業の中で行う。																						

登録コード:MA700400	授業科目区分	選択科目
科目名	臨床判断解析学 (内科系) Clinical Assessment in Internal Medicine	
担当教員	本郷 実 高 昌星, 市川 元基, 藤本 圭作	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	保健学専攻共通 / 1年次	前期 土曜・4時限
単位数、講義室	2単位	保健学科211講義室
授業概要	<p>大学院医学系研究科保健学専攻において、より専門性の高い実践を行うことを目的として、臨床現場で遭遇する頻度の高い内科系疾患の専門的アセスメント能力を高めるために、循環器系、呼吸器系、脳神経系、感染免疫に関する病態解析の方法論について理解を深める。</p> <p>(本郷 実) 循環器疾患の診断、病態把握、治療効果の評価に際して必要な基礎知識を修得し、循環器疾患の病態について研究する。また、循環器疾患を初めとする生活習慣病の予防や健康増進に必要な専門知識を理解し、実践への応用を探究する。</p> <p>(藤本圭作) 呼吸器疾患の診断、病態把握、治療法の評価に必要な知識を習得し、呼吸器疾患の病態生理学について講義する。また、睡眠呼吸障害についての病態および診断についても講義する。</p> <p>(高 昌星) 神経・筋の発生・解剖・生理について理解し、脳神経疾患の病態と診断について解析・研究する。さらに、脳神経疾患に対する予防や最新の治療についての検討を行う。</p> <p>(市川元基) 生体における免疫系の役割を理解し、細菌やウイルスなどの感染症に対する生体の防御機構について探究する。免疫系の仕組みに破綻をきたして生じるアレルギー性疾患、自己免疫疾患、原発性免疫不全症などの疾患の病態と治療を理解する。さらに、感染症の予防や最新の治療について研究する。</p>	
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	循環器系、呼吸器系、脳神経系、感染免疫に関する病態解析方法論を修得し、より専門性の高い保健学を実践する能力を身につけることが出来る。これにより、情報収集能力、分析能力、グローバルな情報発信能力を獲得することが出来る。	
SBOs (行動目標)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 循環器系、呼吸器系、脳神経系、感染免疫に関する病態解析の方法論を理解出来る。</li> <li>2. これらの方法論を生かして、より専門性の高い保健学の場で実践出来る。</li> <li>3. 情報収集能力、分析能力、グローバルな情報発信能力を獲得することが出来る。</li> </ol>	
授業計画	<p>オムニバス形式/全15回</p> <p>(本郷 実/3回:121教室で行います)</p> <p>第1回(4/14) メタボリックシンドローム(生活習慣病)</p> <p>第2回(4/21) 高血圧、心不全</p> <p>第3回(4/28) 動脈硬化、虚血性心疾患</p> <p>(藤本圭作/4回)</p> <p>第4回(5/26) 4コマ目 閉塞性肺疾患の病態と診断(COPD)</p> <p>第5回(5/26) 5コマ目 閉塞性肺疾患の病態と診断(喘息)</p> <p>第6回(6/2) 4コマ目 COPDと気管支喘息との鑑別法</p> <p>第7回(6/2) 5コマ目 睡眠呼吸障害の病態と検査法</p> <p>(高 昌星/4回)</p> <p>第8回(6/9) 免疫性神経疾患</p> <p>第9回(6/16) 認知症</p> <p>第10回(6/23) 神経難病</p> <p>第11回(6/30) 神経感染症、プリオン病</p> <p>(市川元基/4回)</p> <p>第12回(7/14) 4コマ目 免疫系の役割、成立</p> <p>第13回(7/14) 5コマ目 ウイルス感染症における免疫</p> <p>第14回(7/21) 細菌感染症における免疫</p> <p>第15回(7/28) アレルギーにおける免疫</p>	
授業の進め方	テキスト、プリント、スライドなどにより進める。	
テキスト、教材、参考書	<p>(本郷 実)</p> <p>内科学Handbook:本郷 実編(信州大学)、わかりやすい内科学:井村裕夫、他編(文光堂)</p> <p>(藤本圭作)</p> <p>1.呼吸器疾患診療マニュアル。監修・編集:工藤翔二、編集:相澤久道、太田健、川崎一輝、弦間昭彦、酒井文和、中田統一郎、永武毅、貫和敏博。日本医師会雑誌 第137巻・特別号(2)、平成20年10月15日発行、日本医師会、2008。</p> <p>2.病気がみえるvol.4 呼吸器。編集:医療情報科学研究所、発行:メディックメディア。</p> <p>(高 昌星)</p> <p>内科学(朝倉書店第9版)</p> <p>(市川元基)</p> <p>ナースとコメディカルのための小児科学 白木和夫、高田哲編、日本小児医事出版社</p>	
成績評価の方法	レポート、出席状況から評価する。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	大学院医学系研究科保健学専攻において、内科系疾患の専門的アセスメント能力を高め、より専門性の高い実践を行うために、循環器系、呼吸器系、脳神経系、感染免疫に関する病態解析の方法論を教授する。随時、日進月歩の医学の歩み、トピックスについて紹介し、学生諸君の夢を広げるような講義を行いたいと考えている。	

登録コード:MA700500	授業科目区分	選択科目
科目名	臨床判断解析学 (外科系) Clinical Assessment in Surgery	
担当教員	寺田 克 金井 誠, 齋藤 直人, 市野 みどり	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	保健学専攻共通 / 1年次	前期 月曜・4時限 月曜・5時限
単位数、講義室	2単位	保健学科131講義室
授業概要	専門性の高い医療を実践するのに必要な外科系疾患に関する病態生理について理解する。このため、疾患概念・治療法・治療効果を解析するための方法論をふまえながら、外科系疾患の病態生理について論述する。	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外科的侵襲の病態生理, ショックに関連した病態生理について理解する。</li> <li>2. 外科的感染症, 外傷学の病態生理について理解する。</li> <li>3. 生体肝移植の周術期の病態生理, 治療成績や問題点について理解する。</li> <li>4. 産婦人科疾患に関する病態と治療について修得する。</li> <li>5. 妊産婦に関連した最新の医療情報についての専門知識を深める。</li> <li>6. 骨・軟骨関連細胞を理解する。</li> <li>7. 骨・軟骨代謝を理解する。</li> <li>8. 整形外科疾患を基礎科学から理解する。</li> <li>9. 泌尿器科疾患に関する病態, 診断, 治療について修得する。</li> <li>10. 下部尿路機能の調節機構について理解する。</li> <li>11. 下部尿路機能障害の分類と病態生理について理解する。</li> <li>12. 代表的な下部尿路機能障害の診断と治療について修得する。</li> </ol>	
SBOs(行動目標)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外科的侵襲, ショック時の病態生理と治療について説明できる。</li> <li>2. 外科的感染症, 外傷時の病態生理と治療について説明できる。</li> <li>3. 肝移植の周術期管理について理解できる。</li> <li>4. 小児外科疾患治療後の成人期における問題点について理解できる。</li> <li>5. 生殖医療の現状を把握し、不妊症・不育症の原因および治療法を説明できる。</li> <li>6. 妊娠高血圧症候群等のハイリスク妊娠の病態生理および妊婦管理方法を理解できる。</li> <li>7. 婦人科疾患、とくに悪性腫瘍の病態生理と治療法を理解できる。</li> <li>8. 静脈血栓塞栓症の病態生理を理解し、周産期・周術期の予防法を実践できる。</li> <li>9. 骨・軟骨関連細胞を説明できる。</li> <li>10. 骨・軟骨代謝を説明できる。</li> <li>11. 整形外科疾患を基礎科学から説明できる。</li> <li>12. 下部尿路の構造, 機能と調節機構について説明できる。</li> <li>13. 下部尿路機能障害の分類と蓄尿障害, 尿排出障害をきたす代表的な病態について説明できる。</li> <li>14. 過活動膀胱, 前立腺肥大症, 女性腹圧性尿失禁, 神経因性膀胱の診断と治療, ならびに間欠導尿法の原理と留意点について説明できる。</li> </ol>	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生殖医療の現状(金井: 4月9日, 4時限)</li> <li>2. ハイリスク妊婦の管理(妊娠高血圧症候群、多胎妊娠、合併症妊娠など)(金井: 4月9日, 5時限)</li> <li>3. 骨・軟骨関連細胞(齋藤: 4月16日, 4時限)</li> <li>4. 骨・軟骨代謝(齋藤: 4月16日, 5時限)</li> <li>5. 異常分娩の病態生理(金井: 4月23日, 4時限)</li> <li>6. 婦人科疾患、とくに悪性腫瘍(金井: 4月23日, 5時限)</li> <li>7. 生体肝移植の周術期管理(寺田: 5月1日, 4時限)</li> <li>8. 小児外科疾患治療後の成人期における諸問題(寺田: 5月1日, 5時限)</li> <li>9. 外科的侵襲, ショック時の病態生理と治療(寺田: 5月7日, 4時限)</li> <li>10. 外科的感染症, 外傷学の病態生理と治療(寺田: 5月7日, 5時限)</li> <li>11. 整形外科疾患の基礎科学(齋藤: 5月14日, 4時限)</li> <li>12. 整形外科疾患の基礎科学(齋藤: 5月14日, 5時限)</li> <li>13. 下部尿路機能の調節機構(市野: 医学部泌尿器科学講座: 5月21日, 5時限)</li> <li>14. 下部尿路機能障害の分類と病態生理(市野: 医学部泌尿器科学講座: 5月28日, 4時限)</li> <li>15. 下部尿路機能障害の診断と治療(市野: 医学部泌尿器科学講座: 5月28日, 5時限)</li> </ol>	
授業の進め方	講義等	
テキスト, 教材, 参考書	とくに指定せず	
成績評価の方法	レポート等	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	<p>この授業は、外科系領域に関係する保健学科の教員と医学科(泌尿器科)の教員によるオムニバス授業です。質問は授業中もしくは終了後にいつでもして下さい。 また相談・連絡などは、原則的にメールでお願いします。</p> <p>寺田: mterada@shinshu-u.ac.jp 金井: makotok@shinshu-u.ac.jp 齋藤: saitoko@shinshu-u.ac.jp</p>	

科目名	国際保健論 International Health
担当教員	奥野 ひろみ ゴウ アーチェン
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	保健学専攻共通 / 1年次 前期 水曜・5時限
単位数、講義室	2単位 保健学科212講義室
授業概要	<p>This course will examine global health issues and international collaboration of health professionals.</p> <p>Following introductory lectures, students will choose themes of their own interests. They search for information through the Web and published literature, find differences and commonalities in health problems, health delivery systems or health professional roles among countries, and discuss further improvements for each of these issues.</p> <p>This course also explores examples of international collaboration and career development in the international society.</p> <p>Students can also get this course credit by attending the exchange program with Curtin University (Postgraduate course).</p>
一般学習目標G10(期待される学習効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>- To understand concurrent global health issues.</li> <li>- To realize diversity and universality of health problems, health systems and health professional roles in the world.</li> <li>- To identify themes of international collaboration in medical and health fields</li> </ul>
SBOs(行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>- To identify needs of international collaboration in students' own specialties.</li> <li>- To analyze health situations and related factors in selected health problems.</li> <li>- To identify obstacles and discuss possible solutions.</li> <li>- To explore examples of international collaborations and discuss applications in students' own fields.</li> <li>- To identify merits of international collaborations and discuss how each student will develop their careers in the international society.</li> </ul>
授業計画	<p>&lt;Course work&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Orientation, Introduction to international health</li> <li>2 International collaboration in developing countries (problem-based)</li> <li>3 International collaboration among health professional (profession-based)</li> <li>4-7 Group tutorials</li> <li>8 Plenary session: group presentations</li> <li>9-12 Group tutorials</li> <li>13 Plenary session: group presentations</li> <li>14 Career development in international society</li> <li>15 Course summary</li> </ol> <p>&lt;Exchange program&gt;</p> <p>Curtin University exchange program (August-September, three weeks)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Week 1: Orientation and English language studies</li> <li>Week 2: Professional studies</li> <li>Week 3: Visits to hospitals, nursing homes and clinical institutions.</li> </ul>
授業の進め方	<p>Group discussions</p> <p>Presentations</p> <p>Reports</p>
テキスト,教材,参考書	Will be introduced during the course.
成績評価の方法	<p>Lectures</p> <p>Group tutorials</p> <p>Presentations</p>
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	Students are encouraged to turn their eyes from their own place and settings to international and cross-cultural settings, examining familiar health issues from global points of views. We also encourage students to develop visions of their own career development in the international society related to their own professions.

科目名	保健医療福祉システム論 Lectures in Health Care Systems
担当教員	山崎 浩司 川口 典男, 下里 誠二
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	保健学専攻共通 / 1年次 前期 木曜・4時限 木曜・5時限
単位数、講義室	2単位 保健学科212講義室
授業概要	<p>保健医療福祉と呼ばれる領域は、その領域自体、様々な制度体系（医療関連法、社会保障関連法、公衆衛生）、専門体系（医療、保健、福祉）の絡み合うシステムであるが、同時に、司法システム、家族、市場など、保健医療福祉外の要素とも複雑に絡み合っている。</p> <p>本年度は、各教員の研究領域における保健医療福祉の制度を学ぶことに加え、司法との関係、他国との関係、市場との関係など、保健医療福祉の外にあるシステムとの関係についても考えていく。</p> <p>人数に応じて、文献抄読などを中心にしながら、講師が専門としている各々のディシプリン（学問分野）における基礎的な考え方・方法論を知ることを目指す。</p>
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健医療福祉システムの複雑さを理解できる。</li> <li>・複雑なシステムを前提に専門領域を考え直す。</li> </ul>
SB0s（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複雑なシステムの中で専門領域のあり方をとらえなおし、高度な専門的援助技術の開発へとつなげていくことができる。</li> </ul>
授業計画	<p>4/12 第1回 イントロ（山崎）</p> <p>4/19 第2回・3回 保健医療福祉政策：文献抄読1（山崎） 3、4限</p> <p>4/26 第4回・5回 保健医療福祉政策：文献抄読2（山崎） 3、4限</p> <p>5/10 第6回・7回 保健医療福祉政策：文献抄読3（山崎） 3、4限</p> <p>6/21 第8回・9回 精神障害者と犯罪（下里）</p> <p>6/28 第10回・11回 医療観察法による医療（下里）</p> <p>7/12 第12回・13回 介護保険制度改正と今後の課題（川口）</p> <p>7/19 第14回・15回 介護福祉サービスの特性・介護マンパワー不足の検討（川口）</p> <p>ただし、日程は、文献購読などの運営上および外部講師の予定などで、開講後に変更となる可能性がある。具体的には、他曜日の開講が入ること、3、4限の連続となることなどが考えられる。（変更の場合は、受講生に相談をして決定する）。</p> <p>上記日程にない木曜日は予備日とする。日程の変更や特別企画などを入れる可能性があるため、開講後日程が確定するまでは木曜日午後はあけておいてもらうことが望ましい。</p>
授業の進め方	<p>山崎浩司：概要の説明後、指定文献の報告担当を決めて内容のレポート、ディスカッション形式で行なう。</p> <p>下里誠二：講義、ディスカッション。</p> <p>川口典男：講義、小レポートなど。</p>
テキスト、教材、参考書	<p>山崎分（下記の文献などから適宜購読箇所を決める）</p> <p>矢野聡 2009『保健医療福祉政策の変容 官僚と新政策集団をめぐる攻防』ミネルヴァ書房</p> <p>など</p> <p>他、各講師が指定する。</p>
成績評価の方法	<p>すべての講師の企画する内容に参加し、要求された課題をこなしていることが最低条件。各講師が、それぞれの授業計画に基づき評価を行なう。</p> <p>その上で、最終的に3人の評価を総合して全体評価を行なう。</p>
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	<p>講義全体のことについては山崎まで。各回の内容については、各講師に質問してください。</p>

科目名	社会システム論
担当教員	辻 竜平
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	保健学専攻共通 / 1年次 前期 金曜・2時限
単位数、講義室	2単位
授業概要	イチロー・カワチらの『ソーシャル・キャピタルと健康』と近藤克則の『検証「健康格差社会」』を読み、その内容を社会的に検討するとともに、そこで用いられている質問紙調査の方法や統計分析の方法について批判的に学ぶ。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	ソーシャル・キャピタルと健康についての理論と実証結果を学ぶとともに、質問紙調査の方法や統計分析の方法について理解できるようになる。
SBOs（行動目標）	毎回、指定された章についてあらかじめ読んでおく。その際に、そこで用いられている調査票の作成法や統計分析についてもきちんと調べておく。授業時間には、統計分析なども含めて内容の理解を確認した上で、さまざまな側面から批判的に検討する。
授業計画	1～7回：イチロー・カワチらの『ソーシャル・キャピタルと健康』を読む 8～15回：近藤克則編著『検証「健康格差社会」』を読む（1回につき2章ずつ）
授業の進め方	最低限、初等統計学の範囲を学習済であること。具体的には、記述統計の基礎、推定と検定の考え方、{t検定、自乗検定、分散分析、回帰分析、因子分析}のうち最低3つ以上について学習したことがあること。
テキスト、教材、参考書	イチロー・カワチ, S.V. スブラマニアン, ダニエル・キム, 2008, 『ソーシャル・キャピタルと健康』日本評論社。 近藤克則（編）, 2007, 『検証「健康格差社会」』医学書院。
成績評価の方法	提出されたリーディング課題の内容のまとめ（5割）と授業参加（5割）による。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	来年度は、ソーシャル・キャピタルと健康といったテーマではなく、統計学を中心とした内容の予定。 質問・相談は、メールで行う（アドレスは初回授業時に伝える）。

科目名	地域の生活と福祉
担当教員	徳井 丞次
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	保健学専攻共通 / 1年次 後期(前半) 火曜・6時限 火曜・7時限
単位数、講義室	2単位
授業概要	<p>公共政策あるいは公共プロジェクトの政策評価が重視されるようになっていきます。こうした手法について詳しく知っておくことは、単に政策担当者に限らず、市民と立場からこうした手法を使って行われた政策評価を理解しまた批判的に検討するためにも必要です。政策評価には、有効性、効率性、公平性など様々な観点があります。こうした観点のなかで、この授業では、主として効率性の観点からの評価を中心に扱います。世の中には、公共政策のなかで効率性の観点を取り上げることにに対して偏見を持つ人もいます。しかし、われわれに限られた資源の世界で（あるいは、限られた予算の下で）公共政策を考える必要がある以上、複数のプロジェクトを、投入される費用対効果の観点から比較して優劣を判断することは必要なことです。</p> <p>こうした公共プロジェクトの効率性評価の手法の一つとして、費用便益分析が提案され応用されてきました。しかし、費用と便益をそれぞれ計算して評価すると一言で言ってしまう簡単ですが、この手法を真面目に適用しようとすれば、様々な難しい論点に直面します。この授業では、費用便益分析を中心に幾つかの公共プロジェクトの評価方法を、それらの基本的な考え方から解説します。</p>
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<p>公共政策あるいは公共プロジェクトの政策評価が重視されるようになっていきます。こうした手法について詳しく知っておくことは、単に政策担当者に限らず、市民と立場からこうした手法を使って行われた政策評価を理解しまた批判的に検討するためにも必要です。政策評価には、有効性、効率性、公平性など様々な観点があります。こうした観点のなかで、この授業では、主として効率性の観点からの評価を中心に扱います。世の中には、公共政策のなかで効率性の観点を取り上げることにに対して偏見を持つ人もいます。しかし、われわれに限られた資源の世界で（あるいは、限られた予算の下で）公共政策を考える必要がある以上、複数のプロジェクトを、投入される費用対効果の観点から比較して優劣を判断することは必要なことです。</p> <p>こうした公共プロジェクトの効率性評価の手法の一つとして、費用便益分析が提案され応用されてきました。しかし、費用と便益をそれぞれ計算して評価すると一言で言ってしまう簡単ですが、この手法を真面目に適用しようとすれば、様々な難しい論点に直面します。この授業では、費用便益分析を中心に幾つかの公共プロジェクトの評価方法を、それらの基本的な考え方から解説します。</p>
SBOs（行動目標）	<p>公共プロジェクトの代表的な評価である費用便益分析を中心に、幾つかの公共プロジェクトの評価方法を解説します。費用便益分析は、公共政策の費用と効果を金銭単位で評価する方法ですが、企業会計と同じではありません。企業会計とは異なって、市場取引では価格が付かない費用や便益を評価して考慮にいれる必要があります。こうした費用便益分析の考え方を、その基礎から説明します。また、こうした費用便益分析の限界を指摘するとともに、それに替わる幾つかの手法についても解説します。</p>
授業計画	この授業は隔年開講のため、平成24年度は開講されません。
授業の進め方	
テキスト、教材、参考書	第一回目の授業で紹介する。
成績評価の方法	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	

科目名	看護理論 Nursing Theory
担当教員	松永 保子
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学分野共通科目 / 1 年次 前期(集中) 集中・不定
単位数、講義室	2 単位 保健学科 2 1 2 講義室
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卓越した看護実践の基盤となる主要な諸理論の形成と体系化の歴史的変遷と発展の過程を概説する。</li> <li>・諸理論（ニーズ論、対人関係論、システム論、適応論、ケアリング等）は看護の臨床現場で出会う現象や看護実践にどのように活用されているのかを考察する。</li> <li>・看護の諸理論の批判的な吟味をとおして、看護教育・実践・研究における諸理論の活用と新たな看護理論の探求および看護学の発展への貢献の要素を検討する。</li> </ul>
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卓越した看護実践の基盤となる主要な諸理論の形成と体系化および特性の分析をとおして看護理論の歴史的変遷と発展の過程を説明できる。</li> <li>・看護の臨床現場で出会う現象や看護実践への諸理論の位置づけと活用について考察できる。</li> <li>・看護の諸理論の批判的な吟味をとおして、看護教育・実践・研究における諸理論の活用と新たな理論の探求および看護学の発展への貢献の要素を提案できる。</li> </ul>
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護理論の歴史的発展の変遷を概観し、看護モデルや理論と関連学問領域との関係について説明する。</li> <li>・看護モデルや理論はどのような哲学や概念にもとづき構成されているかを分析し、看護実践・教育・研究に適用していく際の利点と限界を説明する。</li> <li>・看護の視点から新たな理論を開発するために必要な要素を自分の言葉で述べる。</li> </ul>
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護理論の歴史的発展と変遷</li> <li>・看護哲学：ナイチンゲールの看護論、ヘンダーソンの看護の定義、ワトソンのケアリング</li> <li>・看護モデル：オレムのセルフケア理論、ニューマンのシステムモデル、ロイの適応モデル</li> <li>・看護理論：ユラとウォルツシュの看護過程、看護診断（NANDA-NOC-NIC）</li> <li>・中範囲理論：ペプローの人間関係援助論、トラベルビーの人間関係モデル、コルカバのコンフォート理論、他（ストレス理論、危機理論、悲嘆、コーピング理論、自己概念、自己効力、アンドラゴジー、病みの軌跡など）</li> </ul> <p style="text-align: center;">*実施日時については、後日指示する。</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義</li> <li>・プレゼンテーション</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>
テキスト、教材、参考書	<p>&lt;参考書&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アン・マリナー・トメイ、マーサ・レイラ・アリグット / 都留伸子監訳：看護理論家とその業績、医学書院、2004 .</li> <li>2. Hesook Suzie Kim / 上鶴重美監訳：看護学における理論思考の本質、日本看護協会出版会、2003 .</li> <li>3. Fawcett J. 太田喜久子、筒井真優美監訳：フォーセット看護理論の分析と評価、廣川書店、2001 .</li> <li>4. 城ヶ端初子監修：実践に生かす看護理論19、医学芸術社、2005 .</li> <li>5. 佐藤栄子編：事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論、日総研出版会、2005 .</li> <li>6. Peggy L. Chinn, : Integrated Knowledge Development in Nursing, Mosby-Year Book, Edited by Warren T. Reich: Encyclopedia of Bioethics Third Edition, Macmillan, 2003. における「care」および「nursing」の項</li> </ol> <p>その他、適宜、指示する。</p>
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席状況</li> <li>・プレゼンテーションの内容</li> <li>・ディスカッションへの貢献度</li> <li>・レポート</li> </ul>
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	<p>学生主体で授業を展開する。 プレゼンテーションの担当部分については、事前に資料を用意する。</p>

登録コード:MA710200		授業科目区分	選択科目
科目名	看護研究 Nursing Research		
担当教員	坂口 けさみ 五十嵐 久人, 山崎 浩司		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学分野共通科目 / 1年次	前期	月曜・3時限
単位数、講義室	2単位	保健学科2 2 1 講義室	
授業概要	看護における研究の意義と独自性、パラダイムによる前提の違いを理解した上で、研究課題に適合する看護理論もしくは概念枠組みを用いた実証主義的な研究デザイン、あるいは現象そのものに迫ろうとする自然主義的な研究デザインにおいて、適切に研究方法を選択する能力を身につける。クリティークを通して、研究計画、実施、分析、記述、論文作成のそれぞれの段階で、信頼性・妥当性もしくは信憑性・転用可能性などを高めるために研究者に求められる事柄を明確にする。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	看護における研究の意義と独自性について理解すると共に、研究課題を明らかにする研究方法について、適切な選択ができる能力を身につける。また得られたデータの適切な分析方法について選択できると共に、科学的な論文作成に必要な能力を身につける。		
SBOs（行動目標）	<p>量的研究の種類や特徴を理解し、その進め方について述べることができる。 研究デザインについて理解できる。 量的研究において得られたデータの分析方法について、適切な方法を選択すると共に、その内容について述べるができる。 科学的な論文作成方法について述べるができる。</p> <p>質的な研究の種類とその背景を理解し、分かりやすく説明する。 質的な研究課題とその課題に適した研究の種類を選択するにあたり、その根拠を述べる。 質的な研究の特徴を説明する。 量的な研究の各方法の概要と手順を説明する。 研究課題と研究遂行上の条件に応じ、適切な調査・分析方法を選択する。</p>		
授業計画	<p>（坂口 けさみ / 5回:4/9, 16, 23, 5/1, 7） 看護という現象をモデルないしは概念枠組みを用いて科学的に分析する一手法としての実験研究を取り上げ、実験研究の原理原則について学ぶと共に、様々な実験研究方法の看護領域への応用について論述する。</p> <p>（山崎 浩司 / 5回:5/14, 21, 28, 6/4, 11） 看護学と医療現場の研究における質的方法（ex.参加観察法、インタビュー法、資料分析、質的データの分析手法）の特徴について、特にそれぞれの方法の拠って立つ認識論の違いについて検討することを通じて、「量対質」という二分法に陥らない理解を目指す。また実際の研究の遂行に際して、「方法」を選択する前に重要となる、認識論の選択、問いの立て方などについても実習課題を通じて学ぶ。さらに、購読、実習、ゲスト講師による研究の実際についての報告を合わせることで質的研究実施の全体プロセスについてイメージを掴むことを目的とする。</p> <p>（五十嵐 久人 / 5回:6/18, 25, 7/2, 9, 23） 看護学と疫学研究との関係を視野においた研究課題と、量的研究方法との関係を論じる。研究課題に適した最良のデータ収集方法ならびにデータの特性に適した分析方法をどのように選定し、どのように結果を解釈するか論述する。</p>		
授業の進め方	坂口担当分は、一部講義、一部プレゼンテーションとディスカッションを行いながら進めていきます。 井口担当分は、担当者による講義、担当学生のプレゼンテーション・ディスカッション、ゲスト講師の講義などを行います。 五十嵐担当分は、担当学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心に進める予定です。		
テキスト、教材、参考書	<p>随時紹介します。なお手元にあると良いと思われる参考書は以下のとおりです。</p> <p>Polit DF, Beck CT. Nursing Research-Principles and Methods-7th ed. Lippincott W&amp;W, 2004. Creswell JW. Qualitative Inquiry and Research Design-choosing among Five Traditions. SAGE, 2006. Morse JM, Richards L. README FIRST for a User's Guide to Qualitative Methods. SAGE, 2002. D.F. ポリート, B.P. ハングラー, 押尾祥子他訳. 看護研究-原理と方法. 医学書院, 1994. (上記第3版の邦訳) よくわかる質的研究の進め方・まとめ方-看護研究のエキスパートをめざして. 医歯薬出版, 2007.</p>		
成績評価の方法	坂口：看護研究の理解度や姿勢・考え方等を総合的に評価したいと思います。 井口：演習での報告、セミナーでの討議への参加などで総合的に評価します。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	随時対応しようと思っておりますが、いないことが多いので事前にアポイントをおとりください。		

科目名	看護管理 Nursing Administration	
担当教員	上條 優子 松本 あつ子	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学分野共通科目 / 1年次	前期 月曜・4時限 月曜・5時限
単位数、講義室	2単位	保健学科131講義室
授業概要	個人と組織を統合するための管理の基礎的知識である組織理論、管理過程、意思決定、コンサルテーション、キャリア開発・発達など看護管理機能に関する基礎的理論を概観する。さらに、保健・医療・福祉の各組織において、看護管理者として看護サービスの質を保証し、組織目標を達成するために必要な人的資源開発・活用、リーダーシップなどに関する基礎的理論を活用し、看護サービスの質に影響を及ぼす現状の諸問題の分析、個人と組織の統合、組織変革を図る実践手法について、事例を通して探求する。加えて、看護の質向上を図るための評価システムと方法、看護事業所や看護部門の効果的な運営管理方法について探求する。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	基本的な管理と組織に関する知識を習得することにより、看護管理上の諸問題を「個人の問題」としてではなく、「管理・組織・システムの問題」として捉え直すことができる。	
SBOs（行動目標）	看護管理上の諸問題について、活用可能な理論を用いて、本質的な問題が特定でき、さらに問題解決の方策を立て、筋道を立てて、自分の言葉で説明することができる。	
授業計画	6月 4日(月) 4時限 1. 看護管理の要素とプロセスおよび理論（上條） 6月11日(月) 4時限 2. 組織論と職員配置（上條） 6月18日(月) 4時限 3. 質管理とTotal Quality Managementおよび情報管理（上條）  6月25日(月) 4時限 4. 看護サービスの実際（松本） 5時限 5. 看護管理の実際（松本） 6. 人材育成の実際（松本） 7月 2日(月) 4時限 7. 安全管理（上條） 5時限 8. コンサルテーション（上條） 7月 9日(月) 4時限 9. 動機づけ・リーダーシップ論・変革理論（上條） 5時限 10. DPCデータ分析（上條） 7月23日(月) 4時限 11. 看護管理における問題解決（上條） 5時限 12. 看護管理における問題解決（上條） 7月30日(月) 4時限 13. 看護管理における問題解決（上條） 8月 6日(月) 4時限 14. 小テスト（上條） 9月24日(月) 4時限 15. 看護管理上の諸問題（プレゼンテーション）	
授業の進め方	講義とディスカッションを中心として進める。	
テキスト、教材、参考書	・P.F. ドラッカー（上田惇生 田代正美訳）：非営利組織の経営、ダイヤモンド社、2001. ・井上富紀子 リコ・ドゥブランク：リッツ・カールトン20の秘密、オータパブリケーションズ、2011. ・森田孝子 松本あつ子：場面で学ぶ看護管理、メディカ出版、2008. ・井部俊子 他：看護管理学習テキスト 1～8巻、日本看護協会出版会、2004. ・Yoder-Wise: Leading and Managing in Nursing (4th ed.), MOSBY-ELSEVIER, 2007. ・相馬孝博(監訳) 上條優子：患者安全のシステムを創る-米国JCAHO推奨のノウハウ、医学書院、2006.	
成績評価の方法	1. 出席状況と授業への参加態度 2. プレゼンテーション 3. 小テスト 4. レポート  以上の4点を総合して評価する。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	主体的に受講することを期待します。 質問や相談、連絡などはe-mailでお願いします。 上條：ukamijo@shinshu-u.ac.jp	

科目名	看護教育学・基礎看護学特論 Special Lectures in Science of Nursing Education and Fundamental Nursing
担当教員	松永 保子 柳澤 節子, 小林 千世
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護教育学・基礎看護学領域 / 1年次 前期 月曜・1時限 月曜・6時限
単位数、講義室	2 単位
授業概要	教育学の基本的な概念・理念に基づき教育目的・目標の設定, 教育内容の精選・組織化, 教育課程の評価の視点から看護学教育について分析し, 高度な問題解決能力を身につけた看護実践者を育成できる看護教育課程の体系化を論じる。 さらに, 看護継続教育に関して, 看護職者が従事する施設の教育および看護継続教育機関の教育や看護者個々の学習を支援する看護継続教育を探求する。
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護教育の目的・目標の設定, 教育内容の精選・組織化, 教育課程の評価の視点から看護学教育について分析・考察する。</li> <li>・看護教育課程のカリキュラムについて分析・考察する。</li> <li>・看護継続教育プログラムについて分析・考察する。</li> </ul>
SBOs (行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護教育の目的・目標の設定, 教育内容の精選・組織化, 教育課程の評価の視点から看護学教育について説明できる。</li> <li>・看護教育課程のカリキュラムについて説明できる。</li> <li>・看護継続教育プログラムについて説明できる。</li> </ul>
授業計画	<p>1～5回 看護基礎教育におけるカリキュラムの構造の分析。 6～10回 継続教育における現任教育プログラムについての分析。 11～15回 看護基礎教育と継続教育との関連性についての分析・考察。 看護基礎教育と継続教育の今後の課題。</p> <p>* 実施日時については、後日指示する。</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義</li> <li>・VTR視聴</li> <li>・プレゼンテーション</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>
テキスト, 教材, 参考書	適宜, 指示する。
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席状況</li> <li>・プレゼンテーションの内容</li> <li>・ディスカッションへの貢献度</li> <li>・レポート</li> </ul>
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	学生主体で授業を展開する。 プレゼンテーションの担当部分については、事前にレジメを用意する。

登録コード:MA720200	授業科目区分	選択科目
科目名	看護教育学・基礎看護学方法特論 Special Seminar in Science of Nursing Education and Fundamental Nursing	
担当教員	松永 保子 柳澤 節子,小林 千世	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護教育学・基礎看護学領域 / 1年次 前期 月曜・2時限 月曜・7時限	
単位数、講義室	2 単位	
授業概要	<p>教育方法論および学習理論を活用しながら、看護実践力の向上につながる学習形態や教材の開発、看護学実習の展開を探究する。加えて、これらの理論を活用して、看護の対象が自ら健康的な生活へと価値観や認知・行動を変化することができるための教育方法と効果的で専門的な実践について探究する。</p> <p>1回から10回では、看護実践力の向上につながる看護基礎教育および継続教育において技術教育の内容、教育方法、教育評価に関して探究する。さらに対象の価値観や自己認知への教育的アプローチと行動変容に関して分析し、看護実践につながる専門的な方法を探究する。11回から15回では、がん、終末期などの患者・家族に対して教育理論や学習理論を活用して、自ら健康的な生活へと価値観や認知・行動を変化することができるための効果的な教育方法について探究する。</p>	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護実践力の向上につながる学習形態や教材開発、看護学実習の展開を探究する。</li> <li>・看護の対象が自らの価値観や認知、行動を変化させるための教育方法と専門的な実践について探究する。</li> <li>・看護基礎教育および継続教育における技術教育の内容、教育方法、教育評価について探究する。</li> <li>・対象の価値観や自己認知への教育的アプローチと行動変容について分析し、看護実践につながる専門的な方法を探究する。</li> <li>・患者・家族に対して教育理論や学習理論を活用し、自らの価値観や認知、行動を変化させるための効果的な教育方法について探究する。</li> </ul>	
SB0s（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護実践力の向上につながる学習形態や教材開発、看護学実習の展開を探究・考察できる。</li> <li>・看護の対象が自らの価値観や認知、行動を変化させるための教育方法と専門的な実践について探究できる。</li> <li>・看護基礎教育および継続教育における技術教育の内容、教育方法、教育評価について探究できる。</li> <li>・対象の価値観や自己認知への教育的アプローチと行動変容について分析し、看護実践につながる専門的な方法について探究できる。</li> <li>・患者・家族に対して教育理論や学習理論を活用し、自らの価値観や認知、行動を変化させるための効果的な教育方法について探究できる。</li> </ul>	
授業計画	<p>1～5回 看護基礎教育および継続教育における技術教育の内容、教育方法、教育評価に関して探究・考察する。</p> <p>6～10回 対象の価値観や自己認知への教育的アプローチと行動変容に関する分析や看護実践につながる専門的な方法を探究する。</p> <p>11～15回 患者・家族についての教育理論や学習理論を講義する。 健康的な生活へと価値観や認知・行動を変化することができるための教育理論や学習理論を活用した効果的な教育方法について事例を通して探究する。</p> <p>*実施日時については、後日指示する。</p>	
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義</li> <li>・VTR視聴</li> <li>・プレゼンテーション</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>	
テキスト、教材、参考書	適宜、指示する。	
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席状況</li> <li>・プレゼンテーションの内容</li> <li>・ディスカッションへの貢献度</li> <li>・レポート</li> </ul>	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	<p>学生主体で授業を展開する。 プレゼンテーションの担当部分については、事前にレジメを用意する。</p>	

科目名	看護教育学・基礎看護学演習 Practice in Science of Nursing Education and Fundamental Nursing
担当教員	松永 保子 柳澤 節子, 小林 千世
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護教育学・基礎看護学領域 / 1年次 後期 月曜・1時限 月曜・6時限
単位数、講義室	2単位
授業概要	基礎看護教育の講義・演習への参加を通して、看護学教育課程や看護学教育方法、看護教育制度における課題を明確にする。課題を解明する上で必要な論理的、系統的、組織的研究を行う基礎的能力を修得するために、学生の関心領域あるいは重要課題を探求する。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学教育課程や看護学教育方法，教育制度における疑問・課題を明確にする。</li> <li>・課題解明のために必要な論理的，系統的，組織的研究を行う基礎的能力を修得する。</li> </ul>
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学教育課程や看護学教育方法，教育制度における疑問・課題を明確にできる。</li> <li>・論理的，系統的，組織的研究を行う基礎的能力を修得できる。</li> </ul>
授業計画	<p>1～5回 課題を解明する上で必要な論理的，系統的，組織的研究を行う基礎的能力を修得する。</p> <p>6～10回 基礎看護教育の講義・演習への参加を通して，看護学教育課程や看護学教育方法，教育制度における課題を分析する。</p> <p>11～15回 学生の関心領域あるいは重要課題について探求する。</p> <p>*実施日時については、後日指示する。</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義</li> <li>・演習</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>
テキスト，教材，参考書	適宜，指示する。
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席状況</li> <li>・ディスカッションの内容および貢献度</li> <li>・レポート</li> </ul>
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	

科目名	看護教育学・基礎看護学演習 Practice in Science of Nursing Education and Fundamental Nursing
担当教員	松永 保子 柳澤 節子, 小林 千世
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護教育学・基礎看護学領域 / 1年次 後期 月曜・2時限 月曜・7時限
単位数、講義室	2単位
授業概要	看護基礎教育における効果的な看護学実習の展開について基礎・成人・老年看護学領域の実習をもとに、看護学各領域に共通した実習展開を探究する。さらに看護教育における臨地実習の教授＝学習活動場面を学習者の視点から分析し、教育上の課題を見出し解決する教育方法と臨床における指導的役割を果たす教育方法を探究する。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果的な看護学実習の展開について看護学各領域に共通した実習展開を探究・分析する。</li> <li>看護教育における臨地実習の教授＝学習活動場面を学習者の視点から分析する。</li> <li>教育上の課題を見出し解決する教育方法を探究する。</li> <li>臨床における指導的役割を果たす教育方法を探究する。</li> </ul>
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護学各領域に共通した実習展開について分析できる。</li> <li>臨地実習の教授＝学習活動場面を学習者の視点から分析できる。</li> <li>教育上の課題を見出し解決する教育方法を見出すことができる。</li> <li>臨床における指導的役割を果たす教育方法を見出すことができる。</li> </ul>
授業計画	<p>1～5回 臨地実習の教授＝学習活動場面を学習者の視点から分析する。 6～10回 基礎看護学領域の実習に参加し、学習者の視点から観察する。 11～15回 参加・観察した実習展開について考察し、課題を抽出する。</p> <p>*実施日時については、後日指示する。</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義</li> <li>実習</li> <li>ディスカッション</li> </ul>
テキスト、教材、参考書	適宜、指示する。
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>出席状況</li> <li>ディスカッションの内容および貢献度</li> <li>レポート</li> </ul>
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	

科目名	看護教育学・基礎看護学特別研究 Research Thesis (Master's) in Science of Nursing Education and Fundamental Nursi
担当教員	松永 保子 柳澤 節子, 小林 千世
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護教育学・基礎看護学領域 / 2年次 通年 月曜・3時限 月曜・4時限・不定
単位数、講義室	10単位
授業概要	看護教育学領域に関する研究テーマを設定し、適切な研究方法を選択して研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、研究論文を完成させる。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護教育学領域に関する研究テーマを設定する。</li> <li>適切な研究方法を選択して研究計画書を作成する。</li> <li>データ収集・分析を行い、研究論文を完成する。</li> </ul>
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究テーマを設定できる。</li> <li>適切な研究方法を選択して研究計画書が作成できる。</li> <li>倫理委員会提出用の書類が作成できる。</li> <li>データの収集ができる。</li> <li>データの分析ができる。</li> <li>研究論文を作成することができる。</li> <li>研究成果のプレゼンテーションができる。</li> </ul>
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>文献講読会と研究ミーティングに基づいた研究テーマの設定</li> <li>研究計画の立案</li> <li>研究計画書の作成</li> <li>倫理委員会提出用書類の作成</li> <li>調査・実験の実施</li> <li>研究データの収集およびその処理</li> <li>修士論文の作成</li> <li>研究成果のプレゼンテーション</li> </ul> <p>* 実施日時については、後日指示する。</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディスカッション</li> <li>プレゼンテーション</li> </ul>
テキスト、教材、参考書	適宜、指示する。
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>出席状況</li> <li>研究への取り組み</li> <li>ディスカッションの内容</li> <li>プレゼンテーションの内容</li> <li>修士論文作成状況</li> <li>修士論文</li> </ul>
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	

登録コード:MA722100	授業科目区分	選択科目
科目名	成人・老年看護学特論 Special Lectures in Adult and Geriatric Nursing	
担当教員	本郷 実 寺田 克, 牛田 貴子, 山崎 浩司	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 1年次	前期 月曜・1時限 月曜・6時限
単位数、講義室	2 単位	
授業概要	成人期・老年期の看護実践を検討するうえで基盤となるさまざまな課題について取り上げ、問題の所在を多角的に捉え理解を深めることにより、保健・医療・福祉の現場における成人看護学、老年看護学の諸課題に関する情報収集・分析能力、および専門分野の高度な実践能力および研究能力の素地を培う。 *本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいます。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	1．とりあげた各課題について理解を深め、成人期・老年期にある人の健康課題の所在とその捉え方について視野を広げる。 2．保健・医療・福祉の現場における成人看護学、老年看護学の諸課題について、各自の臨床経験と照らしつつ理解を深める。	
SBOs（行動目標）	1．成人期・老年期にある人の病態解析学の方法論に関して、その特徴を説明する。 2．複雑な医療保健福祉システムにおける成人期・老年期にある人への援助技術をとらえなおし、専門的援助技術の開発との関連を説明する。 3．臨床における具体的な倫理的課題の対応方法を学び、自らの倫理的課題に対する意識を吟味し考察する。	
授業計画	<p>（本郷実 / 3回） 生活習慣病における臨床的課題 生活習慣病における臨床的課題 生活習慣病における臨床的課題</p> <p>（寺田克 / 4回） 外科疾患に対する看護上の課題と対策 外科疾患に対する看護上の課題と対策 外科疾患に対する看護上の課題と対策 外科疾患に対する看護上の課題と対策</p> <p>（山崎浩司 / 3回） 成人期・老年期における医療・福祉に関する社会科学的課題 成人期・老年期における医療・福祉に関する社会科学的課題 成人期・老年期における医療・福祉に関する社会科学的課題</p> <p>（牛田貴子 / 5回） 成人期・老年期にある人への看護実践における倫理的課題 看護師の責務と看護師の意志決定 生活の場の決定に関する倫理的課題 治療・処置・検査等に関する倫理的課題 虐待に関する倫理的課題 認知症に関する倫理的課題</p> <p>*実施日程に関しては、後日お知らせします。</p>	
授業の進め方	講義、討議、プレゼンテーションなど。	
テキスト、教材、参考書	<p>（本郷 実） 本郷実編：内科学Handbook、信州大学 井村裕夫他編：わかりやすい内科学、文光堂</p> <p>（寺田 克） とくに指定しない</p> <p>（山崎 浩司） 適宜指示する</p> <p>（牛田 貴子） テキスト ・杉谷藤子・川合政恵 監修：『看護者の倫理綱領』で読み解く、ベッドサイドの看護倫理事例 30、日本看護協会出版会、2007 ・日本看護協会編：日本看護協会看護業務基準集 2007年改訂版、日本看護協会出版会、2007 参考書 ・高崎絹子 監修 岸恵美子・小長谷百絵・小野ミツ 編：実践から学ぶ高齢者虐待の対応と予防、日本看護協会出版会、2010 ・箕岡真子：認知症ケアの倫理、ワールドプランニング社、2010</p>	
成績評価の方法	各講師が、それぞれの授業計画に基づき評価を行う。 その上で、講師全員の評価を総合して全体評価を行う。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	講義全体に関する質問、相談は牛田まで tushida@shinshu-u.ac.jp 各回の内容については、各講師に質問してください。	

登録コード:MA722200		授業科目区分	選択科目
科目名	成人・老年看護学方法特論 Special Seminar in Adult and Geriatric Nursing		
担当教員	本郷 実 寺田 克, 牛田 貴子		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 1年次	前期	月曜・2時限 月曜・7時限
単位数、講義室	2単位		
授業概要	生涯発達論を基盤として、成人期・老年期にある対象者と看護提供者自らの理解を深める。さらに、中範囲理論を用いた成人期・老年期の事例分析体験を通して、医療・保健・福祉の現場における科学的根拠に基づく臨床問題解決能力および情報発信能力・参画力の素地を培う。 *本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいます。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	1．生涯発達という観点から、成人期・老年期にある人と自己との間で作る看護について、再確認する。 2．対象理解と看護介入について、中範囲理論を用いて成人期・老年期の看護を必要とする現象を分析し、臨床における看護実践を再考する。		
SBOs（行動目標）	1．成人期・老年期にある人を生涯発達論から捉え直し、看護の対象者の理解について考察する。 2．看護提供者である自己に関しても、生涯発達論から捉え直し、看護の対象者の理解について考察する。 3．各自の臨床経験をベースとした事例検討をもとに、研究手法としての中範囲理論の活用の仕方を説明する。 4．中範囲理論を用いて成人期・老年期の看護を必要とする現象の分析と、その時その場での看護師の課題解決について、口頭またはレポートで示す。		
授業計画	第1回～5回 生涯発達論を用いた成人期・老年期にある対象者と看護提供者自らの理解 ・生涯発達論からみた成人期、老年期の特徴 ・サクセスフルエイジングと疾病・障害、要介護・要支援 ・生涯発達論の視座と個性 第6回～15回 中範囲理論を用いた成人期・老年期の看護を必要とする現象と看護介入の分析 ・保健行動的中範囲理論を用いた事例検討 ・認知的中範囲理論を用いた事例検討 ・情緒的中範囲理論を用いた事例検討 ・社会的中範囲理論を用いた事例検討 ・統合的中範囲理論を用いた事例検討 ・プレゼンテーション *実施日程に関しては、後日お知らせします。		
授業の進め方	講義、討議、プレゼンテーションなど		
テキスト、教材、参考書	テキスト ・服部祥子：生涯人間発達論 第2版、医学書院、2010 ・黒田裕子：看護診断のためのよくわかる中範囲理論、学研、2009 参考書 ・日本看護協会編：日本看護協会看護業務基準集 2007年改訂版、日本看護協会出版会、2007		
成績評価の方法	授業および討議への参加姿勢、プレゼンテーション、レポートによる総合評価		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	講義の進め方、内容等に関する質問、相談は、牛田にメール連絡を願います。		

	授業科目区分	選択科目
科目名	成人看護学演習 Practice in Adult Nursing	
担当教員	深澤 佳代子 近藤 由香, 寺内 英真	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 1年次	後期 月曜・1時限 月曜・6時限
単位数、講義室	2単位	
授業概要	成人看護学領域における様々な問題点を中心に国内外の文献を講読し、研究課題に関する精選を行う。 (平成24年度は開講しない)	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	成人看護学領域の文献の中から学生自身の研究課題とする分野を明確にする。	
SBOs(行動目標)	国内外の成人看護学領域の文献をレビューし、クリティークができる。	
授業計画	担当教員が成人看護学領域の研究の動向をプレゼンテーションを行い、それについてディスカッションを行う。 また、学生自身が今まで着手した研究についてプレゼンテーションし、それについてディスカッションを通して自分の研究分野を明確にしていく。	
授業の進め方	プレゼンテーションならびにディスカッションで進めていく。	
テキスト, 教材, 参考書	随時提示する。	
成績評価の方法	授業参加度、出席日数等から総合判断する。	
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応		

	授業科目区分	選択科目
科目名	成人看護学演習 Practice in Adult Nursing	
担当教員	深澤 佳代子 近藤 由香, 寺内 英真	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 1年次	後期 月曜・2時限 月曜・7時限
単位数、講義室	2単位	
授業概要	成人看護学演習Iで精選した研究課題に関して、それを実施するための調査・測定・分析方法等について論究し、研究に必要な各種条件を整える。 (平成24年度は開講しない)	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	成人看護学演習 をもとに、自分の研究課題を焦点化する。	
SBOs(行動目標)	国内外の文献を精査し、それらの研究手法を学ぶ。	
授業計画		
授業の進め方	プレゼンテーションならびにディスカッション。	
テキスト, 教材, 参考書	随時提示する。	
成績評価の方法	授業参加度および出席日数等から総合的に判断する。	
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応		

科目名	成人看護学特別研究 Research Thesis (Master's) in Adult Nursing
担当教員	寺田 克
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 2 年次 通年 月曜・3 時限 月曜・4 時限・不定
単位数、講義室	10 単位
授業概要	成人看護領域における研究テーマを設定し、適切な研究方法を用いて研究を行い、修士論文を完成させる。 (平成24年度は開講しない)
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	1. 成人看護領域に関する研究テーマを設定する。 2. 適切な研究方法を設定し、研究計画書を作成する。 3. データの収集・分析を行い、研究論文を完成させる。
SBOs (行動目標)	1. 研究テーマを設定できる。 2. 適切な研究方法を設定し、研究計画書を作成することができる。 3. 倫理委員会提出用書類の作成ができる。 4. データの収集と分析を行うことができる。 5. 研究論文を作成することができる。 6. 研究成果のプレゼンテーションができる。
授業計画	1. 関心領域に関連した文献検索と購読会 2. 研究テーマに関するミーティングと研究計画書の立案 3. 研究計画書の作成 4. 倫理委員会提出用書類の作成 5. 調査・研究の実施 6. データ収集・分析 7. 修士論文の作成 8. 研究成果のプレゼンテーション資料の作成とプレゼンテーション
授業の進め方	プレゼンテーションとディスカッションに基づいて進める。
テキスト, 教材, 参考書	特に指定しないが、研究課題に従って適宜紹介する。
成績評価の方法	授業計画各プロセスの取り組み状況、論文内容により総合的に評価する。 論文内容に関しては複数査読者に意見を求める。
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	

科目名	成人看護学特別研究 Research Thesis (Master's) in Adult Nursing
担当教員	深澤 佳代子
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	通年 月曜・3時限 月曜・4時限・不定
単位数、講義室	10単位
授業概要	成人看護領域における研究テーマを設定し、適切な研究方法を用いて研究を行い、修士論文を完成させる。 (平成24年度は開講しない)
一般学習目標G10(期待される学習効果)	研究テーマの設定から、研究論文作成の一連の過程を通し、研究者としての態度および基礎的能力、論理的思考を育成する。
SBOs(行動目標)	研究テーマを設定できる。 自分の研究テーマについて適切な研究デザインを選択し、研究計画書を作成できる。 研究者としての倫理的態度を修得できる。 研究計画に沿って、研究を行うことができる。 一貫性のある論理的な研究論文を完成できる。 論文を学会等で公表できる。
授業計画	研究計画書の作成 研究の実施 論文作成 学会および学会誌への発表の準備
授業の進め方	プレゼンテーション 研究指導
テキスト,教材,参考書	適宜提示する
成績評価の方法	論文作成の過程および論文内容を総合的に判断する
学生へのメッセージ並びに質問,相談への対応	

登録コード:MA726100	授業科目区分	選択科目
科目名	老年看護学演習 Practice in Geriatric Nursing	
担当教員	本郷 実 牛田 貴子	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 1年次	後期 月曜・1時限 月曜・6時限
単位数、講義室	2 単位	
授業概要	<p>老年看護に特有な知識、技術を取りあげ、高齢者理解と看護実践力について探求し、老年看護学の深い学識に基づいた高度な実践能力と研究センスを磨く。老年期のあらゆる健康レベルにある個人や家族、集団を対象に提供されている看護実践について検討し、援助のあり方や方法の革新について学修する。</p> <p>*本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいます。</p>	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．人々が持つ高齢者観とそれへの影響因子について理解する。</li> <li>2．さまざまな高齢者の生活機能評価のケアへの活かし方を理解する。</li> <li>3．老年看護学に特有な知識、技術の開発の背景、根拠、その適応と援助方法の実際を、体験的に理解する。</li> <li>4．実践した技術提供の効果と課題について検討し、あらゆる健康レベルにある個人や家族、集団を対象に提供する場合の適用とケアの工夫に関して明らかにする。</li> </ol>	
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．高齢者自身と家族、自らも含めたケア提供者の高齢者観とそれへの影響因子について実感し、比較する。</li> <li>2．さまざまな高齢者の生活機能評価について説明する。</li> <li>3．老年看護学に特有な知識、技術について説明する。</li> <li>4．高齢者の生活機能評価と老年臨床心理学を応用した技術の両面から、高齢者への援助を考え提供する。</li> <li>5．高齢者への技術提供の効果と課題を明確にし、新たな援助方法の円滑な導入に向けた試案を立案し提示する。</li> </ol>	
授業計画	<p>1回～5回 高齢者観の変容と教育支援</p> <p>6回～15回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ QOL、ADLの評価、認知機能の評価と看護実践</li> <li>・ 語りを聴く技術、語りから再構築する技術、生活と記憶を紡ぐ技術と看護実践</li> <li>・ 家族機能、ケア負担感等の評価、家族をつなぐ技術と看護実践</li> <li>・ プレゼンテーション</li> </ul> <p>*実施日程に関しては、後日お知らせします。</p>	
授業の進め方	講義、討議、プレゼンテーションなど。看護実践の記録は、各自の実践を用いる。	
テキスト、教材、参考書	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 矢原隆行ほか：ナラティブからコミュニケーションへ リフレクティング・プロセスの実際、弘文堂、2008</li> <li>・ 黒川由紀子ほか：老年臨床心理学、有斐閣、2005</li> <li>・ 牛田貴子 ケア場面における家族看護、SMS、2009</li> <li>・ 鳥羽研二：高齢者の生活機能の総合的評価、新興医学出版社、2010</li> </ul> <p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水野裕：実践パーソン・センタード・ケア、ワールドプランニング、2008</li> <li>・ 野村豊子：回想法とライフレビュー、中央法規、1998</li> <li>・ 木下康二、小倉啓子：ケア場面における心理臨床の質的研究 高齢者介護施設利用者の生活適応プロセス、弘文堂、2007</li> <li>・ Dagmar H.Mueller, Verena Ballhaus, ささきたづこ訳：忘れても好きだよおばあちゃん、あかね書房、2006</li> </ul>	
成績評価の方法	授業および討議への参加姿勢、プレゼンテーション、レポートによる総合評価	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	講義の進め方、内容等に関する質問、相談は、牛田にメール連絡をお願いします。	

登録コード:MA726200		授業科目区分	選択科目
科目名	老年看護学演習 Practice in Geriatric Nursing		
担当教員	本郷 実 牛田 貴子		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 1年次	後期	月曜・2時限 月曜・7時限
単位数、講義室	2単位		
授業概要	<p>老年看護学演習 の学修をもとに、あらゆる生活の場における高齢者とその家族、介護者の健康生活への課題について探求する。さらに保健・医療・福祉連携による高齢者ケアチームにおける専門性を発揮した看護支援技術について検討し、他(多)職種共同の現場における情報発信能力・参画力、研究推進能力の素地を培う。</p> <p>*本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいます。</p>		
一般学習目標G10(期待される学習効果)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者が生活するさまざまな場と移行に関連する健康課題について理解する。</li> <li>2. 高齢者の居場所づくりの取り組みの現状と課題について理解し、高齢者が安心して暮らせる「場」について検討する。</li> <li>3. 福祉職による医療行為の実施問題に関しても触れつつ、保健・医療・福祉連携による高齢者ケアチームにおける看護の専門性とは何かについて明らかにする。</li> <li>4. 看護の専門性を発揮した高齢者ケアチームにおける教育的取り組みに関して検討する</li> </ol>		
SBOs(行動目標)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の健康と生活に関する統計データを吟味し、現代と将来の高齢社会の課題を、高齢者が生活するさまざまな場と移行に焦点をあてて整理する。</li> <li>2. 多様な高齢者の生活の場について、その特徴を「高齢者の居場所」と「安心して暮らせる場」を軸に検討し、課題を見つける。</li> <li>3. 福祉職による医療行為の実施に関して、問題の所在と展望について整理する。</li> <li>4. 保健・医療・福祉連携による高齢者ケアチームにおける看護の専門性とは何か、様々な事例を挙げ、説明できる。</li> <li>5. 保健・医療・福祉連携による高齢者ケアチームにおいて、教育が必要と思われる内容に関して継続教育を実施することを想定し、教育立案して提示する。</li> </ol>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1回～3回 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の健康と生活に関する統計データを検討する</li> </ul> </li> <li>4回～9回 <ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな生活の場に応じた高齢者の居場所づくりの実践</li> <li>・高齢者ケアチームにおける看護の専門性と組織の課題解決にむけた共働</li> <li>・福祉職による医療行為の実施</li> </ul> </li> <li>10回～15回 <ul style="list-style-type: none"> <li>・他(多)職種連携における看護専門職としてのケアチームへの情報発信と研究推進</li> </ul> </li> </ol> <p>*実施日程に関しては、後日お知らせします。</p>		
授業の進め方	講義、討議、プレゼンテーションなど		
テキスト、教材、参考書	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・厚生統計協会：国民衛生の動向、2012 / 2013年版(8月発売予定)</li> <li>・内閣府：平成23年度版 高齢社会白書(全文 / PDF形式)、2011</li> <li>・全国老人保健施設協会編：介護白書 平成23年度、TAC出版、2011</li> <li>・日本看護協会編：日本看護協会看護業務基準集 2007年改訂版、日本看護協会出版会、2007</li> </ul> <p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外山義：自宅でない住宅 高齢者の生活空間論、医学書院、2003</li> <li>・大内俊一：現代福祉施設経営革命、筒井書房、2001</li> <li>・高口光子：ユニットケアという幻想、雲母書房、2004</li> <li>・広井良典：ケア学 越境するケアへ、医学書院、2000</li> </ul>		
成績評価の方法	授業および討議への参加姿勢、プレゼンテーション、レポートによる総合評価		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	講義の進め方、内容等に関する質問、相談は、牛田にメール連絡を願います。		

科目名	老年看護学特別研究 Research Thesis (Master's) in Geriatric Nursing
担当教員	本郷 実
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 2年次 通年 月曜・3時限 月曜・4時限・不定
単位数、講義室	10単位
授業概要	老年看護の質向上に貢献しうる研究課題に取り組み、研究論文を作成する。研究過程をとおして看護実践者および研究者としての倫理観、老年看護の特徴や専門性、高齢者ケア提供システムの実際等について再検討を行う。(本年度は開講しない)
一般学習目標G10(期待される学習効果)	
SBOs(行動目標)	
授業計画	
授業の進め方	
テキスト,教材,参考書	
成績評価の方法	
学生へのメッセージ並びに質問,相談への対応	

科目名	老年看護学特別研究 Research Thesis (Master's) in Geriatric Nursing
担当教員	牛田 貴子
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 2年次 通年 月曜・3時限 月曜・4時限・不定
単位数、講義室	10単位
授業概要	<p>老年看護の質向上に貢献しうる研究課題に取り組み、研究論文を作成する。研究過程をとおして看護実践者および研究者としての倫理観や、老年看護の特徴・専門性・高齢者ケア提供システム等に関して、培ってきた情報収集・分析能力を用いて再検討するとともに、保健・医療・福祉の現場における情報発信能力・参画力、研究推進能力を養う。</p> <p>*本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいます。</p>
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．老年看護学への興味・関心から研究テーマの絞込み～研究成果の公表までの一連の研究過程を、研究倫理に基づいて実施する。</li> <li>2．研究過程において、老年看護の特徴・専門性・高齢者ケア提供システム等に関するこれまでの学修成果を再検討する。</li> <li>3．今後の老年看護実践および研究活動に対して、見通しを持つ。</li> </ol>
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．興味・関心のある老年看護実践に関連する批判的文献検討を集積し、関連諸科学等も含めた広い視野を持ちつつ、老年看護の質向上に貢献しうる研究課題を精選する。</li> <li>2．研究テーマに適した研究方法について熟考する。</li> <li>3．研究協力施設および研究協力者との調整・交渉、実施中の配慮、謝意表明等を行い、協力関係を維持する。</li> <li>4．研究者、看護職者として倫理的に望ましい行動をとる。</li> <li>5．研究計画書に基づいて研究過程を遂行し、論文を作成する。</li> <li>6．学内、研究協力施設、関連施設等において、研究成果を発信する。</li> </ol>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．文献クリティーク、関連研究動向の整理</li> <li>2．フィールドワーク</li> <li>3．研究課題の意義、リサーチクエスションの設定</li> <li>4．研究計画の作成と倫理審査、研究協力者への説明・同意確認</li> <li>5．研究計画に基づく、データ収集、分析、考察</li> <li>6．論文作成と学内、研究協力施設、関連施設等における公表</li> <li>7．研究過程のふりかえりと今後の研究課題の明確化</li> </ol> <p>*実施日程に関しては、後日お知らせします。</p>
授業の進め方	学習進度によってグループ指導、個別指導を行います。
テキスト、教材、参考書	適宜、紹介します。
成績評価の方法	授業および討議への参加姿勢、研究過程、論文内容、発表等による総合評価
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	<p>学習進度によって、柔軟に授業形態や方法を変えていきます。これまでの学修と臨床経験の集大成を、論文の形として表現することを支援します。</p> <p>進め方、内容に関する質問、相談は、牛田にメール連絡を願います。</p>

科目名	母子看護学特論 Special Lectures in Child and Women's Health Nursing
担当教員	坂口 けさみ 市川 元基, 金井 誠, 寺田 克, 本郷 実, 阪口 しげ子
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子看護学領域 / 1年次 前期 月曜・1時限 月曜・6時限
単位数、講義室	2単位
授業概要	周産期及びその前後のライフステージにおける子どもと女性の健康と人間の反応に関する看護実践, 研究, 教育について, 生活習慣と血栓症などの視点や感染免疫学, 臓器移植との関連も踏まえ, 先進医療に関する理解を深める。生理的指標や尺度を用いた看護研究並びに実践及び教育の基礎能力を修得し, 母子に関わる優れた実践能力並びに研究能力の素地を培う。
一般学習目標G10(期待される学習効果)	母子に関するケアの質の向上を目指し, 国内外の看護実践や研究, 教育における講義を通して, 優れた実践能力並びに研究能力の素地を培う。
SBOs(行動目標)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親と子の絆の形成メカニズムを理解すると共に, 根拠に基づいた必要なケアについて述べるができる。</li> <li>2. 思春期から更年期における健康問題について理解すると共に, 必要な支援ができる。</li> <li>3. 女性のライフサイクルの変化を理解し, 生活習慣病を含め様々な健康指導を実践できる。</li> <li>4. 妊婦における静脈血栓塞栓症のリスク要因を明らかにし, 妊産婦の血栓症予防対策を実践できる。</li> <li>5. 生体の感染防御システムである免疫系の役割について看護職者の立場から理解することができる。</li> <li>6. 男性不妊症について看護職者の立場から理解することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>(坂口 けさみ / 4回:4/9, 16, 23, 5/1)</p> <p>周産期における母性行動・父性行動の発現メカニズム, 及びその後のライフステージにおける排泄障害など, 女性の健康と人間の反応に対する看護の研究, 実践, 教育について, 調査研究や分子生物学的手法ならびに生理学的指標を用いた観点から探究する。</p> <p>(阪口 しげ子 / 3回:5/7, 14, 21)</p> <p>周産期以前のライフステージ, 特に思春期における女性と子どもの健康と人間の反応に対する看護の研究, 実践, 教育について, 主に月経や月経随伴症状, 及び食生活と栄養の観点から論述する。</p> <p>(金井 誠 / 2回:5/28, 6/4)</p> <p>妊婦と静脈血栓塞栓症, および女性の健康と生活習慣病を中心に女性の健康にかかわる先進医療をはじめとした優れた看護研究, 実践, 教育に必要な医学的な基礎を論述する。</p> <p>(市川元基 / 2回:6/11, 18)</p> <p>生体の感染防御システムである免疫系の役割を中心に, 子どもの健康にかかわる先進医療をはじめとした優れた看護研究, 実践, 教育に必要な医学的な基礎を論述する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児の感染防御機構</li> <li>2. 原発性免疫不全症</li> </ol> <p>(寺田 克 / 2回:6/25, 7/2)</p> <p>男子不妊症の原因となる疾患についての医学的な基礎について論述する。また原因の1つである停留睪丸については, 睪丸下降のメカニズムをもとに実験研究を主体とした医学的なアプローチについて論述する。</p> <p>(本郷 実 / 2回:7/9, 23)</p> <p>青少年と生活習慣病について論述する。</p>
授業の進め方	講義形式
テキスト, 教材, 参考書	必要なテキスト, 教科書等は随時紹介する。
成績評価の方法	学生の理解度や姿勢を総合的に評価したいと思います。
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	質問は授業中もしくは終了後いつでもおいで下さい。なお不在のこともありますので, 事前に連絡を取っていただくとありがたいです。

登録コード:MA730200	授業科目区分	(CNSコース)選択科目
科目名	母子看護学支援特論 Special Lectures for Caring in Child and Women's Health Nursing	
担当教員	坂口 けさみ 阪口 しげ子, 玉井 真理子, 鈴木 泰子	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子看護学領域 / 1年次	前期 月曜・2時限 月曜・7時限
単位数、講義室	2単位	
授業概要	小児保健・看護学並びにリプロダクティブ・ヘルスの概念と、諸外国並びに我が国における情勢を含めた臨床的課題と支援のための関連分野の諸理論ならびに実践について探求する。また、遺伝子診断や不妊治療、ハイリスク新生児医療などの進歩という実情をふまえた子どもと女性と家族の健康にかかわる看護についての論点を探求する。EBN, NBMと症例報告について理解し、実践と研究とを関連づける能力を培う。	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	小児保健・看護学の概念と主要課題について説明する。 リプロダクティブ・ヘルスの概念の発展過程とその主な批判点を説明する。 性と生殖に関する臨床問題の背景と具体的実践について説明する。 性と生殖に関する医療ならびに技術の進歩がもたらしている倫理的論点を説明する。 臨床倫理を事例に適用して分析し、看護の視点を持つ。	
SBOs(行動目標)	小児保健・看護学並びにリプロダクティブヘルス・ライツの概念を、歴史的背景と世界の動向を踏まえて説明する。 性と生殖と社会との関係について論じる。 性と生殖に関連する臨床的問題と支援について論じる。 EBN, NBM, 症例報告がこれからの子ども・女性・家族の看護における知の発展にどう貢献できるかを論じる。また、実践の中でどのように活かしていけるかについて論じる。 臨床倫理を事例に適用して分析し、看護の視点から自分の意見を述べる。	
授業計画	第1~3回 4/9, 4/16, 4/23 リプロダクティブヘルス・ライツ 坂口 第4~6回 5/1, 5/7, 5/14 小児保健・看護学からみた臨床的問題1 阪口 (月経, 生活習慣病, 食指導など) 第7~9回 5/21, 5/28, 6/4 ライフサイクルにおける臨床的問題 坂口 (月経, 尿失禁, 婦人科, DVなど) 第10~12回 6/11, 6/18, 6/25 心理医療と倫理的課題 玉井 (遺伝, 出生前診断, ART, 重症新生児など) 第13~14回 7/2, 7/9, 7/23 小児保健・看護学からみた臨床的問題2 鈴木 初回時に日程の詳細は相談により決定する。	
授業の進め方	学生によるプレゼンテーションとディスカッションと、一部座学による。適宜課題レポートを課すこともある。	
テキスト, 教材, 参考書	Who's got power? Transforming health system for women and children, E.05. .B8.UNP.(\$45.00) State of world population 2005: The promise of equality, gender equity, reproductive health and the Millennium development goals, E.05. .UNP.2005.(\$15.00) Taking Action: Achieving gender equality and empowering women, E.05. .B.7.UNP.(\$45.00) リプロダクティブ法と政策センター編. 房野桂訳. リプロダクティブ・ライツ. 明石書店, 2001. スーザン・シャーウィン. 岡田雅勝他訳. もう患者でいるのはよそう. 勤草書房, 1998. レズリー・ページ. 生まれかわる助産婦たち. 医学書院, 1996. パーバラ・K・ロスマン. 母性をつくりなおす. 勤草書房, 1997. ヘルガ・クーゼ. ケアリング-看護婦・女性・倫理. メディカ出版, 2000. 小林奈美. 家族看護論-カルガリー式看護モデル実践へのファーストステップ. 医歯薬出版, 2006. ロレイン・M・ライト他. 杉下知子監訳. ビリーフ-家族看護実践の新たなパラダイム. 日本看護協会出版会, 1996. Tomey AM & Aliigood MR. Nursing Theorists and their work. Mosby, 2006. Fitzpatrick JJ & Montgomery KS. Maternal Child Health Nursing Research Digest. Springer, 1999. Jonsen AR, Siegler M, Winslade WJ. 臨床倫理学. 新興医学出版社, 2006. トリシャ・グリーンハル, アンナ・コラード, 斎藤清二: 保健専門職のためのNBMワークブック, 臨床における物語共有学習のために, 金剛出版, 2004. トリシャ・グリーンハル, プライアン・ハーウィッツ斎藤清二, 山本和利, 岸本寛史監訳: ナラティブ・ベイスト・メディスン-臨床における物語と対話, 金剛出版, 2002. Susan Hamer & Gill Collinson, 岡本高宏: 最善の医療をめざして-エビデンスに基づく実践ハンドブック, エルゼビア・ジャパン, 2004. Paul Glasziou, Chris Del Mar, Janet Salisbury, 斎尾武郎: EBM楽しい練習長, 金芳堂, 2004.	
成績評価の方法	プレゼンテーションとディスカッションへの貢献度, 課題レポートの内容	
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	教材として指定するものは上記の通りだが, 副読本として指定したいものには限りがない。そこで, 学生は自分の関心に関連する領域については, 各自でさらに視野を広める努力をしてほしい。研究テーマや学生の興味などに応じて変更することがある。	

科目名	小児保健・看護学演習 Practice in Child Nursing
担当教員	阪口 しげ子 市川 元基, 鈴木 泰子
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子看護学領域 / 1年次 後期 月曜・1時限 月曜・6時限
単位数、講義室	2単位
授業概要	小児保健・看護学に関連する領域の文献検討をとおして、サブストラクション並びにクリティカルレビューの方法を身につける。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	小児保健・看護学に関連した領域の中で研究課題に関連する文献の効果的な検索方法を理解すると共に、文献検討をとおして研究課題の系統的な流れや研究方法を理解する。また関連する領域の文献検討をとおして、サブストラクション並びにクリティカルレビューの方法を身につける。
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．小児保健・看護学に関連した領域における文献の効果的な検索方法を理解する。</li> <li>2．文献検索をとおして研究課題に対する背景を系統的に理解する。</li> <li>3．小児保健・看護学に関連した領域における研究について、倫理的側面並びに研究方法、結果を含め、批判的に論評することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>（阪口しげ子：5回 10/1、10/15、10/22、10/29、11/5） 小児保健や療養環境領域の文献を中心に進める</p> <p>（市川元基：5回 11/12、11/19、11/26、12/3、12/10） 小児保健・看護学領域の最新的话题を中心に進める</p> <p>（鈴木泰子：5回 12/17、12/25、1/7、1/21、1/38） 小児看護学の臨床看護の文献を中心に進める</p>
授業の進め方	学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心に進める。
テキスト、教材、参考書	随時紹介する。
成績評価の方法	学生の理解度や姿勢を総合的に評価する。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	随時対応します（阪口）。

科目名	小児保健・看護学演習 Practice in Child Nursing
担当教員	阪口 しげ子 市川 元基, 鈴木 泰子
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子看護学領域 / 2 年次 前期 月曜・4 時限 火曜・6 時限
単位数、講義室	2 単位
授業概要	小児保健・看護研究の動向に関する理解を深め、学生の関心領域に関する文献の検討を通じて、小児保健・看護学における顕在・潜在する重要な課題や看護実践を精選して研究テーマを見出し、そのテーマを実証的に検証する方法を検討し、研究を進めるための条件を整える。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．小児保健・看護学における関心領域の健康課題および小児保健・看護実践に関連する系統的文献検討に基づき、研究テーマを精選する。</li> <li>2．研究テーマに適した研究方法と対象を検討する。</li> <li>3．研究が遂行できるように病院施設や対象との調整を行い協力を得られるよう条件を整える。</li> </ol>
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．小児保健・看護学における関心領域の健康課題および小児保健・看護実践に関連する系統的文献検討を行い、研究テーマを絞り込むことができる。</li> <li>2．研究テーマに適した研究方法と対象を検討できる。</li> <li>3．研究が遂行できるように病院施設や対象との調整を行い協力を得られるよう条件を整えることができる。</li> </ol>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．小児保健・看護学研究の動向</li> <li>2．関心領域の健康課題、小児保健・看護実践に関する文献の検討に基づく、顕在・潜在する重要な課題の抽出</li> <li>3．小児保健・看護学における研究課題の精選</li> <li>4．研究課題に適した研究対象・方法の検討</li> <li>5．研究遂行に必要な諸条件の整備</li> </ol> <p>小児保健・看護の観点は阪口、医学的観点は市川、臨床看護の観点は鈴木がアドバイスする。</p>
授業の進め方	各自の文献検討とグループによる検討を繰り返す。適宜専門家に相談し勧める。
テキスト、教材、参考書	適宜紹介する。
成績評価の方法	各段階の達成度で評価する。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問、相談は随時対応します。

科目名	小児保健・看護学特別研究 Research Thesis (Master's) in Child Nursing
担当教員	阪口 しげ子 鈴木 泰子
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子看護学領域 / 2年次 通年 月曜・3時限 月曜・4時限・不定
単位数、講義室	10単位
授業概要	小児保健・看護学領域に関する研究テーマを設定し、適切な研究方法を選択して研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、研究論文を完成させる。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児保健・看護学領域に関する研究テーマを設定する。</li> <li>・適切な研究方法を選択して研究計画書を作成する。</li> <li>・データ収集・分析を行い、研究論文を完成させる。</li> </ul>
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究テーマを設定できる。</li> <li>・適切な研究方法を選択して研究計画書が作成できる。</li> <li>・倫理委員会提出用の書類が作成できる。</li> <li>・データの収集ができる。</li> <li>・データの分析ができる。</li> <li>・研究論文を作成することができる。</li> <li>・研究成果のプレゼンテーションができる。</li> </ul>
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献購読会と研究ミーティングに基づいた研究テーマの設定</li> <li>・研究計画の立案</li> <li>・研究計画書の作成</li> <li>・倫理委員会提出用書類の作成</li> <li>・調査の実施</li> <li>・研究データの収集およびその処理</li> <li>・修士論文の作成</li> <li>・研究成果のプレゼンテーション</li> </ul>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスカッション</li> <li>・プレゼンテーション</li> </ul>
テキスト、教材、参考書	
成績評価の方法	研究の各プロセスの遂行状況と論文内容、発表、質疑応答等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	

科目名	小児保健・看護学特別研究 Research Thesis (Master's) in Child Nursing
担当教員	市川 元基
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子看護学領域 / 2 年次 通年 月曜・3 時限 月曜・4 時限・不定
単位数、講義室	10 単位
授業概要	小児保健・看護学領域に関する研究テーマを設定し、適切な研究方法を選択して研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、研究論文を完成させる。
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児保健・看護学領域に関する研究テーマを設定する。</li> <li>・適切な研究方法を選択して研究計画書を作成する。</li> <li>・データ収集・分析を行い、研究論文を完成させる。</li> </ul>
SBOs (行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究テーマを設定できる。</li> <li>・適切な研究方法を選択して研究計画書が作成できる。</li> <li>・倫理委員会提出用の書類が作成できる。</li> <li>・データの収集ができる。</li> <li>・データの分析ができる。</li> <li>・研究論文を作成することができる。</li> <li>・研究成果のプレゼンテーションができる。</li> </ul>
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献購読会と研究ミーティングに基づいた研究テーマの設定</li> <li>・研究計画の立案</li> <li>・研究計画書の作成</li> <li>・倫理委員会提出用書類の作成</li> <li>・調査の実施</li> <li>・研究データの収集およびその処理</li> <li>・修士論文の作成</li> <li>・研究成果のプレゼンテーション</li> </ul>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスカッション</li> <li>・プレゼンテーション</li> </ul>
テキスト, 教材, 参考書	
成績評価の方法	研究の各プロセスの遂行状況と論文内容、発表、質疑応答等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	

科目名	リプロダクティブ・ヘルス看護学演習 Practice in Reproductive Health
担当教員	坂口 けさみ 金井 誠, 玉井 真理子, 芳賀 亜紀子, 徳武 千足
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子看護学領域 / 1年次 後期 月曜・1時限 月曜・6時限
単位数、講義室	2単位
授業概要	母性行動発現制御機構, 出産前後の女性の排泄機能障害, 親子関係, 女性の健康に関連した既存の尺度並びに主観を探究した研究など, リプロダクティブヘルスに関連する領域の文献検討を通して, サブストラクション並びにクリティカルレビューの方法を身につける。
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関係した領域の中で研究課題に関連する文献の効果的な検索方法を理解すると共に、文献検索を通して研究課題の系統的な流れや研究方法を理解する。また関連する領域の文献検討を通して、サブストラクション並びにクリティカルレビューの方法を身につける。
SBOs (行動目標)	1. リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関係した領域における文献の効果的な検索方法を理解する。 2. 文献検索を通して研究課題に対するバックグラウンドを系統的に理解する。 3. リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関係した領域における研究について、倫理的側面並びに研究方法、結果を含め、批判的に論評することができる。
授業計画	(坂口 けさみ、他: 15回 10/1, 15, 22, 29, 11/5, 12, 19, 26, 12/10, 17, 25, 1/7, 21, 28) 母性行動・父性行動などの発現メカニズムやスキップの意義などのリプロダクティブ・ヘルス領域の研究に応用可能な生理的指標や分子生物学的指標を用いた研究, ならびに女性の排泄機能障害など, 尺度を用いた調査研究のサブストラクション並びにクリティカルレビューの方法を探究する。
授業の進め方	学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心に進める。
テキスト, 教材, 参考書	随時紹介するが、各学生の研究テーマに関連する理論と、文献を収集すること。
成績評価の方法	学生の理解度や姿勢およびプレゼンテーションとディスカッションへの貢献度で総合的に評価したいと思います。
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	メールでも随時受け付ける。

科目名	リプロダクティブ・ヘルス看護学演習 Practice in Reproductive Health
担当教員	坂口 けさみ 金井 誠, 玉井 真理子, 芳賀 亜紀子, 徳武 千足
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子看護学領域 / 2 年次 前期 月曜・4 時限 火曜・6 時限
単位数、講義室	2 単位
授業概要	リプロダクティブライツ・ヘルスの講義や演習を通して学生自身の関心のあるテーマを研究課題へと精選する。討議を通して研究課題に適した方法論を選択し、その研究を実施するために必要な倫理性と研究能力を身につけるとともに、選択した研究方法に必要な各種条件を整える。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	研究課題に適した方法論を選択し、その研究を実施するために必要な倫理性と研究能力を身につける。
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究課題に適した研究デザインを選択できる。</li> <li>2. 研究を遂行するにあたり、選択した研究方法の信憑性や妥当性についてプレテストを通して検討できる。</li> <li>3. 研究課題に必要な倫理的配慮の内容について考えることができる。</li> <li>3. 研究を遂行するにあたり、倫理的配慮に関して必要な書類を作成できる。</li> <li>4. 研究を遂行するにあたり、倫理的配慮として必要な事柄を明確に述べることができる。</li> </ol>
授業計画	<p>（坂口 けさみ: 5 回 4/9, 16, 23, 5/1, 7, 14, 21, 28, 6/4, 11） スキップの意義など、周産期に関する研究課題に即した生理的指標及び分子生物学的指標の選択や測定・分析方法について論述するとともに、女性の尿失禁や便失禁などの健康問題に対する看護学的視点について研究する。また産育ならびに助産（産婆）実践に関する歴史的研究手法について論述する。また、地域における調査研究について論述する。</p> <p>（阪口 しげ子: 5 回 6/18, 25, 7/2, 9, 23） 研究課題に即した調査研究、特に思春期における月経随伴症状に関するテーマを深める術と尺度選択、分析方法について論述する。</p>
授業の進め方	（坂口）自らの研究課題に即して、プレテストを行い研究方法の信頼性や妥当性について検討する。その過程を通して本調査、本実験の準備を行う。授業の中では、演習の結果を発表し討議を進める中で、各自の研究課題や方法について各種条件を整えていく。手法や内容によって適宜専門家に相談し進める。
テキスト、教材、参考書	適宜紹介する。
成績評価の方法	学生の理解度や姿勢を総合的に評価したいと思います。（坂口担当分）
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	適宜メールにても対応します。

科目名	リプロダクティブ・ヘルス看護学特別研究 Research Thesis (Master's) in Reproductive Health
担当教員	坂口 けさみ
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子看護学領域 / 2年次 通年 月曜・3時限 月曜・4時限・不定
単位数、講義室	10単位
授業概要	女性並びに子どもの生涯にわたる健康と看護並びに助産に関連した領域において、学生の主体的発想を重視した研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に実施し、一連の研究成果を論文にする。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	リプロダクティブ・ヘルスに関連した研究課題を設定し、研究計画書に基づきデータを収集する。また、得られたデータの分析結果に基づき研究成果を論文として仕上げていく。この一連の過程を通して、研究者としての研究能力を身につける。
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究課題および研究目的を設定できる。</li> <li>2. 研究課題におけるこれまでの国内外の研究の動向について理解できる。</li> <li>3. 研究課題の意義について述べるができる。</li> <li>4. 研究課題を達成するための研究デザインを適切に選択すると共に、研究方法の信憑性や妥当性について十分に検討できる。また研究を進めるために必要な倫理的配慮ができる。</li> <li>4. 研究計画書に基づきデータを収集する</li> <li>5. 得られたデータを適切に分析できる。また不足しているデータについても気づくことができる。</li> <li>6. 結果に基づき科学的論文として仕上げることができる。</li> <li>7. 研究の限界について述べるができる。</li> <li>8. 行った研究課題をわかりやすくかつ論理的に発表することができる。また質疑応答に際して適切に回答できる。</li> </ol>
授業計画	各自の研究計画書に従ってデータ収集、分析、論文作成へと進める。
授業の進め方	適宜プレゼンテーションを行いながら進捗状況を確認する。
テキスト、教材、参考書	
成績評価の方法	研究過程および論文内容、発表、質疑応答等を総合的に評価したいと思います。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	どんなことも全てが勉強です。楽しくやりましょう。

科目名	リプロダクティブ・ヘルス看護学特別研究 Research Thesis (Master's) in Reproductive Health
担当教員	金井 誠
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子看護学領域 / 2年次 通年 月曜・3時限 月曜・4時限・不定
単位数、講義室	10単位
授業概要	女性並びに子どもの生涯にわたる健康と看護並びに助産に関連した領域において、学生の主体的発想を重視した研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に実施し、一連の研究成果を論文にする。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	リプロダクティブ・ヘルスに関連した研究課題を設定し、研究計画書に基づきデータを収集する。また、得られたデータの分析結果に基づき研究成果を論文として仕上げていく。この一連の過程を通して、研究者としての研究能力を身につける。
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究課題および研究目的を設定できる。</li> <li>2. 研究課題におけるこれまでの国内外の研究の動向について理解できる。</li> <li>3. 研究課題の意義について述べるができる。</li> <li>4. 研究課題を達成するための研究デザインを適切に選択すると共に、研究方法の信憑性や妥当性について十分に検討できる。また研究を進めるために必要な倫理的配慮ができる。</li> <li>4. 研究計画書に基づきデータを収集する</li> <li>5. 得られたデータを適切に分析できる。また不足しているデータについても気づくことができる。</li> <li>6. 結果に基づき科学的論文として仕上げることができる。</li> <li>7. 研究の限界について述べるができる。</li> <li>8. 行った研究課題をわかりやすくかつ論理的に発表することができる。また質疑応答に際して適切に回答できる。</li> </ol>
授業計画	各自の研究計画書に従ってデータ収集、分析、論文作成へと進める。
授業の進め方	適宜プレゼンテーションを行いながら進捗状況を確認する。
テキスト、教材、参考書	
成績評価の方法	研究過程および論文内容、発表、質疑応答等を総合的に評価したいと思います。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	どんなことも全てが勉強です。楽しくやりましょう。

科目名	リプロダクティブ・ヘルス看護学特別研究 Research Thesis (Master's) in Reproductive Health
担当教員	玉井 真理子
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子看護学領域 / 2年次 通年
単位数、講義室	10単位
授業概要	女性並びに子どもの生涯にわたる健康と看護並びに助産に関連した領域において、学生の主体的発想を重視した研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に実施し、一連の研究成果を論文にする。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	リプロダクティブ・ヘルスに関連した研究課題を設定し、研究計画書に基づきデータを収集する。また、得られたデータの分析結果に基づき研究成果を論文として仕上げていく。この一連の過程を通して、研究者としての研究能力を身につける。
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究課題および研究目的を設定できる。</li> <li>2. 研究課題におけるこれまでの国内外の研究の動向について理解できる。</li> <li>3. 研究課題の意義について述べるができる。</li> <li>4. 研究課題を達成するための研究デザインを適切に選択すると共に、研究方法の信憑性や妥当性について十分に検討できる。また研究を進めるために必要な倫理的配慮ができる。</li> <li>4. 研究計画書に基づきデータを収集する</li> <li>5. 得られたデータを適切に分析できる。また不足しているデータについても気づくことができる。</li> <li>6. 結果に基づき科学的論文として仕上げることができる。</li> <li>7. 研究の限界について述べるができる。</li> <li>8. 行った研究課題をわかりやすくかつ論理的に発表することができる。また質疑応答に際して適切に回答できる。</li> </ol>
授業計画	各自の研究計画書に従ってデータ収集、分析、論文作成へと進める。
授業の進め方	適宜プレゼンテーションを行いながら進捗状況を確認する。
テキスト、教材、参考書	
成績評価の方法	研究過程および論文内容、発表、質疑応答等を総合的に評価したいと思います。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	本科目に関する質問や相談は、メールで受け付けます。

科目名	子ども・女性・家族支援演習A Practice in Child, Woman and Family Nursing A
担当教員	坂口 けさみ 市川 元基, 玉井 真理子, 芳賀 亜紀子, 徳武 千足
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子看護学領域 / 1年次 後期 木曜・1時限
単位数、講義室	2単位
授業概要	子どもと女性ならびに家族に対して看護ないしは助産を提供する上で、心身の健康状態を適切にアセスメントする能力と、心身を統合してアセスメントする能力を身につける。クリティカルに考える力をつける。臨床あるいは現場で、看護師または助産師に求められるカウンセリング能力の基礎を理解する。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	助産及び看護の高度な臨床実践に必要なアセスメントの手法を習得する。
SBOs（行動目標）	女性のヘルスアセスメントの手法を習得する。 子どものヘルスアセスメントの手法を習得する。 ハイリスク新生児のヘルスアセスメントの手法を習得する。 ケースレポートを作成し、現場での臨床判断とその根拠ならびにクリティカルな思考過程を記述する。
授業計画	1. 妊娠時のリスク管理 2. 分娩時のリスク管理 3. 小児のフィジカルアセスメント 4. 小児の成長発達に関する評価 5. 親子関係のフィールドワーク 6. 家族関係のアセスメント
授業の進め方	講義 + 演習 + 実習形式（ケースレポートを課す）
テキスト、教材、参考書	適宜指定する。
成績評価の方法	授業・演習・実習への参加度、実習先の評価、ケースレポートの内容から評価する。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問は授業中もしくは終了後に対応する。メールでの対応もする。

科目名	子ども・女性・家族支援演習B Practice in Child, Woman and Family Nursing B
担当教員	坂口 けさみ 阪口 しげ子, 芳賀 亜紀子, 徳武 千足
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子看護学領域 / 2年次 前期 木曜・1時限
単位数、講義室	2単位
授業概要	子どもと女性および家族の健康にかかわる臨床実践の中での問題ならびに支援方法に関連する文献を系統的に収集し、看護学の視点から検討を加える。また、この領域に関連する主な理論についての理解を深める。
一般学習目標G10(期待される学習効果)	子ども・女性・家族を支援するための看護介入を開発していく能力を身につける。
SBOs(行動目標)	危機理論を説明し、危機介入や危機予防が看護介入としてどのように展開できるか述べる。 親子に関連する諸理論(アタッチメント理論・絆理論をはじめ、小児の精神発達に関連する理論)を説明し、それらが看護介入にどのように応用可能か、また応用した際に生じるであろうデメリットと限界について述べる。 家族に関連する諸理論を説明し、それらの理論が看護介入にどのように応用可能かを述べる。また、応用した際に生じるであろうメリットとデメリット、看護としての限界について述べる。 ストレスに関する諸理論を説明し、それらの理論の特性と看護介入への応用方法について述べる。 アサーティブネスについて説明し、看護介入にどのように導入可能か、また導入した場合のメリットデメリットについて述べる。
授業計画	危機理論 アタッチメント理論、絆理論、マラーなど親子に関連する理論 家族に関連する理論 ストレスに関連する理論 アサーティブネスに関連した認知情動理論 発達段階における排泄の自律過程における問題(夜尿等)や女性のライフステージにおける失禁の予防・改善に対する介入方法
授業の進め方	理論のプレゼンテーションと理論を応用した演習・フィールドワーク、もしくは実践とを交互に織り交ぜながら展開していく。フィールドワークや実践にはレポートを課す。
テキスト、教材、参考書	適宜紹介する。
成績評価の方法	プレゼンテーションの完成度とディスカッションへの貢献度、レポートの内容から評価する。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	学生の関心や興味によって内容、演習や実践場所は変更する。

科目名	子ども・女性・家族支援実習 Clinical Practice in Child, Woman and Family Nursing
担当教員	坂口 けさみ 芳賀 亜紀子, 徳武 千足
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子看護学領域 / 2年次 通年 ・不定
単位数、講義室	6単位
授業概要	<p>心理社会的な理由、身体的な理由、倫理的な理由など、様々な理由による難しい事例もしくは組織に対して、修士課程で学んだ知識や方法を応用し看護を実践し、その成果について多角的に評価する。</p> <p>卓越した看護実践家の実践に関する参加観察ならびにインタビューを通して、現場で起きている現象を記述する。どのように何がすぐれているのかを述べる。</p> <p>子ども、女性、もしくは家族の健康に関する組織での参加観察を通して、その組織文化を記述する。</p> <p>上記のプロセスについて症例報告としてまとめ提出する。</p>
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<p>看護実践に既存の理論がどのように適用可能なのか、またそれが妥当なのかを検討する能力を身につける。</p> <p>看護実践の中の知を掘り起こし、記述表現する能力と、後継者を教育するために必要な資質を身につける。</p> <p>実践家として組織文化をどう形成し、何を目的に、どのように改革していけばよいのかを考える。あるいは看護師もしくは助産師としてどう貢献できるのか、あるいはどう接点を持っていけばいいのかを考察する。</p>
SBOs（行動目標）	別途記載したものを配布する
授業計画	別途記載したものを配布する
授業の進め方	<p>学生に応じた実習場所を適宜確保する。</p> <p>学生は症例報告を3例以上提出する。</p>
テキスト、教材、参考書	
成績評価の方法	症例報告の内容と臨床指導者の評価とを総合して評価する。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	随時メールで対応する。

科目名	子ども・女性・家族支援課題研究 Research Thesis (CNS) in Child, Woman and Family Nursing
担当教員	坂口 けさみ
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子看護学領域 / 2年次 通年 ・不定
単位数、講義室	4単位
授業概要	研究課題をもとに、適切な方法を選択して研究に取り組む
一般学習目標G10(期待される学習効果)	課題研究を提出する。
SBOs(行動目標)	研究課題を明確にする。 研究課題に適した方法を選択する。 倫理的な問題がないかを検討する。あれば改善する。 研究計画書を作成し、(必要時)倫理委員会での承認を得る。 研究計画書に則って研究する。 課題研究をまとめて論文形式にして提出する。
授業計画	学生の課題ならびに進度にあわせ臨機応変に対応する。
授業の進め方	時々複数メンバーでのディスカッションを行いながら、個々の学生の都合に応じて進める。
テキスト、教材、参考書	必要時提示する
成績評価の方法	研究プロセスに取り組む姿勢 課題論文の内容 自分の論文に対する自己評価の適切さ
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	随時応じる

科目名	地域・国際看護学特論 Special Lectures in Community Health Nursing and International Health Nursing
担当教員	奥野 ひろみ 五十嵐 久人, 高橋 宏子, 上條 優子, 山崎 明美
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	地域・国際・精神看護学領域 / 1年次 前期 月曜・1時限 月曜・6時限
単位数、講義室	2 単位
授業概要	地域看護学及び国際看護学領域の実践及び研究の基盤となる理論・理念について論述する。また国際的な課題と国内の保健分野の課題を取り上げ、その解決のための方向性を探求する。 本授業はオムニバス方式で実施する。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	1 地域看護学領域の実践及び研究の基盤となる理論・理念を理解する。 2 グローバルな視点で国際看護学領域の実践及び研究の基盤となる理論・理念を理解する。 3 健康課題の現状と解決の方向性を理解する。
SBOs（行動目標）	1 地域看護学領域の実践及び研究の基盤となる理論・理念を説明できる。 2 国際看護学領域の実践及び研究の基盤となる理論・理念を説明できる。 3 各理論・理念が実践の場でどのように位置づいているのかを、説明できる。 4 各保健分野の課題とその解決の方向性を説明できる。
授業計画	1 オリエンテーション 2 プライマリヘルスケア 3 ヘルスプロモーション 4-5 成人保健の課題と解決の方向性・行動変容理論 6-7 高齢者保健の課題と解決の方向性 8-9 精神保健の課題と解決の方向性 10-11 母子保健の課題と解決の方向性 12-13 開発途上国における国際看護の課題と解決の方向性 14-15 先進国における看護の方向性
授業の進め方	講義 発表と討議
テキスト、教材、参考書	適宜提示
成績評価の方法	発表 討議 レポート
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	オムニバス形式で、最新の課題について考えて行きます。自分の興味と引き付けてクラスに参加してください。

科目名	地域・国際看護学援助特論 Special Lectures for Caring in Community Health Nursing and International Health
担当教員	奥野 ひろみ 五十嵐 久人, 高橋 宏子, 下里 誠二, 横川 吉晴
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	地域・国際・精神看護学領域 / 1年次 前期 月曜・2時限 月曜・7時限
単位数、講義室	2単位
授業概要	地域看護は、看護学、公衆衛生学、社会学による知識を用いて、集団の健康の増進と保護を図る活動である。この基本概念に沿って個人・集団を対象としたアプローチのあり方を探求する。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域看護の存在意義を理解する。</li> <li>2 看護学、公衆衛生学、社会学から得られた知見を総合的に理解する。</li> <li>3 集団の健康増進と保護を図るための個人へのアプローチ方法を理解する。</li> <li>4 集団の健康増進と保護を図るための集団へのアプローチ方法を理解する。</li> </ol>
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域看護の存在意義を説明できる。</li> <li>2 事例を用いて看護学、公衆衛生学、社会学から得られた知見を総合的に説明できる。</li> <li>3 事例を用いて個人へのアプローチの方法を説明できる。</li> <li>4 事例を用いて集団へのアプローチの方法を説明できる。</li> <li>5 事例見当から情報収集と分析力を身につける。</li> </ol>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2-3 健康と社会</li> <li>4-7 個別へのアプローチ</li> <li>8-11 集団へのアプローチ</li> <li>12-15 政策化</li> </ol>
授業の進め方	講義 発表と討論
テキスト、教材、参考書	適宜提示する
成績評価の方法	発表 討論 レポート
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	

科目名	地域・国際看護学演習 Practice in Community Health Nursing and International Health Nursing
担当教員	奥野 ひろみ 五十嵐 久人
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	地域・国際・精神看護学領域 / 1年次 後期 月曜・1時限 月曜・6時限
単位数、講義室	2単位
授業概要	地域看護・国際看護に関する先行研究文献から、様々な研究課題、調査方法を論ずる。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域看護・国際看護における調査手法を理解する。</li> <li>2 先行研究のクリティークの意義と方法の理解を深める。</li> <li>3 研究デザイン、分析方法の理解を深める。</li> </ol>
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域看護・国際看護における調査手法を列挙できる。</li> <li>2 先行研究の研究デザインを、批評することができる。</li> <li>3 先行研究のデータ収集方法を、批評することができる。</li> <li>4 先行研究の分析方法を、批評することができる。</li> <li>5 学習した調査手法を、研究計画に応用できる。</li> </ol>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエテーション</li> <li>2-8 質問紙を用いた調査研究のデザインと調査方法</li> <li>9-11 半構成的面接法を用いた調査票のデザインと調査方法</li> <li>12-14 介入研究の調査方法</li> <li>15 まとめ</li> </ol>
授業の進め方	発表と討議
テキスト、教材、参考書	適宜紹介
成績評価の方法	発表と討議
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	研究をするうえで必要となる、研究計画の基本的な考え方と方法を学びます。具体的に先行研究で示された文献を用いて実際に研究計画の立て方を学びます。

科目名	地域・国際看護学演習 Practice in Community Health Nursing and International Health Nursing
担当教員	奥野 ひろみ 五十嵐 久人, 高橋 宏子
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	地域・国際・精神看護学領域 / 2年次 前期 月曜・4時限 火曜・6時限
単位数、講義室	2単位
授業概要	学生の関心領域を中心に、当該分野専門家の助言を受けながら、研究計画を作成する。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 テーマに沿って研究計画を作成することができる。</li> <li>2 研究に必要な資料や情報を収集できる。</li> <li>3 計画の一部を実践できる。</li> </ol>
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 特定地域・集団の健康問題を明らかにできる。</li> <li>2 先行研究がどこまで進んでいるかを明らかにできる。</li> <li>3 研究の目的を明らかにできる。</li> <li>4 研究に必要な資料や情報を収集できる。</li> <li>5 テーマにそって研究計画書を作成できる。</li> </ol>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 情報収集と分析</li> <li>3 研究計画書の作成</li> </ol>
授業の進め方	発表と討議
テキスト、教材、参考書	適宜提示
成績評価の方法	発表と討議 研究計画書
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	この授業では、多くのディスカッションを行います。また専門分野の先生方からも助言をもらうなどがあります。論理的な思考により、専門性の高い研究計画を学びます。

科目名	地域・国際看護学特別研究 Research Thesis (Master's) in Community Health Nursing and International Health
担当教員	奥野 ひろみ 五十嵐 久人, 高橋 宏子
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	地域・国際・精神看護学領域 / 2年次 通年 月曜・3時限 月曜・4時限・不定
単位数、講義室	10単位
授業概要	地域・国際看護に関する研究テーマを設定し、適切な研究方法を用いて研究を遂行し、修士論文を完成させる。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 適切な研修テーマを設定できる。</li> <li>2 テーマに関する知識を十分に得ることができる。</li> <li>3 適切な研究方法を選択し、研究計画を作成できる。</li> <li>4 研究計画に沿って研究を実施し、修士論文を完成できる。</li> </ol>
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 研究テーマを設定し 適切な仮説を表現できる。</li> <li>2 関連性のある先行研究から得た知見を、系統的にまとめることができる。</li> <li>3 研究テーマに照らして適切な研究デザインを設定できる。</li> <li>4 適切なデータ収集及び分析方法を選択できる。</li> <li>5 対象の文化的・社会的背景を考慮し、倫理的な配慮を十分に行なうことができる。</li> <li>6 妥当で研究可能な研究計画を作成できる。</li> <li>7 研究計画に沿って、研究を実施できる。</li> <li>8 データを適切に処理し、統計手法等を用いて分析ができる。</li> <li>9 研究結果を用いて、論理的で説得力のある考察をすることができる。</li> <li>10 研究の限界性も含めて、明確かつ網羅的に論述できる。</li> <li>11 上記を統合し、修士論文を完成することができる。</li> </ol>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 文献検討</li> <li>2 研究デザイン</li> <li>3 対処の選定と研究方法の検討</li> <li>4 研究計画書の作成</li> <li>5 倫理委員会での研究計画書審査</li> <li>6 研究の実施</li> <li>7 結果の分析・考察</li> <li>8 論文作成</li> </ol>
授業の進め方	発表と討論 個人指導
テキスト、教材、参考書	適宜紹介
成績評価の方法	修士論文
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	汎用性があり発展性があるテーマや研究方法を選択できるよう、積極的に臨んでください。

科目名	在宅看護学援助特論 Special Lectures for Caring in Home Nursing
担当教員	奥野 ひろみ 五十嵐 久人, 高橋 宏子, 山崎 明美
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	地域・国際・精神看護学領域 / 1年次 前期 水曜・1時限
単位数、講義室	2単位
授業概要	本年度は開講しない 在宅療養者・家族の主体的な意思決定に基づき、健康と生活の質の改善と自立を促進するために必要な、心身のアセスメント、家族アセスメント、セルフケア能力のアセスメント、生活環境アセスメントに活用できる理論・モデル・ツールについて論述し、事例への適切な適用を通じてアセスメント能力を高める。
一般学習目標G10(期待される学習効果)	
SBOs(行動目標)	
授業計画	
授業の進め方	
テキスト、教材、参考書	
成績評価の方法	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	

科目名	在宅看護学方法特論 Special Seminar in Home Nursing
担当教員	奥野 ひろみ 五十嵐 久人, 高橋 宏子, 山崎 明美
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	地域・国際・精神看護学領域 / 1年次 前期 水曜・2時限
単位数、講義室	2単位
授業概要	本年度は開講しない 高度で専門性の高い在宅看護実践に必要な知識と技術, 及び連携・調整能力の向上をはかるために, 様々な対象への看護実践の分析と評価過程を検討し, ケアの質向上を図るための方略を探求する。
一般学習目標G10(期待される学習効果)	
SBOs(行動目標)	
授業計画	
授業の進め方	
テキスト, 教材, 参考書	
成績評価の方法	
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	

科目名	在宅看護学演習A Practice in Home Nursing A
担当教員	奥野 ひろみ 五十嵐 久人
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	地域・国際・精神看護学領域 / 1年次 後期 木曜・1時限
単位数、講義室	2単位
授業概要	本年度は開講しない 高齢・がん・ターミナル期などの在宅療養者への看護実践，困難で複雑な問題を抱えた家族への支援，病院から在宅療養への移行期の支援などの看護提供方法の検討，看護介入と効果に関する分析，在宅看護の質評価及び在宅ケアチームづくりや多機関・職種との連携・調整機能の分析と評価を通じて，在宅看護実践能力向上のための方略を検討する。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	
SBOs（行動目標）	
授業計画	
授業の進め方	
テキスト，教材，参考書	
成績評価の方法	
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	

科目名	在宅看護学演習B Practice in Home Nursing B
担当教員	奥野 ひろみ 五十嵐 久人, 高橋 宏子
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	地域・国際・精神看護学領域 / 2年次 前期 木曜・1時限
単位数、講義室	2単位
授業概要	本年度は開講しない 高度で専門性の高い在宅看護実践に必要な知識と技術・アセスメント・調整能力について、訪問看護に参加しながら理論やモデルを活用した事例の分析を行い、在宅看護実践能力の評価や向上のための要素を探求する。また、小児や青年期・終末期・難病・精神疾患等の利用者の多い訪問看護事業所における演習を通じて、多様な困難を抱える在宅療養者・家族への専門的な臨床判断能力、看護実践能力、倫理的判断能力を高める。
一般学習目標G10(期待される学習効果)	
SBOs(行動目標)	
授業計画	
授業の進め方	
テキスト, 教材, 参考書	
成績評価の方法	
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	

科目名	在宅看護学実習 Clinical Practice in Home Nursing
担当教員	奥野 ひろみ 五十嵐 久人, 高橋 宏子
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	地域・国際・精神看護学領域 / 2年次 通年 ・不定
単位数、講義室	6単位
授業概要	<p>本年度は開講しない</p> <p>特色ある訪問看護事業所（対象による専門性，組織・構造的な特性，僻地や山間地などの地域的特性）において，複雑で困難な問題を抱える在宅療養者・家族に対して，在宅看護専門看護師として必要な専門的知識と的確な判断能力，熟練した技術を用い，専門家としての倫理観に基づいた質の高い看護実践能力の発展をはかる。</p> <p>また，相談・調整・教育・倫理的調整の役割実践を通じて，専門看護師としての能力を高め，役割を開発する能力を養う。</p>
一般学習目標G10（期待される学習効果）	
SBOs（行動目標）	
授業計画	
授業の進め方	
テキスト，教材，参考書	
成績評価の方法	
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	

科目名	在宅看護学課題研究 Research Thesis (CNS) in Home Nursing
担当教員	奥野 ひろみ 五十嵐 久人, 高橋 宏子
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	地域・国際・精神看護学領域 / 2年次 通年 ・不定
単位数、講義室	4単位
授業概要	本年度は開講しない 特論をはじめとする科目を通じて修得した内容を踏まえて、在宅療養者・家族に焦点をあて、実際の看護現象を通して実証的な研究を行い、課題研究論文を作成する。
一般学習目標G10(期待される学習効果)	
SBOs(行動目標)	
授業計画	
授業の進め方	
テキスト, 教材, 参考書	
成績評価の方法	
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	

科目名	精神看護学特論 Special Lectures in Psychiatric and Mental Health Nursing
担当教員	下里 誠二 小林 正義, 奥野 ひろみ, 五十嵐 久人, 高橋 宏子
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	地域・国際・精神看護学領域 / 1年次 前期 月曜・1時限 月曜・6時限
単位数、講義室	2単位
授業概要	精神保健医療福祉の動向について検討しつつ、対象者、家族および集団に対して、精神看護学の基礎的な諸理論や知識を用いた看護介入方法または、治療的介入方法を探究する。また、精神障がい者の人権を擁護するための倫理的問題について探求する
一般学習目標G10（期待される学習効果）	精神看護に関するケアの質の向上を目指し、優れた実践能力並びに研究能力の素地を養う
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 精神看護学の治療的介入の理論について述べるができる</li> <li>2 精神保健上の様々な健康問題についての支援方法について理解し実践できる</li> <li>3 精神障がい者に対する権利擁護の方法について理解することができる</li> </ol>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 - 8 精神科における治療的介入</li> <li>9 - 10 精神医療と人権擁護</li> <li>11 - 15 地域精神医療と支援方法</li> </ol>
授業の進め方	講義 発表、討論、レポート
テキスト、教材、参考書	適宜紹介する
成績評価の方法	出席、発表、提出物等を総合的に評価する
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	

科目名	精神看護学特論 Special Lectures in Psychiatric and Mental Health Nursing
担当教員	下里 誠二
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	地域・国際・精神看護学領域 / 1 年次 後期 月曜・1 時限 月曜・6 時限
単位数、講義室	2 単位
授業概要	精神科病院の入院医療における精神看護の方法論に関する理論や援助法について文献検討や事例検討を行い、プレゼンテーション等を通して、急性期、回復期における評価法やリスクマネジメントや援助の具体策について探求する
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 精神科入院医療における精神看護の役割と看護実践の特質について理解を深める</li> <li>2 急性期、回復期における評価法について理解を深める</li> <li>3 精神科入院医療におけるリスクマネジメントについて理解を深める</li> </ol>
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 精神科入院医療における評価法について論述できる</li> <li>2 アセスメントツールを適用した評価法にもとづいた有効な看護実践について論述できる</li> <li>3 精神保健看護に特有なリスクマネジメントについて論述できる</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 担当決定</p> <p>第3-6回 資料収集</p> <p>第7-14回 各テーマに関するプレゼンテーションと討議</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の進め方	発表、討論
テキスト、教材、参考書	適宜紹介する
成績評価の方法	出席、発表、提出物等を総合的に評価する
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	

科目名	精神看護学演習 Practice in Psychiatric and Mental Health Nursing
担当教員	下里 誠二
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	地域・国際・精神看護学領域 / 1年次 後期 月曜・2時限 月曜・7時限
単位数、講義室	2単位
授業概要	精神保健、精神看護学に関する国内外の先行研究レビューを行い、プレゼンテーション、討議によって、精神保健看護学領域の知識を得て、研究的視点、課題を明らかにする。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	1 文献レビューにより、精神保健・精神看護に関連した最新の知見を学ぶ 2 精神看護学で扱うべき研究課題を明らかにする
SBOs（行動目標）	1 文献調査により精神保健・看護に関する最新の知見を入手できる 2 海外のトピックスなど関連領域の情報、先行研究から専門知識を深めるとともに、精神看護で扱うべき研究課題を列挙できる
授業計画	1 精神保健・精神看護に関する研究の動向の検討 2 精神保健・精神看護に関する研究の方法についての検討 3 関心領域の文献検討にもとづく重要な研究課題の抽出 4 研究課題の精選
授業の進め方	プレゼンテーション、討議
テキスト、教材、参考書	適宜紹介する
成績評価の方法	出席、発表、提出物等で評価する
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	

科目名	精神看護学演習 Practice in Psychiatric and Mental Health Nursing
担当教員	下里 誠二
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	地域・国際・精神看護学領域 / 2年次 前期 月曜・4時限 火曜・6時限
単位数、講義室	2単位
授業概要	病院、地域における精神科医療の中でそれぞれ関心のあるフィールドを設定し演習を通して関心のあるテーマから臨床研究の方法論を探求する
一般学習目標G10（期待される学習効果）	精神保健看護における関心領域の看護実践に関する課題を理解した上で実際のフィールドに出て具体的な研究方法について検討する
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 精神保健看護における関心領域の看護実践に関する具体的な研究方法と課題について検討できる</li> <li>2 特定の看護実践に關与する専門職から現状に関する意見を聴取して文献と検証しながら課題の理解を深めることができる</li> <li>3 文献を通じた論理的な検証を加えて実際のデータと統合して研究遂行能力を高めることができる</li> </ol>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 精神保健看護の対象についての特性、課題と支援方法について文献を系統的に収集し分析・検討する</li> <li>2 関心領域の施設を選定しそのフィールドにおける演習を行う</li> <li>3 演習結果の分析を通じて実践上の問題と具体的な研究方法を検討する</li> <li>4 プレゼンテーションと討議</li> </ol>
授業の進め方	演習、プレゼンテーション、討議
テキスト、教材、参考書	適宜紹介する
成績評価の方法	演習の状況、発表、提出物等で総合的に評価する
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	

科目名	精神看護学特別研究 Research Thesis (Master's) in Psychiatric and Mental Health Nursing
担当教員	下里 誠二
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	地域・国際・精神看護学領域 / 2年次 通年 月曜・3時限 月曜・4時限・不定
単位数、講義室	10単位
授業概要	精神看護学に関する研究テーマを設定し、適切な研究方法を用いて研究を遂行し修士論文を完成させる
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 研究テーマを決定し適切な研究デザインにより研究対象・方法を選択し研究計画書を作成する</li> <li>2 研究に関する倫理的課題を理解し対象への配慮ができる</li> <li>3 研究計画に従って研究を遂行し修士論文を完成する</li> </ol>
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 研究テーマ、対象・方法、分析方法が適切で遂行に無理のない研究計画書が作成できる</li> <li>2 研究実施上必要な配慮を含む倫理審査申請書が作成できる</li> <li>3 計画書に従って研究を遂行し修士論文を完成することができる</li> </ol>
授業計画	<p>テーマに関する文献の検討 研究計画書の作成、倫理審査申請書の作成 研究計画書に従って研究を遂行し研究結果を出す。 修士論文の完成</p>
授業の進め方	教員と相談しながらすすめる
テキスト、教材、参考書	
成績評価の方法	研究の各プロセスの遂行状況と提出された修士論文で評価する
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	

科目名	病態検査解析学 Diagnostic Laboratory Investigation
担当教員	奥村 伸生 高 昌星, 太田 浩良, 川上 由行, 藤本 圭作, 羽山 正義
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 1年次 前期 火曜・5時限 火曜・6時限
単位数、講義室	2単位 保健学科231講義室
授業概要	臨床検査成績から各種疾患の病態を解析するための方法論とその意義について学ぶ(オムニバス方式)
一般学習目標G10(期待される学習効果)	各種疾患の病態を解析するための方法論を修得し、情報収集能力と情報分析能力を向上させる。
SBOs(行動目標)	各種疾患の病態の基本的な事項およびその機序について説明できる。 臨床検査の意義が理解でき、さらに進めるべき検査について説明することができる。
授業計画	4/10、4/17化学検査成績を呈示し、各種疾患の病態を解析するための方法論とその意義について教授する。(奥村伸生) 4/24、5/8 免疫性神経疾患の病態を解明するための方法論と意義について教授する。(高昌星) 5/15、5/22 消化器病変を中心に組織および細胞に認められる形態的变化の理解に必要な方法論について教授する。(太田浩良) 5/29、6/5 感染性疾患の臨床微生物学的アプローチに必要な解析方法とその意義について教授する。(川上由行) 6/12、6/19 血液検査成績を呈示し、病態を解析するための方法論とその意義について教授する。(高宮 脩) 6/26、7/3 呼吸機能検査成績を提示し、病態を解析、診断するための方法論とその意義について解説する。(藤本圭作) 7/10、7/17 病理組織細胞診断成績を呈示し、病理診断を導くための方法論とその意義について教授する。(羽山正義) 7/24 まとめ、レポート提出
授業の進め方	臨床例を呈示し、病態、検査の進め方と考え方、検査方法等を討論する。
テキスト、教材、参考書	主としてセミナー形式で行う
成績評価の方法	討論,出席状況およびレポートから総合的に評価する。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	図書館やITを利用して様々な医学・医療情報を収集して授業に臨むこと。 個別の相談は事前の連絡によって随時対応する (奥村) e-mail ; nobuoku@shinshu-u.ac.jpまたは内線3570 (高) e-mail ; kshosei@shinshu-u.ac.jpまたは内線3566 (太田) e-mail ; hohta@shinshu-u.ac.jpまたは内線3567 (川上) e-mail ; yk23724@shinshu-u.ac.jpまたは内線3557 (藤本) e-mail ; keisaku@shinshu-u.ac.jpまたは内線3571 (羽山) e-mail ; qhayama@shinshu-u.ac.jpまたは内線3567 (高宮) e-mail ; itosamu@shinshu-u.ac.jpまたは内線3569

科目名	病態血液検査学特論 Special Lectures in Clinical Laboratory Hematology
担当教員	寺澤 文子
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 1年次 後期 金曜・5時限 金曜・6時限
単位数、講義室	2 単位 保健学科 2 3 1 講義室
授業概要	血液は常に流動性を保ちながら血管を通じて全身を隈なく循環し、種々の生理的機能を営みながら生命を維持するための重要な役割を担っている。その構成成分は病態を反映して変化し、臨床的に重要な様々な情報を提供する。本特論では、血栓止血異常症ならびに血漿蛋白異常症の分子生物学的検査法および病態解析法を教授し、それらの臨床的意義の理解を深める。また、血栓止血異常症ならびに血漿蛋白異常症に関する診断価値の高い検査法を確立するため、検査技術の改良や開発の能力を育成する
一般学習目標G10（期待される学習効果）	遺伝性血栓止血異常症ならびに血漿蛋白異常症について、異常を呈するメカニズムと構造異常との関連を説明する手順を通して、基礎的な分子生物学的研究の進め方を学ぶ。
SBOs（行動目標）	異常フィブリノゲン（特に欠損症）を題材にして、遺伝子解析技術や電気泳動法を用いるタンパク分析法の知識と技術を習得し、分子レベルでの病態説明を進めるための基本的な解析を行うことができる。
授業計画	第1回（9月28日）講義・討論 - 血清タンパク異常概論 第2回（10月5日）講義・討論 - 遺伝子解析法 第3回（10月12日）講義・討論 - 電気泳動法の理論と実際 第4回（10月19日）講義・討論 - フィブリノゲン欠損症の同定法 第5回（10月26日）講義・討論 - フィブリノゲン欠損症の遺伝子発現1 第6回（11月2日）講義・討論 - フィブリノゲン欠損症の遺伝子発現2 第7回（11月9日）講義・討論 - フィブリノゲン欠損症の遺伝子発現2 第8回（11月16日）講義・討論 - 止血機構の分子生物学1 第9回（11月30日）講義・討論 - 止血機構の分子生物学2 第10回（12月7日）講義・討論 - 血小板機能異常 第11回（12月14日）講義・討論 - 凝固異常1 第12回（12月21日）講義・討論 - 凝固異常2 第13回（12月26日）講義・討論 - 凝固制御異常 第14回（1月11日）講義・討論 - 線溶異常 第15回（1月18日）まとめ
授業の進め方	論文、プリント、スライドによる講義と討論を行う。
テキスト、教材、参考書	授業の中で紹介する
成績評価の方法	高宮 / 寺澤：レポ - ト・討論内容・出席状況から総合的に評価する。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	随時質問を受け付ける。個別の相談研究室で対応する。

登録コード:MA750300		授業科目区分	選択科目
科目名	病態血液検査学演習 Practice in Clinical Laboratory Hematology		
担当教員	寺澤 文子 高宮 脩		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 2 年次	前期	月曜・4 時限 月曜・5 時限
単位数、講義室	4 単位	保健学科 2 2 1 講義室	
授業概要	血栓止血異常症ならびに血清蛋白異常症に関する検査法の基礎的技術や新しい検査技術とその意義を教授し、病因・病態解析ができる応用能力を育成するとともに、臨床検査の実践の場で異常値や異常反応に対応できる基礎知識と応用技術を習得させる。また、研究内容に関連する文献購読と指導教員を交えた討論より研究を進めるための基礎的能力を養う。(オムニバス方式)		
一般学習目標G10(期待される学習効果)	(寺澤文子) 関連原著論文を読み、討論を通して実際的な実験計画ができ、研究の進め方が理解できるようになること。  (高宮 脩) 血栓止血学関連の原著論文を読み、討論を通して凝固線溶因子、血小板の基礎的な分子生物学的機能と研究方法を習得する。		
SBOs(行動目標)	(寺澤文子) 関連研究論文を読み、実践的な研究を進めることができる。  (高宮 脩) 関連原著論文を読みそれらを研究に応用することができる。		
授業計画	<寺澤文子> 第1回(4月9日) 関連論文の原書講読 第2回(4月16日) 関連論文の原書講読 第3回(4月23日) 関連論文の原書講読 第4回(5月1日) 関連論文の原書講読 第5回(5月7日) 関連論文の原書講読 第6回(5月14日) 関連論文の原書講読 第7回(5月21日) 関連論文の原書講読 <高宮 脩> 第8回(5月28日) 関連論文の原書講読 第9回(6月4日) 関連論文の原書講読 第10回(5月11日) 関連論文の原書講読 第11回(6月18日) 関連論文の原書講読 第12回(6月25日) 関連論文の原書講読 第13回(7月2日) 関連論文の原書講読 第14回(7月9日) 関連論文の原書講読 <寺澤文子> 第15回(7月23日) まとめ		
授業の進め方	主としてセミナー形式で行う。		
テキスト, 教材, 参考書	(寺澤文子) 原著論文 (高宮 脩) 原著論文		
成績評価の方法	寺澤文子 / 高宮 脩: レポ - ト・討論内容・出席状況から総合的に評価する。		
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	図書館やITを利用して様々な医学・医療情報を収集して授業に臨むこと。  (寺澤文子) 質問および個別の相談は事前の連絡 ( fterasa@shinshu-u.ac.jp ) によって随時対応する  (高宮 脩) 個別の相談は事前の連絡 ( e-mail ; itosamu@gipac.shinshu-u.ac.jp または 内線3569 ) によって随時対応する		

登録コード:MA750400		授業科目区分	選択科目
科目名	生体分子情報検査学特論 Special Lectures in Function of Biochemical Molecules		
担当教員	奥村 伸生 日高 宏哉, 亀子 文子		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 1 年次	前期	火曜・ 1 時限 火曜・ 7 時限
単位数、講義室	2 単位	保健学科 3 3 1 講義室 保健学科 2 4 1 講義室	
授業概要	血液・尿に代表される生体試料中に存在する蛋白質・脂質・糖質・ミネラルなどの微量成分の量的および質的異常を原因とする疾患において、その病因を遺伝子情報あるいはそれ以外の分子情報から解析する。さらに引き起こされる病態と病因との関係を明らかにするために必要となる、分子機能解析法の知識および技術を教授する。また、代謝異常症の発症原因を追求のための分析法や病態を解明するための検出法を開発する能力を指導する。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<p>（奥村）異常状態を早期にしかも適確に疑うための検査データ分析法、病因となる異常な分子を同定するための分子異常解析法、および病因と病態を結びつけるための機能異常解析法を理解する。</p> <p>（日高）生体試料中のリポタンパク質の構造および機能解析法を通して、脂質代謝異常症の検出法および発症原因追求のための研究技術法を理解するとともに、代謝異常症の発症原因を追求するための機序や病態を解明するための検出法や解析法を開発する能力を育成する。</p> <p>（亀子）体液中の生体情報を分析・解析するための、免疫グロブリン精製法と抗体を用いた（イムノアフィニティ）タンパク抗原精製法の理論と技術を理解する。</p>		
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 異常状態を早期にしかも適確に疑うための検査データ分析能力を高める。</li> <li>2) 病因となる異常な分子を同定するための分子異常の解析能力を高める。</li> <li>3) 病因と病態を結びつけるための機能異常解析能力を高める。</li> <li>4) 分子異常情報から代謝の異常を説明できる。</li> <li>5) 分析・解析のための情報収集能力とその分析能力を習得する。</li> <li>6) 免疫グロブリン精製法と抗体を用いたタンパク抗原精製法の理論と技術を修得する。</li> </ol>		
授業計画	<p>4/10 第1回 リポタンパク質の組成と代謝 1（生理活性）（日高）</p> <p>4/17 第2回 リポタンパク質の組成と代謝 2（代謝異常症）（日高）</p> <p>4/24 第3回 リポタンパク質の蛋白・脂質、代謝活性の分析法 1（日高）</p> <p>5/ 8 第4回 リポタンパク質の蛋白・脂質、代謝活性の分析法 2（日高）</p> <p>5/15 第5回 リポタンパク質の代謝機序の解析 1（日高）</p> <p>5/22 第6回 リポタンパク質の代謝機序の解析 2（日高）</p> <p>5/29 第7回 脂質メディエーターの生成と生理機能の解析 1（日高）</p> <p>6/ 5 第8回 血清中からの免疫グロブリン精製法（亀子）</p> <p>6/12 第9回 抗体を用いたタンパク抗原精製法（亀子）</p> <p>6/19 第10回 フィブリノゲン異常症と欠損症を疑う臨床検査値と他の原因の鑑別法（奥村）</p> <p>6/26 第11回 遺伝子検査によるフィブリノゲン異常症と欠損症の同定法（奥村）</p> <p>7/ 3 第12回 遺伝子工学による異常フィブリノゲンの産生法（奥村）</p> <p>7/10 第13回 フィブリノゲンの精製法と各種電気泳動法による蛋白質の確認（奥村）</p> <p>7/17 第14回 フィブリノゲンの機能解析法（奥村）</p> <p>7/24 第15回 フィブリノゲン欠損症の原因を解析するための分子細胞学的研究法（奥村）</p>		
授業の進め方	論文、プリント		
テキスト、教材、参考書	授業の中で紹介する		
成績評価の方法	出席（10%）、レポート提出と内容（40%）、授業態度（討論への参加）（50%）を総合して評価する。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	<p>（奥村伸生）個別の相談は事前の連絡（e-mail：nobuoku@shinshu-u.ac.jpまたは内線3570）によって随時対応する。</p> <p>（日高宏哉）個別の相談は事前の連絡（e-mail：hiroyan@shinshu-u.ac.jpまたは内線3538）によって随時対応する。</p> <p>（亀子文子）個別の相談は事前の連絡（e-mail：fkameko@shinshu-u.ac.jpまたは内線3565）によって随時対応する。</p>		

科目名	生体分子情報検査学演習 Practice in Function of Biochemical Molecules
担当教員	奥村 伸生 日高 宏哉
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 2年次 前期 火曜・6時限 火曜・7時限
単位数、講義室	4単位 保健学科241講義室
授業概要	患者血液・尿・髄液の臨床検査データから量的および質的異常を呈している分子を明らかにするとともに、その原因となる分子を追跡するための検査データ分析を演習する。さらに、原因分子を同定するための解析法を蛋白質異常症と欠損症、脂質代謝異常症を中心に演習する。また、原因分子の異常あるいは欠損と患者症状・病態との関係を解析するための機能解析法を演習する。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	（奥村）患者病態異常の原因となる分子を追跡するために検査データの解析法を理解する。さらに原因分子を同定するための解析法をフィブリノゲン異常症と欠損症を中心に理解する。また、原因分子の異常あるいは欠損と患者症状・病態との関係を解析するためにフィブリノゲン機能発現における各種電解質の作用解析法を理解する。 （日高）生体試料中のリボ蛋白組成分子の構造および機能解析法を通して、脂質代謝異常症の検出法および発症原因追求のための研究技術法を理解するとともに、代謝異常症の発症原因を追求のための機序や病態を解明するための検出法や解析法を開発する能力を育成する。
SBOs（行動目標）	1) 患者病態異常の原因となる分子を追跡するために検査データの分析能力を習得する。 2) 原因分子を同定するための解析をフィブリノゲン異常症と欠損症を中心に実施でき解析能力を習得する。 3) 原因分子の異常あるいは欠損と患者症状・病態との関係を解析できる能力を習得する。 4) 分子異常の検出結果から代謝の異常を説明できること。 5) 分析のための関連情報収集能力とその解析能力を習得する。
授業計画	4/10～7/24: 1. 研究結果を他人が理解しやすいようにまとめる 2. 関係論文を読む 3. 研究結果を他者の論文の結果と比較する 4. 研究結果を考察する 5. 次の実験計画を立てる 6. 研究結果をまとめ、パワーポイントでプレゼンテーションする 7. 実際に1回以上の学会発表をする 8. 研究結果を論文としてまとめることを演習する  1-8を繰り返し行う
授業の進め方	自分の実施している研究結果について、他の研究者の結果と比較検討することにより、研究結果を考察をするとともに、つぎにどのような実験をすべきか計画を立てることができる。このサイクルを繰り返し、身に付けることができるように授業を展開する。
テキスト、教材、参考書	各種英文論文（Clinical Chemistry, Clinica Chimica Acta, Blood, Journal of Thrombosis and Haemostasis, Thrombosis and Haemostasis, Thrombosis Resaerch, Journal of Biochemistry, Journal of Lipid Rsearch, Annals of Clinical Laboratory Scienceなど）
成績評価の方法	討論の内容により評価する。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	自分で英文論文を読み込むことができること。質問・相談は直接研究室まで来て下さい。 （奥村伸生）個別の相談は事前の連絡（e-mail：nobuoku@shinshu-u.ac.jpまたは内線3570）によって随時対応する。 （日高宏哉）個別の相談は事前の連絡（e-mail：hiroyan@shinshu-u.ac.jpまたは内線3538）によって随時対応する。

登録コード:MA750600	授業科目区分	選択科目
科目名	感染生体防御検査学特論 Special Lectures in Infection Control & Biological Regulation	
担当教員	川上 由行 相良 淳二, 小穴 こず枝	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 1年次	後期 木曜・2時限 木曜・6時限
単位数、講義室	2 単位	保健学科2 4 1 講義室 保健学科2 3 1 講義室
授業概要	21世紀は、再興・新興感染症が注目されるなど感染症の時代と言われ、病原体はバイオテロのツールとしての危険性も指摘されている。一方、DPCシステムが本邦でも導入されるに至り、良質な医療保証のための基本であるとされる院内感染制御が重要視されている。感染防御とアポトーシスの関係など、感染から身を守る巧妙な生体の防御機構を理解し、科学的根拠に基づいた感染防御対策を論理的に遂行・評価するために必要な知識・技術に関する事項について教授する。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 院内感染対策活動の進め方、組織作りと役割分担について理解する。</li> <li>・ 疾患別院内感染予防対策について、また部署別院内感染予防対策について、特に臨床微生物学的視点から感染制御活動に参画して行く為に必須な事項について列挙することができる。</li> <li>・ 感染症起因微生物と宿主因子(熱ショック蛋白質と細胞骨格)との相互作用およびアポトーシス誘導現象について、病原性との関連性を説明できる。</li> <li>・ 感染症微生物検査に必要な遺伝子工学や蛋白質化学の基礎技術を習得する。</li> </ul>	
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨床微生物学・生化学・遺伝子検査学等の、感染症に関連する科目の知識が総合的・系統的に理解できる。</li> <li>・ 今、現実におきている感染症関連の身近なテーマを題材にするので、日常のニュースに敏感になる機会とする。</li> <li>・ 感染症の症例を微生物学のみならず、関連する専門科目の知識と総合して考える機会とする。</li> <li>・ 感染症対策へ向けて、地域や国家レベルでの対応の必要性を理解することができる。</li> <li>・ 感染制御分野における「臨床検査技師像」を確固たるものにして、目指すべき方向性を考える機会とする。</li> </ul>	
授業計画	第1回（10月4日）感染制御に必要な化学療法学 抗菌剤の有効性と関連 <sup>レ</sup> ラム-タ(川上) 第2回（10月11日）国際社会における感染制御 新型インフルエンザ(川上) 第3回（10月18日）医療機関における感染制御 多剤耐性菌(川上) 第4回（10月25日）フォールディング異常症とプリオン病のサイエンス(川上) 第5回（11月1日）ノロウイルスとノロウイルス感染の疫学(川上) 第6回（11月8日）感染制御に必要なテクノロジー 1(小穴) 第7回（11月15日）感染制御に必要なテクノロジー 2(小穴) 第8回（11月22日）感染制御に必要なテクノロジー 3(小穴) 第9回（11月29日）感染制御に必要なテクノロジー 4(小穴) 第10回（12月6日）感染制御に必要なテクノロジー 5(小穴) 第11回（12月13日）感染と細胞死(相良) 第12回（12月20日）感染と細胞骨格(相良) 第13回（1月10日）自然免疫(1)Toll-like受容体(相良) 第14回（1月17日）自然免疫(2)NODファミリー(相良) 第15回（1月24日）自然免疫(3)ASC(相良) 第16回（1月31日）まとめと試験またはレポート(川上・相良・小穴)	
授業の進め方	プリントした教材の配付、スライド等を活用しての展開 教科書は特に指定しない。	
テキスト、教材、参考書	教科書は特に指定しない。	
成績評価の方法	出席状況および試験(レポート)の評価による。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	少人数の講義です。気軽に質問を浴びせて下さい。学生さんと一緒に考えながら授業を進めて行きます。	

科目名	感染生体防御検査学演習 Practice in Infection Control & Biological Regulation
担当教員	川上 由行 相良 淳二, 小穴 こず枝
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 2 年次 前期 水曜・5 時限 水曜・6 時限
単位数、講義室	4 単位 保健学科 2 4 1 講義室
授業概要	再興・新興感染症が注目されている今日、各種感染症における感染病原因子の迅速な検出と的確な対応が求められている。また、感染病原因子が生体に及ぼす機構に関しては、感染細胞におけるアポトーシス誘導機構など、分子レベルでの知見が蓄積されてきており、それらの正確な理解が急務となっている。一方、良質な医療の保証には基本であるとされる院内感染制御が重要視されているが、科学的根拠に基づいた感染制御の論理的な遂行に必要な事項について演習形式で教授する。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトブレイクの経緯と病態の現状を正確に把握し、病原微生物の伝播の可能性を迅速に判断して適切な対応で病原体を最小限に封じ込める為に必要な、臨床微生物学的、化学療法的、感染症学的な知識・技術について理解する。</li> <li>・培養細胞を用いる感染実験法および、アポトーシス判定法について理解する。</li> <li>・感染制御に必要な臨床微生物学的検査法の開発や評価に有用なPCR法、遺伝子クローニング法、モノクローナル抗体作製法について習得する。</li> </ul>
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染制御に必要な「臨床微生物学」、「化学療法学」、「生化学」、「遺伝子検査学」等の学術知識を総合的且つ系統的に組み立てることができる。</li> <li>・感染制御に必要な臨床微生物学および遺伝学的研究手法を適切に取捨選択してアプローチに際して用いることができる。</li> <li>・感染制御に必要な種々の情報を適切に収集・処理することができる。</li> </ul>
授業計画	<p>第 1, 2 回（4月11日）2008年改訂感染症法の運用状況と国内感染症の動向（川上）</p> <p>第 3, 4 回（4月18日）感染対策チーム（ICT）における ICN・ICMT・ICD の役割（川上）</p> <p>第 5, 6 回（4月25日）病院内感染で特に問題となる微生物と薬剤耐性菌（川上）</p> <p>第 7, 8 回（5月 9日）感染症の症例を臨床微生物学的視点から学ぶ 1, 2（川上）</p> <p>第 9, 10回（5月16日）感染症の症例を臨床微生物学的視点から学ぶ 3, 4（川上）</p> <p>第11, 12回（5月23日）臨床微生物学の研究手法を学ぶ 1, 2（小穴）</p> <p>第13, 14回（5月30日）臨床微生物学の研究手法を学ぶ 3, 4（小穴）</p> <p>第15, 16回（6月 6日）臨床微生物学の研究手法を学ぶ 5, 6（小穴）</p> <p>第17, 18回（6月13日）臨床微生物学の研究手法を学ぶ 7, 8（小穴）</p> <p>第19, 20回（6月20日）臨床微生物学の研究手法を学ぶ 9, 10（小穴）</p> <p>第21, 22回（6月27日）モノクローナル抗体作製法 1, 2（相良）</p> <p>第23, 24回（7月 4日）自然免疫関連（英語）論文演習 1, 2（相良）</p> <p>第25, 26回（7月11日）自然免疫関連（英語）論文演習 3, 4（相良）</p> <p>第27, 28回（7月18日）自然免疫関連（英語）論文演習 5, 6（相良）</p> <p>第29, 30回（7月25日）自然免疫関連（英語）論文演習 7, 8（相良）</p> <p>第31, 32回（8月 1日）まとめと試験またはレポート</p>
授業の進め方	出来る限り、学生さんとの対話形式で授業展開していきます。
テキスト、教材、参考書	授業に必要な教材は、プリントするなどして配付します。特に教科書等は指定しません。
成績評価の方法	出席状況および試験（レポート）の評価による。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	学生さんとの対話形式ですので、気軽に質問を投げかけてください。

科目名	組織細胞病態検査学特論 Special Lectures in Cell and Tissue Pathophysiology
担当教員	太田 浩良 羽山 正義
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 1年次 前期 木曜・3時限 木曜・6時限
単位数、講義室	2単位 保健学科2 1 2 講義室 保健学科2 4 1 講義室
授業概要	疾病の病態と発生機序について、組織および細胞に認められる形態的变化と遺伝子レベルの変化を関連づけ学ぶ。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	1. 基本的な疾病における組織および細胞に認められる形態变化の評価に必要な形態的検査手技を理解する。 2. 基本的な疾病における組織および細胞に認められる形態变化の分析能力を身につける。 3. 基本的な疾病、病態および発生機序を理解する。
SBOs（行動目標）	1. 呼吸器、循環器、消化器、内分泌臓器および泌尿・生殖器の基本的な疾病における組織および細胞に認められる形態变化の分析能力を身につけ、形態的变化を理解し、また病態および発生機序を説明できる。
授業計画	4/12 第1回 病気と遺伝子（太田） 4/19 第2回 癌（総論）（太田） 4/26 第3回 免疫疾患（太田） 5/10 第4回 呼吸器（太田） 5/17 第5回 循環器（太田） 5/24 第6回 消化器（太田） 5/31 第7回 内分泌臓器（太田） 6/ 7 第8回 泌尿・生殖器（太田） 6/14 第9回 病理検査の方法と技術(講義)（羽山） 6/21 第10回 病理検査の方法と技術(研究棟見学)（羽山） 6/28 第11回 病理診断における組織化学的検査法（羽山） 7/ 5 第12回 病理診断における組織化学的検査法（羽山） 7/12 第13回 病理診断における免疫組織化学的検査法（羽山） 7/ 9 第14回 病理診断における免疫組織化学的検査法（羽山） 7/26 第15回 感染症の組織化学的同定法（羽山） 8/ 2 第16回 in situ hybridizationの病理診断への応用（羽山）
授業の進め方	スライド教材を使用した講義と組織標本の作成・評価法の実技をまじえ教授する。
テキスト、教材、参考書	教科書：指定せず 参考書：Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease Elsevier Saunders
成績評価の方法	出席、レポート、授業態度（討論への参加）を総合して評価する。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問、相談には講義中および研究室にて対応します。

科目名	組織細胞病態検査学演習 Practice in Cell and Tissue Pathophysiology
担当教員	太田 浩良 羽山 正義
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 2 年次 前期 木曜・6 時限 木曜・7 時限
単位数、講義室	4 単位 保健学科 2 3 1 講義室
授業概要	病理組織細胞学的検査で応用される古典的染色法、組織化学的および免疫組織化学的染色法、さらには遺伝子発現を捉えるための in situ hybridization 法などの方法論を病態変化と関連づけて学ぶ。また、電子顕微鏡および共焦点レーザースキャン顕微鏡などによる解析法を学ぶ。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	1．病理形態学的検査に用いられる組織化学的染色法、免疫組織化学的染色法、in situ hybridization 法などの意義と方法を理解できる。 2．電子顕微鏡および共焦点レーザースキャン顕微鏡などの観察法を理解できる。 3．病理組織細胞学的分析能力を身につけ、疾病にみられる形態学的変化を理解できる。
SBOs（行動目標）	1．病理組織細胞学的診断に必要な解析法を説明できる。 2．組織化学的染色法、免疫組織化学的染色法、in situ hybridization 法などの比較的新しい形態学的検査に適した材料の処理方法を説明できる。 3．組織化学的染色法、免疫組織化学的染色法、in situ hybridization 法などの比較的新しい形態学的検査を疾患による形態学的変化と関連づけて説明できる。 4．電子顕微鏡および共焦点レーザースキャン顕微鏡などの観察法を疾患と関連づけて説明できる。
授業計画	4/12 第 1回 病理診断に応用される検査法の意義と方法論の理解 4/19 第 2回 病理診断に応用される検査法の意義と方法論の理解 4/26 第 3回 病理診断に応用される検査法の意義と方法論の理解 5/10 第 4回 病理診断に応用される検査法の意義と方法論の理解 5/17 第 5回 病理診断に応用される検査法の意義と方法論の理解 5/24 第 6回 検査法の実技実習（見学） 5/31 第 7回 検査法の実技実習（見学） 6/ 7 第 8回 検査法の実技実習（見学） 6/14 第 9回 検査法の実技実習（見学） 6/21 第10回 検査法の実技実習（見学） 6/28 第11回 疾患にともなう形態学的変化の観察法 7/ 5 第12回 疾患にともなう形態学的変化の観察法 7/12 第13回 疾患にともなう形態学的変化の観察法 7/19 第14回 疾患にともなう形態学的変化の観察法 7/26 第15回 疾患にともなう形態学的変化の観察法 8/ 2 第16回 まとめ
授業の進め方	講義と実習（見学を含む）
テキスト，教材，参考書	教科書：指定しない 参考書：随時紹介する
成績評価の方法	レポート・受講態度を総合して評価する。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	質問、相談は随時対応します。

科目名	神経呼吸免疫科学特論 Special Lectures in Neuro-Respiratory Immunology
担当教員	高 昌星 藤本 圭作
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 1年次 後期 木曜・6時限 木曜・7時限
単位数、講義室	2単位 保健学科212講義室
授業概要	最近、難治性疾患が増加する傾向にあり、その多くは発症機序が不明であり、診断・治療法の確立が急がれている。本講義では免疫性神経疾患における細胞性免疫機構とサイトカインの重要性について概説し、ウイルス誘導による脱髄疾患の動物実験モデルおよび髄鞘の再生機構について詳述する。また、アポトーシス誘導機構およびインターロイキン変換酵素の活性化機構について詳述し、神経変性疾患におけるアポトーシスと炎症性サイトカインの重要性について論じる。呼吸器に関しては、気管支喘息、過敏性肺炎、膠原病肺、ABPMなどの免疫性肺疾患の病態について概説し、免疫機序のどこがことなるのかについて講義する。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	免疫性神経疾患および免疫性肺疾患をはじめとした神経難病およびアレルギー性呼吸器病の発症機序について論理的に考えることが出来、問題点を探り、それを解決するための科学を探究する力を身につけることが出来る。
SBOs（行動目標）	神経および呼吸器免疫学、神経科学、呼吸生理、分子生物学の論文を批判的に読む力をつけ、すぐれたプレゼンテーションの力をつける。
授業計画	免疫性神経疾患における細胞性免疫機構とサイトカインの重要性について概説し、ウイルス誘導による脱髄疾患の動物実験モデルおよび髄鞘の再生機構について詳述する。（高昌星）  免疫性肺疾患である気管支喘息の病態および慢性閉塞性肺疾患との違い、過敏性肺炎、膠原病肺、ABPMなどの免疫性肺疾患の病態について概説し、気道炎症の成立機序および呼吸生理学的な違いについて詳述する。（藤本圭作） 10月4日（木曜日）7コマ目に講義および抄読会の予定を伝えます。
授業の進め方	オムニバス方式とし、最新の論文をPubMedで検索し、文献を批判的に読む力をつける。
テキスト、教材、参考書	内科学（朝倉書店第9版）、Journal of Neuroimmunologyなどから抜粋する。
成績評価の方法	レポートおよびプレゼンテーションと口頭試問により評価する。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	可能な限り、随時受け付ける。

科目名	神経呼吸免疫科学演習 Practice in Neuro-Respiratory Immunology
担当教員	高 昌星 藤本 圭作, 亀子 文子
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 2年次 前期 月曜・6時限 月曜・7時限
単位数、講義室	4単位 保健学科231講義室
授業概要	本演習では、最近、難治性疾患の発症機序の解明に大きく役立ってきた、脱髄疾患の動物実験モデルである実験的自己免疫性脳脊髄炎およびタイラーウイルス誘導による脱髄疾患モデルの作製方法と培養リンパ球の解析およびその分子生物学的解析法を教授する。また神経変性疾患の病院病態解析に必要なアポトーシス判定法、インターロイキン変換酵素の活性測定法、サイトカイン濃度測定法を概説し、その重要性を認識し、実際に演習を行なう。 また、本演習では気管支喘息の特徴である好酸球性気道炎症の評価法および呼吸機能検査法の実際について解説し、実際に演習をおこなう。さらに、夜間睡眠呼吸障害についても解説し、睡眠検査を実施する。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	免疫性神経疾患をはじめとした神経難病の発症機序について論理的に考えることが出来、問題点を探り、それを解決するための科学を探究する力を身につけることができる。気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患および睡眠呼吸障害の病態について理解し、気道炎症や気道過敏性、夜間呼吸モニターを含む呼吸機能を理解し、実施することができる。
SBOs（行動目標）	神経免疫学、神経科学、分子生物学および呼吸器病学の論文を批判的に読む力をつけ、すぐれたプレゼンテーションの力をつける。
授業計画	脱髄疾患の動物実験モデルである実験的自己免疫性脳脊髄炎およびタイラーウイルス誘導による脱髄疾患モデルの作製方法と培養リンパ球の解析およびその分子生物学的解析法を取得し、実際に演習を行なう。（高 昌星）  誘発喀痰および呼気凝集液、呼気nitric oxide測定による気道炎症の評価、気道過敏性検査、呼吸機能検査、夜間呼吸モニターの手技を理解する。（藤本圭作）授業の具体的な日程については相談する。
授業の進め方	実験計画の立案、実施計画の立て方、実施について議論しながら、実験・演習を行なう。
テキスト、教材、参考書	内科学（朝倉書店第9版）、Cell、分子生物学
成績評価の方法	研究報告およびプレゼンテーションと口頭試問により評価する。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	可能な限り、随時受け付ける。

科目名	病因・病態検査学特別研究(病態) Research Thesis (Master's) in Clinical Laboratory Investigation
担当教員	寺澤 文子
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 2年次 通年 ・不定
単位数、講義室	10単位
授業概要	研究計画に基づいて研究を行なう。結果をまとめ、考察し、国内外での学会発表、誌上発表ができるよう指導する。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	研究テーマに沿って実験計画から実践、結果に対する考察および関連文献の検索、さらに文献に対する考察ができ、修士論文作成ができるようになること。
SBOs（行動目標）	研究テーマに関連する文献検索と判読ができる。さらに実験計画から実践、結果に対する考察ができ、論文作成および学会発表ができる。
授業計画	研究テーマを決め、参考文献を収集し、実験計画をたてる。実験結果についてまとめと考察を行い、論文を作成する。
授業の進め方	研究テーマに沿った実験、討論、論文作成を行う。
テキスト、教材、参考書	特に指定しない。
成績評価の方法	研究姿勢や論文のまとめ方など総合的に評価する。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問および個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。

科目名	病因・病態検査学特別研究(生体) Research Thesis (Master's) in Clinical Laboratory Investigation
担当教員	奥村 伸生
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 2年次 通年 ・不定
単位数、講義室	10単位
授業概要	(奥村伸生) 研究概要は、タンパク質解析と遺伝子解析、遺伝子工学によるリコンビナントタンパク質の発現、培養細胞を用いた分子生物学的機能解析である。
一般学習目標G10(期待される学習効果)	(奥村伸生) 研究計画を立て、研究を行い、その結果をまとめ、討論を行い、結果を考察する。
SBOs(行動目標)	(奥村伸生) 2年次の前期に、専門学会で結果の発表を行うための情報発信する能力を習得する。 2年次の後期に、修士論文の内容を国内の専門雑誌に投稿できる情報発信する能力を習得する。 修了後できるだけ早い時期に修士論文の内容を外国専門雑誌に投稿できる情報発信する能力を習得する。
授業計画	1) 研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる。 2) 計画にそって実験を実施する。 3) 実験結果や調査結果をまとめ、その結果を評価・考察する。 以上のような研究サイクルによって研究テーマを発展させる。その成果を学会などにおいて発表し、最終的には修士論文としてまとめる。教員は討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。
授業の進め方	1年次前期の空き時間から、研究テーマを決め、それに沿った論文を収集し実験計画の立案を行う。それに基き、順次実験を行い、その結果を解析し考察を行う。
テキスト, 教材, 参考書	特に指定しない。
成績評価の方法	研究への取り組みの状況を総合的に評価する。
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	(奥村伸生) 個別の相談は事前の連絡(e-mail:nobuoku@shinshu-u.ac.jpまたは内線3570)によって随時対応する。

科目名	病因・病態検査学特別研究(生体) Research Thesis (Master's) in Clinical Laboratory Investigation
担当教員	日高 宏哉
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 2年次 通年 ・不定
単位数、講義室	10単位
授業概要	脂質の基本的機能（膜構成成分、輸送、栄養）および高次機能（代謝制御；メタボリックシンドローム）を把握するために、脂質代謝や脂質輸送の機序の解析およびその分析法の開発について研究・指導する。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	脂質生物学の基礎知識の理解と解析技術を習得でき、脂質機能異常について考察できること。
SBOs（行動目標）	脂質生物学の基礎知識の理解と解析技術を習得し、脂質の基本的機能や高次機能について説明できること。
授業計画	1) 脂質の基本的機能（膜構成成分、輸送、栄養）の機序の解明のための実験研究 2) 高次機能（代謝制御；メタボリックシンドローム）を把握するために、調査、実験研究と病体解析 3) 脂質代謝や脂質輸送の機序の解析およびその分析法の開発研究とその応用
授業の進め方	1年次の前期の授業のない空き時間から、研究テーマを決め、それに沿った論文を収集し実験計画の立案を行う。それに基づき、順次実験を行い、その結果を解析し考察を行う。
テキスト、教材、参考書	特に指定しない。
成績評価の方法	研究への取り組みの状況を総合的に評価する。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	個別の相談は事前の連絡（e-mail：hiroyan@shinshu-u.ac.jpまたは内線3538）によって随時対応する。

科目名	病因・病態検査学特別研究(感染) Research Thesis (Master's) in Clinical Laboratory Investigation
担当教員	川上 由行
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 2年次 通年 ・不定
単位数、講義室	10単位
授業概要	再興・新興感染症が注目されている今日、各種感染症における適確な感染病原因子の迅速診断法の開発評価に関する研究を行い、併せて感染病原因子に対する臨床微生物学的研究を行う。また、良質な医療を保证するためには基本であるとされている院内感染制御が重要視されているが科学的根拠に基づいた院内感染対策を論理的に遂行するために必要な知識・技術に関する検査学について教授する。
一般学習目標G10(期待される学習効果)	疾患別院内感染予防対策について、また部署別院内感染予防対策について、特に臨床微生物学的視点から感染制御活動に参画して行く為に必須な事項について理解することが出来る。
SBOs(行動目標)	感染症の症例を微生物学のみならず、関連する専門領科学領域の知識と統合して考えることが出来る。
授業計画	1)研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる。 2)計画にそって実験および調査を実施する。 3)実験や調査結果をまとめ、その結果を評価・考察する。 以上のような研究サイクルによって研究テーマを発展させる。その成果を学会等において発表し、最終的には修士論文としてまとめる。教員は討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。
授業の進め方	毎月定期的に行うセミナーにおいて、研究の進展状況を報告し、今後の進め方に就いて討議する。
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 特になし 【参考書・参考資料等】 各研究テーマおよび関連する研究領域の原著論文および総説
成績評価の方法	研究に取り組む姿勢及び研究成果
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	随時受け付けます。

科目名	病因・病態検査学特別研究(感染) Research Thesis (Master's) in Clinical Laboratory Investigation
担当教員	相良 淳二
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 2年次 通年 ・不定
単位数、講義室	10単位
授業概要	自然免疫システムと細胞死誘導機構の基礎を解説し、感染症との関連を考えさせる。また、モノクローナル抗体技術を用いた感染診断システム構築の概略に関して教授する。
一般学習目標G10(期待される学習効果)	感染症に関して病原体側だけではなく、宿主側の諸反応を理解することにより感染症の病態の理解を深める。
SBOs(行動目標)	感染症に関する英語の解説書および論文を読むことができる。
授業計画	1)研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる。 2)計画にそって実験および調査を実施する。 3)実験や調査結果をまとめ、その結果を評価・考察する。 以上のような研究サイクルによって研究テーマを発展させる。その成果を学会等において発表し、最終的には修士論文としてまとめる。教員は討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。
授業の進め方	
テキスト,教材,参考書	課題とする英語の解説書および論文検索をお手伝いします。
成績評価の方法	研究に取り組む態度及び研究成果
学生へのメッセージ並びに質問,相談への対応	随時受け付けます。

科目名	病因・病態検査学特別研究(組織) Research Thesis (Master's) in Clinical Laboratory Investigation
担当教員	太田 浩良
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 2年次 通年 ・不定
単位数、講義室	10単位
授業概要	形態的变化を病態と関連づけて分析/解析することにより研究を指導する。
一般学習目標G10(期待される学習効果)	炎症や腫瘍に認められる形態的变化を病態と関連づけてを解析するための分析能力と方法論を修得する。
SBOs(行動目標)	正常、炎症性変化、腫瘍性変化にみられる形態変化の解析に必要な方法論について説明することができる。
授業計画	胃炎にみられる上皮細胞の病態生理及び腺癌細胞の分化について光顕的、電顕的、免疫組織化学および分子生物学的解析法を用いて探求する。
授業の進め方	ヒトや動物の組織を用いて各種の解析を行う。
テキスト,教材,参考書	特に指定せず。
成績評価の方法	研究への取り組みの状況を総合的に評価する。
学生へのメッセージ並びに質問,相談への対応	個別の相談は事前の連絡(e-mail: hohta@shinshu-u.ac.jpまたは内線3567)によって随時対応する。

科目名	病因・病態検査学特別研究(組織) Research Thesis (Master's) in Clinical Laboratory Investigation
担当教員	羽山 正義
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 2年次 通年 ・不定
単位数、講義室	10単位
授業概要	病理組織学および細胞診断学的検査における解析方法の改良や新しい解析方法の開発を目標に研究・指導する。病理組織細胞診断学における形態学的研究法の新しい技術論および病理診断方法の開発を目指した研究を行う。主として正常組織と腫瘍組織の鑑別に必要な細胞増殖能について病理診断への応用解析法の研究を行う。
一般学習目標G10(期待される学習効果)	1) 病理形態学的検査法の方法論の理解ができるとともに、病態の形態学的変化の考察ができるようになる。 2) 研究テーマにそって研究を行うことにより健康基礎科学の高度な専門知識と研究・開発能力が獲得できるようになる。 3) 成果の発表や論文作成能力が身に付けられる。
SBOs(行動目標)	病理形態学的検査(研究)法を方法論的に理解し、組織細胞学的変化を説明することができる。
授業計画	病理検査材料および実験動物材料でみられる病変を組織化学的、免疫組織化学的、分枝生物学的手法を用いて標本作製し、光顕的、電顕的および共焦点レーザー स्क্যান顕微鏡的に解析する。
授業の進め方	実際の病理検体や実験動物から得られた組織細胞を用いて、酵素抗体法や蛍光抗体法を行い、病理形態学的変化の客観的解析を行う。随時、必要な文献調査を行っていく。
テキスト, 教材, 参考書	特に指定しない。
成績評価の方法	研究への取り組みの状況を総合的に評価する。
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	個別の相談は事前の連絡(e-mail: qhayama@shinshu-u.ac.jpまたは内線3543)によって随時対応する。

科目名	病因・病態検査学特別研究(神経呼吸) Research Thesis (Master's) in Clinical Laboratory Investigation
担当教員	高 昌星
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 2年次 通年 ・不定
単位数、講義室	10単位
授業概要	本特別研究では、難治性疾患の発症機序の解明に大きく役立ってきた、脱髄疾患の動物実験モデルである実験的自己免疫性脳脊髄炎およびタイラーウイルス誘導による脱髄疾患モデルを用いて培養リンパ球の解析およびその分子生物学的解析から病態と病因解析をおこなう。 呼吸生理学に関しては、睡眠呼吸障害と自律神経機能について、先端の分析機器を用いて解析する。睡眠の質には様々な因子が関与するが、特に睡眠呼吸障害に焦点をしばって研究する。我々のコンセプトとしては、いかに無拘束で非侵襲的な方法で睡眠の質を分析するかである。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	神経変性疾患の病因病態解析法を修得する。 神経生理と呼吸生理を統合した研究であり、その理論と方法論を習得する。
SBOs（行動目標）	一般の母集団を対象として、終夜睡眠ポリグラフを施行し、同時に脈波センサーを装着し、心拍のゆらぎについて解析をおこなう。特別な解析ソフトを用いて脈波の周波数帯域を設定、解析し、覚醒、睡眠、non-REM、REMの特徴を解析する。また睡眠呼吸障害あるいは睡眠障害を有するひとではどのようなパターンを示すのかを解析する。
授業計画	授業は自主的にデータの解析をすすめていく。そして、その方法論について多くの文献を参照にして論文という形を整えていく。
授業の進め方	指導教官とのマンツーマンのdiscussionと学外の専門家とのdiscussion
テキスト、教材、参考書	特別なものは無い。
成績評価の方法	論文提出と発表
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	

科目名	病因・病態検査学特別研究(神経呼吸) Research Thesis (Master's) in Clinical Laboratory Investigation
担当教員	藤本 圭作
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 2年次 通年 ・不定
単位数、講義室	10単位
授業概要	呼吸生理学に関して、睡眠呼吸障害と自律神経機能について、先端の分析機器を用いて解析する。睡眠の質には様々な因子が関与するが、特に睡眠呼吸障害に焦点をしばって研究する。我々のコンセプトとしては、いかに無拘束で非侵襲的な方法で睡眠の質を分析するかである。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	神経生理と呼吸生理を統合した研究であり、その理論と方法論を習得する。
SBOs（行動目標）	一般の母集団を対象として、終夜睡眠ポリグラフを施行し、同時に脈波センサーを装着し、心拍のゆらぎについて解析をおこなう。特別な解析ソフトを用いて脈波の周波数帯域を設定、解析し、覚醒、睡眠、non-REM, REMの特徴を解析する。また睡眠呼吸障害あるいは睡眠障害を有するひとではどのようなパターンを示すのかを解析する。
授業計画	授業は自主的にデータの解析をすすめていく。そして、その方法論について多くの文献を参照にして論文という形を整えていく。
授業の進め方	指導教官とのマンツーマンのdiscussionと学外の専門家とのdiscussion
テキスト、教材、参考書	特別なものは無い。
成績評価の方法	論文提出と発表
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	

科目名	運動器・スポーツ理学療法学特論 Special Lectures in Orthopedic and Sports Physical Therapy
担当教員	木村 貞治 ゴウ アーチェン
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学領域 / 1 年次 前期 火曜・7 時限
単位数、講義室	2 単位 保健学科 1 2 1 講義室
授業概要	スポーツ理学療法を展開する上で必要となる運動制御理論、運動学習理論、脳科学の基礎と臨床応用について考究し、つぎに、不意な外力によるスポーツ外傷や、慢性的な過用によるスポーツ障害などのスポーツ傷害を予防、治療し、競技力を向上させるためのスポーツ理学療法の実践について講義・演習を通して学習する。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	1）運動制御理論、運動学習理論、脳科学の基礎と臨床応用について理解する 2）運動器疾患、スポーツ傷害の評価法と臨床推論の進め方について理解する 3）運動器疾患、スポーツ傷害に対する理学療法の臨床判断の理論的背景について理解する
SBOs（行動目標）	1）運動制御理論、運動学習理論、脳科学の基礎と臨床応用について説明できる 2）運動器疾患、スポーツ傷害に対する実践的な評価が行える 3）運動器疾患、スポーツ傷害に関する基本的な臨床推論が行える 4）運動器疾患、スポーツ傷害に対する理学療法の臨床判断の理論的背景について説明できる
授業計画	1．オリエンテーション 2．運動制御理論・運動学習理論の概要 3．運動制御・運動学習に関連した脳科学の概要 4．運動制御理論・運動学習理論・脳科学の理学療法への応用 5．運動器疾患における臨床推論の概要 6．運動器疾患における臨床推論の実際 7．運動器疾患における臨床推論の実際 8．運動器疾患における臨床推論の実際
授業の進め方	運動制御理論、運動学習理論、脳科学に基づいて理学療法の進め方、運動器疾患における病態特性と評価方法、模擬患者やビデオ教材を用いた臨床推論の進め方、臨床問題に対する介入方針の臨床判断などについて、講義やグループ学習、そして、e-learningを展開していく。
テキスト、教材、参考書	授業において紹介する。
成績評価の方法	出席、試験
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	定期的に自己学習の課題を提示しますので、自主的に関連資料を収集し、課題解決のための自己学習に積極的に取り組んでください。  相談への対応 木村貞治：tkimura@shinshu-u.ac.jp Goh Ah Cheng：gohac@shinshu-u.ac.jp

科目名	運動器・スポーツ理学療法学演習 Practice in Orthopedic and Sports Physical Therapy
担当教員	木村 貞治 ゴウ アーチェン
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学領域 / 2年次 後期 火曜・6時限 火曜・7時限
単位数、講義室	4単位 保健学科131講義室
授業概要	運動器疾患，スポーツ傷害に対する科学的根拠に基づいた最新の理学療法の研究論文の内容を講読し，これらの領域における理学療法の研究課題の動向を把握講読会を通して学習した研究方法論に基づいて，実践的な研究方法論に関する概念的枠組みを整理し，研究計画の立案を行う．
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．根拠に基づいた理学療法（EBPT）の概要について理解する</li> <li>2．運動器疾患，スポーツ傷害の理学療法における研究方法論について理解する</li> <li>3．運動器疾患，スポーツ傷害の理学療法に関する研究論文の収集の仕方と読み方について理解する</li> <li>4．運動器疾患，スポーツ傷害の理学療法に関する研究計画書の作成方法を理解する</li> </ol>
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．EBPTの概要と具体的な進め方について説明できる</li> <li>2．運動器疾患，スポーツ傷害の理学療法における基本的な研究方法論について説明できる</li> <li>3．運動器疾患，スポーツ傷害の理学療法に関する研究論文の収集の仕方と読み方について説明できる</li> <li>4．運動器疾患，スポーツ傷害の理学療法に関する科学的妥当性と倫理的妥当性のある研究計画書を作成する</li> </ol>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．オリエンテーション</li> <li>2．EBPTの概念と具体的な進め方</li> <li>3．EBPTの概念と具体的な進め方</li> <li>4．研究における妥当性と信頼性</li> <li>5．研究過程と研究デザイン</li> <li>6．機器別の測定方法</li> <li>7．機器別の測定方法</li> <li>8．機器別の測定方法</li> <li>9．データ処理方法</li> <li>10．統計解析方法</li> <li>11．統計解析方法</li> <li>12．研究計画書の書き方</li> <li>13．研究論文の書き方</li> <li>14．研究論文の書き方</li> <li>15．研究論文の書き方</li> <li>16．自己学習課題（PIC0～研究計画）の発表と討議</li> </ol>
授業の進め方	前半は，研究方法論についての講義と演習，そして，後半では関連する研究論文の抄読会と研究計画書の作成を行う．また，作成した研究計画書を倫理委員会に提出し，承認を得ることによって，実際の研究活動の準備を進める．
テキスト，教材，参考書	授業において適宜紹介する
成績評価の方法	出席，グループワークの状況，自己学習課題の発表内容
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	定期的に自己学習の課題を提示しますので，自主的に関連資料を収集し，課題解決のための自己学習に積極的に取り組んでください．

科目名	障害予防理学療法学特論 Special Lectures in Physical Therapy for Disability Prevention
担当教員	大平 雅美 横川 吉晴, 三好 圭
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学領域 / 1 年次 前期 火曜・6 時限
単位数、講義室	2 単位 保健学科 1 3 1 講義室
授業概要	生活習慣や加齢に伴うさまざまな障害の原因や予防活動について学び、理学療法の視点から理解する。
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	講義・論文抄読を通じて、加齢や生活習慣に由来する呼吸・循環・代謝などの疾病、機能障害の予防、そして生活機能の維持あるいは低下の遅延という視点を身につける。
SBOs (行動目標)	呼吸・循環・代謝にかかわる障害、高齢者の生活機能低下についての知見や予防の方略を適切に説明できる。
授業計画	オリエンテーション (大平・横川) 前半：呼吸・循環・代謝疾患・障害に関する講義・論文抄読 (大平・横川・三好) 後半：高齢者の生活機能・介入方法に関する講義・論文抄読 (大平・横川・三好)
授業の進め方	少人数講義・討論
テキスト, 教材, 参考書	資料配付 テキスト等は講義中に紹介
成績評価の方法	課題レポート、プレゼンテーション、出席
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	

科目名	障害予防理学療法学演習 Practice in Physical Therapy for Disability Prevention
担当教員	大平 雅美 横川 吉晴, 三好 圭
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学領域 / 2 年次 後期 火曜・5 時限 火曜・6 時限
単位数、講義室	4 単位 保健学科 1 1 1 講義室
授業概要	障害予防理学療法学特論で学習した理論や概念を実践的研究手法に結びつける演習を行う。
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	高齢者や生活習慣病リスク保持者に対する障害予防活動を経験し、理解する。
SBOs (行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者や生活習慣病リスク保持者の障害予防に必要な概念や介入理論を的確に説明できる。</li> <li>・対象者に合わせた障害予防介入に必要な技術を実践できる。</li> </ul>
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション (大平・横川)</li> <li>・前半：スポーツ理学療法学履修者と共に研究法の実践的学習 (木村・Goh・大平・横川)</li> <li>・後半：地域における障害予防活動への参加等をふまえた、裏付けとなる論文の抄読および討論 (大平・横川)</li> </ul>
授業の進め方	小グループ講義, Field work, 討論
テキスト, 教材, 参考書	テキストなし 資料配付 参考書は適宜紹介
成績評価の方法	出席、実技、プレゼンテーション、レポート
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	

科目名	理学療法学特別研究 Research Thesis (Master's) in Physical Therapy
担当教員	木村 貞治
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学領域 / 2年次 通年 ・不定
単位数、講義室	10単位
授業概要	共通科目、運動器・スポーツ理学療法学特論および演習、そして、他領域の特論で修得した理論と技術に関する実践的な研究を研究法や運動器・スポーツ理学療法学演習で学んだ研究方法論の知識に基づいて展開する。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	1）研究計画に基づいた研究活動を展開する 2）研究活動の結果を研究論文やプレゼンテーションによって発表する
SBOs（行動目標）	1）先行研究の講読を通して研究計画を立案する 2）研究計画に基づいて、データ収集、データ解析、統計解析を行なう 2）先行研究を参考にして、研究結果を考察する 3）研究活動の結果を研究論文としてまとめる 4）研究論文の概要をプレゼンテーションする
授業計画	1．研究計画の立案 2．研究活動の実施 1）被験者の募集 2）データ収集 3）データ処理 4）データ解析 5）統計解析 6）研究論文の作成 3．研究論文の概要に関するプレゼンテーション 4．論文審査
授業の進め方	指導教員と相談しながら、研究活動を進める。
テキスト、教材、参考書	適宜、紹介する。
成績評価の方法	研究論文の内容、プレゼンテーション
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	臨床的な疑問に対する科学的かつ倫理的妥当性のある研究活動を展開できるよう、主体的な学習に取り組んでください。

科目名	理学療法学特別研究 Research Thesis (Master's) in Physical Therapy
担当教員	大平 雅美
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学領域 / 2 年次 通年 ・不定
単位数、講義室	10 単位
授業概要	共通科目、運動器・スポーツ理学療法学特論、障害予防理学療法学特論や他領域の特論で修得した理論と技術に関する実践的な研究を研究法や運動器・スポーツ理学療法学演習、障害予防理学療法学演習で学んだ研究方法論の知識に基づいて展開する。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	1）研究計画に基づいた研究活動を展開する 2）研究活動の結果を研究論文やプレゼンテーションによって発表する
SBOs（行動目標）	1）研究計画に基づいて、データ収集、データ解析、統計処理を行なう 2）先行研究を参考にして研究結果を考察する 3）研究活動の結果を研究論文としてまとめる 4）研究論文の概要をプレゼンテーションする
授業計画	1）被験者の収集 2）データ収集 3）データ解析 4）統計処理 5）研究結果のまとめ 6）研究結果の考察 7）研究論文の作成 8）研究論文の概要に関するプレゼンテーション
授業の進め方	指導教員と相談しながら，研究活動を進める。
テキスト，教材，参考書	適宜紹介する。
成績評価の方法	研究論文、プレゼンテーション
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	臨床的な疑問に対する科学的かつ倫理的妥当性のある研究活動を展開できるよう，主体的な学習に取り組んでください。

科目名	理学療法学特別研究 Research Thesis (Master's) in Physical Therapy
担当教員	ゴウ アーチェン
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学領域 / 2 年次 通年 ・不定
単位数、講義室	10 単位
授業概要	共通科目、運動器・スポーツ理学療法学特論および演習、そして、他領域の特論で修得した理論と技術に関する実践的な研究を研究法や運動器・スポーツ理学療法学演習で学んだ研究方法論の知識に基づいて展開する。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	1）研究計画に基づいた研究活動を展開する 2）研究活動の結果を研究論文やプレゼンテーションによって発表する
SBOs（行動目標）	1）研究計画に基づいて、データ収集，データ解析，統計処理を行なう 2）先行研究を参考にして，研究結果を考察する 3）研究活動の結果を研究論文としてまとめる 4）研究論文の概要をプレゼンテーションする
授業計画	1）被験者の収集 2）データ収集 3）データ解析 4）統計処理 5）研究結果のまとめ 6）研究結果の考察 7）研究論文の作成 8）研究論文の概要に関するプレゼンテーション
授業の進め方	指導教員と相談しながら，研究活動を進める。
テキスト，教材，参考書	適宜，紹介する。
成績評価の方法	研究論文の内容，プレゼンテーション
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	臨床的な疑問に対する科学的かつ倫理的妥当性のある研究活動を展開できるよう，主体的な学習に取り組んでください。

科目名	理学療法学特別研究 Research Thesis (Master's) in Physical Therapy
担当教員	横川 吉晴
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学領域 / 2年次 通年 ・不定
単位数、講義室	10単位
授業概要	共通科目、運動器・スポーツ理学療法学特論および演習、そして、他領域の特論で修得した理論と技術に関する実践的な研究を研究法や運動器・スポーツ理学療法学演習で学んだ研究方法論の知識に基づいて展開する。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	1）研究計画に基づいた研究活動を展開する 2）研究活動の結果を研究論文やプレゼンテーションによって発表する
SBOs（行動目標）	1）研究計画に基づいて、データ収集、データ解析、統計処理を行なう 2）先行研究を参考にして、研究結果を考察する 3）研究活動の結果を研究論文としてまとめる 4）研究論文の概要をプレゼンテーションする
授業計画	1）被験者の募集 2）データ収集 3）データ解析 4）統計処理 5）研究結果のまとめ 6）研究結果の考察 7）研究論文の作成 8）研究論文の概要に関するプレゼンテーション
授業の進め方	指導教員と相談しながら、研究活動を進める。
テキスト、教材、参考書	適宜、紹介する。
成績評価の方法	研究論文の内容、プレゼンテーション
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	臨床的な疑問に対する科学的かつ倫理的妥当性のある研究活動を展開できるよう、主体的な学習に取り組んでください。

登録コード:MA770100	授業科目区分	選択科目
科目名	機能障害学特論 Special Lectures in Disability Science	
担当教員	齋藤 直人 百瀬 公人, 埴原 秋児, 寺田 信生	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	機能障害学領域 / 1年次	後期 水曜・6時限
単位数、講義室	2単位	保健学科131講義室
授業概要	運動機能障害・脳機能障害の基本原則を理解した上で、個々の疾患に応用できるより高度な理論や相互関係を探求する。その手法は、神経系・筋骨格系の組織解剖学・分子生物学・生化学・生理学・運動力学など多岐にわたる。これらの科学的知識を基に、運動機能障害の治療を目的とした理学療法・作業療法の理論的背景を掘り下げる。また、大脳病変に由来する認知機能障害や行動障害などの高次機能障害について臨床的視点から学ぶ。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神経系・筋骨格系の解剖学・生化学・生理学を修得する。</li> <li>2. 神経系・筋骨格系を代謝の面から捉える。</li> <li>3. 神経系・筋骨格系科学の最近の知見を幅広く理解する。</li> <li>4. 筋や神経疾患の病態生理を理解し、臨床的にどのようなアプローチが可能なのかを探求するための理論や技法について修得する。</li> <li>5. 筋電図解析や運動力学的解析などの解析手法の応用と限界を理解し、健常者と機能障害のあるものの運動解析の差異から運動機能障害の理解を深め、障害の予防と治療に必要な不可欠な原因と結果の論理体系を修得する。</li> <li>6. 高次脳機能障害を呈する病態に対し治療を実践するのに必要な診断・治療などの医学的知識について学習する。</li> <li>7. 神経心理学や認知神経科学などの脳行動科学理論について学習する。</li> <li>8. 脳機能の障害に基づく多彩な認知・感覚・行動障害の症状と病態を学習する。</li> <li>9. 高次機能障害のある患者の臨床評価や画像診断及びその解析法を学習する。</li> </ol>	
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神経系・筋骨格系科学の基本を理解できる。</li> <li>2. 骨の生理学を理解できる。</li> <li>3. カルシウム代謝を説明できる。</li> <li>4. 最新の筋・神経科学の分子生物学的解析法を説明できる。</li> <li>5. 形態、筋、関節、中枢神経系の異常を説明できる。</li> <li>6. 運動機能の障害による動作を説明できる。</li> <li>7. 局所病変と高次脳機能障害の関係を説明できる。</li> <li>8. MRIや脳血流シンチグラフィなどを用いた病巣解析と機能障害の関性が説明できる。</li> <li>9. 病態に応じた機能評価のための神経心理検査が選択できる。</li> </ol>	
授業計画	第1回（10月3日） 神経系・筋骨格系科学の基本（齋藤） 第2回（10月10日） 骨の生理学（齋藤） 第3回（10月17日） カルシウム代謝（齋藤） 第4回（10月24日） 骨格筋・神経の解剖生理学（基礎編1）（寺田信） 第5回（11月7日） 骨格筋・神経の解剖生理学（基礎編2）（寺田信） 第6回（11月14日） 骨格筋・神経の分子生物学（応用編）（寺田信） 第7回（11月21日） 健常者の運動の理解：重心（百瀬） 第8回（11月28日） 健常者の運動の理解：加速度（百瀬） 第9回（12月5日） 健常者の運動の理解：全身運動（百瀬） 第10回（12月12日） 障害者の運動の理解：重心（百瀬） 第11回（12月19日） 神経心理学と認知神経科学1（埴原） 第12回（1月9日） 神経心理学と認知神経科学2（埴原） 第13回（1月16日） 変性疾患と高次脳機能障害（アルツハイマー病、レビー小体型認知症など）1（埴原） 第14回（1月18日） 変性疾患と高次脳機能障害（アルツハイマー病、レビー小体型認知症など）2（埴原） 第15回（1月23日） 合同討論	
授業の進め方	講義など	
テキスト、教材、参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 標準生理学 医学書院</li> <li>2. 筋・神経科学に関しては特に教科書を指定しない（一流ジャーナルの最近のレビューを配布する）</li> <li>3. 立ち上がり動作の分析 医歯薬出版</li> <li>4. 歩き初めと歩行の分析 医歯薬出版</li> </ol>	
成績評価の方法	出席、レポート、口頭試問など	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	受講希望者はあらかじめ担当教員（齋藤）にメールで連絡すること。 質問、相談などは授業中もしくは各教員の研究室へ。 e-mail 齋藤：saitoko@shinshu-u.ac.jp 寺田信：nobot@shinshu-u.ac.jp 百瀬：kmomose@shinshu-u.ac.jp 埴原：qhaniha@shinshu-u.ac.jp	

科目名	機能障害学演習 Practice in Disability Science
担当教員	齋藤 直人 百瀬 公人, 埴原 秋児, 寺田 信生
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	機能障害学領域 / 2年次 前期 水曜・6時限 水曜・7時限
単位数、講義室	4単位 保健学科131講義室
授業概要	運動機能障害に対する既存の理学療法・作業療法を検証し、組織解剖学・分子生物学・生化学・生理学・運動力学などの科学的根拠に基づいたより有効な手技、新しい治療方法などを探究する。 高次機能障害とそのリハビリテーションに関連する最新知見を文献調査し、高次機能障害の理学療法・作業療法領域で扱う研究課題を明らかにする。
一般学習目標G10(期待される学習効果)	1. 神経系・筋骨格系の生理作用を、分子生物学的手法を用いて探究する。 2. 筋・神経の機能について、形態学的手法を用いて検証する。 3. 3次元動作解析装置、筋電図、最大酸素摂取量計測などによる運動力学的・運動生理学的な計測、臨床で簡便に用いられる評価スケールや評価器具を用いての検証、既存のリハビリテーション機器の有効性評価・改良などについて深く追求する。 4. 高次機能障害とそのリハビリテーションに関連する知見や現在の課題を学習する。高次脳機能障害の研究を行う際の、評価尺度を施行できる。
SBOs(行動目標)	1. 骨の生理作用を分子レベルから理解する。 2. 神経の生理作用を分子レベルから理解する。 3. 骨格筋・神経の正常電顕像を理解する。 4. 骨格筋・神経の再生過程を理解する。 5. 正常運動時の重心の加速度を理解する。 6. 正常運動時の関節角度、角速度、角速度を理解する。 7. 運動機能障害と正常運動時の違いを理解する。 8. 高次脳機能障害研究を行う際に疾病や病態別の臨床評価尺度を選択する能力を身につける。 9. 高次脳機能障害に関する論文の評価や意義を理解することが出来る。
授業計画	4月11日、4月18日、4月25日(齋藤)分子レベルから見た骨・神経の生理作用 5月9日、5月16日、5月23日(寺田信)骨格筋・神経の機能解析のための顕微鏡の役割 5月30日、6月6日、6月13日、6月20日(百瀬)重心の運動学、四肢の運動と関節角度、角加速度 6月27日、7月4日、7月11日、7月18日(埴原)受講者は研究テーマに関連する原著論文や総説を収集し、研究レポートを作成して授業時に発表する。当該テーマについて討論する。 高次脳機能障害の研究を行う際に必要な評価尺度などを演習する。 7月28日 合同討論
授業の進め方	講義、演習、課題発表、討論など
テキスト、教材、参考書	特に教科書を指定しない(一流ジャーナルの最近のレビューなどを配布する)
成績評価の方法	出席、レポートなど
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	受講希望者はあらかじめ担当教員(齋藤)にメールで連絡すること。 質問、相談などは授業中もしくは各教員の研究室へ。 e-mail 齋藤: saitoko@shinshu-u.ac.jp 寺田信: nobuot@shinshu-u.ac.jp 百瀬: kmomose@shinshu-u.ac.jp 埴原: qhaniha@shinshu-u.ac.jp

科目名	機能障害学特別研究 Research Thesis (Master's) in Disability Science
担当教員	齋藤 直人
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	機能障害学領域 / 2年次 通年 ・不定
単位数、講義室	10単位
授業概要	特論や演習で学んだ理論と技術を基に、新しい科学的な理学療法学・作業療法学の確立に貢献できる運動機能障害・高次機能障害に関する基礎的研究を行う。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	疾患の病態を解剖学的・生理学的に理解し、その治療に対する考え方を整理するとともに、新たな治療法の考え方を構築する。
SBOs（行動目標）	各種実験を通して様々な病態を検討し、新しい考え方を導く。
授業計画	
授業の進め方	
テキスト，教材，参考書	適宜指示する。
成績評価の方法	出席・レポート
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	

科目名	機能障害学特別研究 Research Thesis (Master's) in Disability Science
担当教員	寺田 信生
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	機能障害学領域 / 2 年次 通年 ・不定
単位数、講義室	10 単位
授業概要	最新の科学的な細胞組織学的解析法に基づいて、理学療法学・作業療法学の確立に貢献できる運動機能障害・高次機能障害に関する基礎的研究を行う。 とくに細胞膜構成蛋白である膜骨格のネットワークを研究する。 この授業は人体構造の基本を理解する観点から、男女共同参画に関する内容を含んでいます。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	細胞膜骨格を中心に、蛋白複合体の基本構造を追究する。 その破綻による疾患の病態を解剖生理学的に理解し、治療法を整理する。 新たな治療法について考察する。
SBOs（行動目標）	各種の実験を通して生体の基本構造の解析と、それが破綻する種々の病態について検討し、病気の新しい説明や考え方を導く。
授業計画	（１）以下の手法を修得する。 １）光学顕微鏡・電子顕微鏡の観察などの形態学的実験法 ２）ウェスタンブロット・免疫沈降・PCR・遺伝子改変などの分子生物学・生化学の実験法 ３）神経機能や筋力測定などの生理学的実験法  （２）これらを適時利用し、研究の目的に沿って総合的に構造と機能を理解する能力をつけていく。 （３）基本技術を用いて、研究するサイクルについて学ぶ。  なおこれらの具体的な日程については、修得度に応じて決めていく。
授業の進め方	目的、仮説、実験計画、結果、考察を繰り返し、自らの研究サイクルが確立できるようにしていく。
テキスト、教材、参考書	適宜指示する。 英文の文献検索や読解は必須。
成績評価の方法	出席、レポート（結果発表）、論文作成。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	最新の科学的研究法を用いて、未知の生物の構造と機能の解明に挑戦してほしい。

科目名	機能障害学特別研究 Research Thesis (Master's) in Disability Science
担当教員	百瀬 公人
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	機能障害学領域 / 2年次 通年 ・不定
単位数、講義室	10単位
授業概要	特論や演習で学んだ理論と技術を基に、新しい科学的な理学療法学・作業療法学の確立に貢献できる運動機能障害・高次機能障害に関する基礎的研究を行う。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	疾患の病態を解剖生理学的に理解し、その治療に対する考え方を整理するとともに、新たな治療法の考え方を構築する。
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種実験を通して様々な病態を検討し、新しい考え方を導く。</li> <li>・研究計画を立案できる。</li> <li>・研究に必要な論文を収集し、研究目的を明らかにすることができる。具体的研究方法を実施、改善できる。</li> <li>・統計学的処理が実施できる。</li> <li>・論理的考察が実施できる。</li> </ul>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．文献講読会と研究ミーティングに基づいた研究計画の立案</li> <li>2．調査・実験の実施</li> <li>3．データ処理</li> <li>4．修士論文の作成</li> <li>5．研究成果のプレゼンテーション</li> </ol>
授業の進め方	個別指導
テキスト、教材、参考書	適宜指示する。
成績評価の方法	研究への取り組みおよび学位論文
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	

科目名	機能障害学特別研究 Research Thesis (Master's) in Disability Science
担当教員	埴原 秋児
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	機能障害学領域 / 2年次 通年 ・不定
単位数、講義室	10単位
授業概要	特論や演習で学んだ理論と技術を基に、新しい科学的な理学療法学・作業療法学の確立に貢献できる運動機能障害・高次機能障害に関する基礎的研究を行う。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	疾患の病態を解剖生理学的に理解し、その治療に対する考え方を整理するとともに、新たな治療法の考え方を構築する。
SBOs（行動目標）	各種実験を通して様々な病態を検討し、新しい考え方を導く。
授業計画	高次機能にかかわる研究および論文の作成（埴原秋児）
授業の進め方	次機能にかかわる研究および論文の作成（埴原秋児）
テキスト，教材，参考書	適宜指示する。
成績評価の方法	出席・レポート
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	

科目名	生活支援作業療法学特論 Special Lectures in Occupational Therapy focused on Activities of Daily Living
担当教員	上村 智子
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学領域 / 1年次 前期 金曜・6時限
単位数、講義室	2単位 保健学科111講義室
授業概要	身体障害や老年期障害を有する人の日常生活活動を支える作業療法の実践と研究について学術的に探求する。作業療法の視点を生かした理論枠組みに基づく「障害者や高齢者の在宅生活支援プログラム」の実際について学習する。また、科学的エビデンスに基づくプログラム開発のモデル事例を学習するとともに、プログラム開発における現状の課題についても考察する。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	1. 作業療法の視点を生かした「障害者や高齢者の在宅生活支援プログラム」の理論と実践方法について理解する 2. 科学的エビデンスに基づいたプログラム開発のプロセスを理解する 3. プログラム開発における現状の課題について考察する
SBOs（行動目標）	1. カナダ作業遂行モデルの実践への適用法が説明できる 2. Westmead Home Safety Assessmentの実践への適用法が説明できる 3. 認知症高齢者への訪問作業療法の実践への適用法が説明できる 4. 科学的エビデンスに基づいたプログラム開発のプロセスについて、具体例を示して説明できる 5. プログラム開発における現状の課題について意見を述べ、ディスカッションできる
授業計画	第1回 4/13 カナダ作業遂行モデル1 第2回 4/20 " 2 第3回 4/27 Well Elderly Study1 第4回 5/ 2 " 2 第5回 5/11 " 3 第6回 5/18 住まいの評価1 第7回 5/25 " 2 第8回 6/ 1 住まいの評価に基づく介入 第9回 6/ 8 認知症高齢者と家族介護者のためのプログラム1 第10回 6/22 " 2 第11回 6/29 " 3 第12回 7/ 6 " 4 第13回 7/13 プログラム開発のための現状の課題および課題解決のために（演習1） 第14回 7/20 " （演習2） 第15回 7/27 まとめ
授業の進め方	講義と演習
テキスト、教材、参考書	資料を配布する 参考書は授業で紹介する
成績評価の方法	出席、演習態度、レポートを総合的に評価し判定する
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	障害者や高齢者の生活を支える技術やプログラムの開発・改良の科学的プロセスについて学び、ともに考える授業です。主体的に参加してください。 質問・相談は随時受け付け、積極的に対応します。

登録コード:MA780200	県内大学履修科目	授業科目区分	選択科目
科目名	機器開発作業療法学特論 Special Lectures in Assistive Technology and Modeling in Neuroprosthetics		
担当教員	千島 亮		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学領域 / 1 年次	後期	木曜・7 時限
単位数、講義室	2 単位	保健学科 1 2 1 講義室	
授業概要	上位頸髄損傷者や重度神経筋疾患者の自立獲得に関わる支援機器の歴史の変遷と技術提案の背景を学習する。作業療法学で必要となる生体信号応用による支援技術（AT）の基礎的知識と実践技法の獲得と、具体的な支援方策提案が出来る能力を養う。具体的な症例を通し、自立生活技能の多角的な評価手法や、支援機器適応の妥当性を検証できる評価技術を理解する。国際的な支援技術のインフラ整備状況や先駆的応用技術を理解し、諸外国研究機関からの情報や成果報告をもとに、作業療法学に関わる新たな支援技術確立の可能性について討論する。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	情報工学領域の信号解析技法を応用し、脳・神経・筋活動に伴う情報処理の基本的な仕組みや原理を理解する。生体機能が極めて限られる様々な病変や障害に対しての代替・拡大的支援技術や、より積極的な治療に発展させるための先駆的リハビリテーション工学・医療の現状を理解する。独自の発想による、事象（遂行課題）や生活活動の分析に基づいた支援技術方策を提案できる能力を向上させる。		
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳・神経・筋活動に伴う生体情報処理過程の基本を理解する。</li> <li>・支援技術領域を広い視点で概観し、自立的生活に関わる支援技術領域を理解する。</li> <li>・PCを活用した信号処理に関わる基礎的事項の理解を深め、生体情報解析技法を理解する。</li> <li>・支援技術領域における障害・病態の克服・改善のための先駆的取り組みを知る。</li> <li>・支援技術を応用・発展させるための独自の発想や着想を論理的に構築して提案できる。</li> <li>・目的を明確とした研究計画策定への取り組みを自主的に進められる。</li> </ul>		
授業計画	第1回：リハビリテーション医療における先端支援技術の理解と生体情報概要 第2回：生体情報処理の基礎的理解と導出技法の理論 第3回：支援技術に応用する生体信号情報の理解 第4回：信号の時系列解析と画像解析（マッピング技術）概論 第5回：日常生活支援に関わる機器データベース構築論 第6回：信号解析ソフトウェア活用と研究計画 第7回：信号データの統計学的分析法の理解と可視化技法 第8回：生体信号制御と「Neuroprosthetics/Neurorobotics」 第10回：リハビリテーション工学におけるEMGsとEEGsの応用 第11回：リハビリテーション工学におけるEMGsとEEGsの応用 第12回：生体信号解析と特徴抽出のための統計学的解析技法概論 第14回：支援技術に関する開発・研究のインフラ整備状況と国際動向概観 第15回：脳・神経科学と神経修復過程・技術の最新原理の理解 第16回：脳神経倫理と先端医療・リハビリテーション工学・まとめ  （開講日時・教室等は事前に履修希望者と相談の上でスケジュールを決定する。下述「学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応」を確認の上、必ず事前に連絡のこと）		
授業の進め方	【課題レポート】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生体情報応用と生活支援技術」に関連する自由課題とする。レポート提出と発表を原則とするが、ソフトウェア活用によるデータ解析結果や、現在取り組んでいる研究に関連した経過報告に代えてもよい。</li> <li>・生体情報処理のメカニズムにヒントを得た支援技術やその問題解決への応用、関心を持ったテーマや気付いた疑問など、受講者自身が課題設定してレポート提出してもよい。媒体は電子情報形式でよい（詳細は講義を通じて別途説明する）。</li> </ul>		
テキスト、教材、参考書	【テキスト・教材】講義資料、フリー解析ソフトウェアCD（Mac/Windows系）を活用。 【参考書】講義で紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・A.M.Cook, S.M.Hussey: Assistive Technologies, 2nd ed., 2002, Mosby.</li> <li>・A.Schoegl: Biosignal Processing, Graz Univ of Tech, 講義資料 http://hci.tugraz.at/schloegl/ からアクセス可。</li> <li>・J.Malmivuo, R.Plonsey: Bioelectromagnetism, 1995, Oxford Univ Press. http://butler.cc.tut.fi/~malmivuo/bem/bembook/ から閲覧可。</li> <li>・M.Selzer, S.Clarke, etc.: Textbook of Neural Repair and Rehabilitation, Vol 1, 2006, Cambridge Univ Press.</li> </ul>		
成績評価の方法	受講状況：20点 演習課題：第1回・2回・3回 = 30点 課題レポート：50点 以上の状況を加味し、成績の目安は合計点で、A；85点以上、B；84～70点、C；69～60点、D；59点以下として決定する。状況については各受講者で千島まで確認のこと。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内無線LANからWWW接続可能なPCの持参が可能な方は用意下さい。開講日時や講義場所など、受講予定者の来学可能な条件を考慮しますので、初回聴講の前に必ず千島まで相談下さい。</li> </ul> 千島研究室：0263-37-2404（ダイヤルイン）または mchishi@shinshu-u.ac.jp		

科目名	生活支援・機器開発作業療法学演習 Practice in Activities of Daily Living and Assistive Technology
担当教員	上村 智子 千島 亮, 佐々木 努
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学領域 / 2年次 前期 水曜・6時限 水曜・7時限
単位数、講義室	4単位 保健学科111講義室
授業概要	身体障害や老年期障害を有する人の生活支援や機器開発に関する研究論文の系統的レビューを行って、研究の動向を把握する。さらに当事者や専門家からも情報収集して、顕在・潜在する重要な課題を把握して、自らの研究テーマの抽出につなげる。さらに、選択したテーマを実証的に検証する方法を検討し、研究を進めるための条件を整える。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	1. 身体障害や老年期障害を有する人の生活支援や機器開発に関連した系統的レビューと、当事者や専門家からの情報収集に基づいて研究テーマを精選する 2. 研究テーマに適した研究方法と対象を検討する 3. 研究フィールドや対象と調整して、協力を得られるように条件を整える
SBOs（行動目標）	1. 身体障害や老年期障害を有する人の生活支援や機器開発に関連した系統的レビューと、当事者や専門家からの情報収集に基づいて研究テーマを絞り込むことができる 2. 研究テーマに適した研究方法と対象を選択することができる 3. 研究フィールドや対象と調整して、協力を得られるように条件を整えることができる
授業計画	第1～3回．身体障害や老年期障害を有する人の生活支援や機器開発に関する研究の動向 第4～9回．関心領域の系統的レビュー&当事者や専門家からの情報収集 第10～11回．研究テーマの精選 第12～13回．研究テーマに適した研究方法と対象の検討 第14～15回．研究遂行に必要な諸条件の整備
授業の進め方	講義と演習
テキスト、教材、参考書	適宜紹介する
成績評価の方法	レポート、出席・演習態度を総合的に評価し判定する
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	開講時間帯や場所など、受講予定者の条件を出来る限り考慮する。事前に上村・千島それぞれに相談すること。学内無線LANからWWW接続可能な個人所有のPCを出来る限り持参のこと（千島担当演習について）。  【上村智子】保健学科南校舎1F 研究室：0263-37-2395 tkamimu@shinshu-u.ac.jp 【千島 亮】保健学科南校舎2F 研究室：0263-37-2404 mchishi@shinshu-u.ac.jp

登録コード:MA780400		授業科目区分	選択科目
科目名	精神作業療法学特論 Special Lectures in Occupational Therapy in Mental Health		
担当教員	小林 正義 下里 誠二		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学領域 / 1年次	後期	木曜・6時限
単位数、講義室	2単位	保健学科111講義室	
授業概要	精神障害のリハビリテーションにおいて効果が検証されている介入プログラムについて学習し、支援技術について理解を深める。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	1) 精神疾患に対する早期リハビリテーションの戦略を学ぶ 2) 地域生活移行支援（ACT）の方法論を理解する 3) 就労支援（IPS）の方法論を理解する 4) 家族心理教育プログラム（FPE）の実践方法を学ぶ 5) ストレスマネジメントと再発防止プログラム（IMR）の方法を学ぶ		
SBOs（行動目標）	1) 精神保健領域のEBPとフィデリティ測定を説明できる 2) ACT・FPE・IPS・IMRの実践方法を説明できる 3) 精神保健医療福祉の課題とその解決方法について議論できる		
授業計画	第1回 10/ 4 EBP実践とフィデリティ尺度 第2回 10/11 利用者アウトカムとモニタリング 第3回 10/18 ACT・包括型地域生活支援プログラム（1） 第4回 10/25 ACT・包括型地域生活支援プログラム（2） 第5回 11/ 1 FPE・家族心理教育プログラム（1） 第6回 11/ 8 FPE・家族心理教育プログラム（2） 第7回 11/15 IPS・就労支援プログラム（1） 第8回 11/22 IPS・就労支援プログラム（2） 第9回 11/29 IMR・疾患管理とリカバリー（1） 第10回 12/ 6 IMR・疾患管理とリカバリー（2） 第11回 2/13 認知機能障害とリハビリテーション（1） 第12回 12/20 認知機能障害とリハビリテーション（2） 第13回 1/10 アンガーマネジメント（下里） 第14回 1/17 精神保健医療福祉の課題とストラテジー（1） 第15回 1/24 精神保健医療福祉の課題とストラテジー（2）		
授業の進め方	講義，演習		
テキスト，教材，参考書	日本精神科リハビリテーション学会（監訳）：EBPツールキットシリーズ（Vol.1～Vol.5） ．その他，適宜紹介する．		
成績評価の方法	出席，ディスカッション，期末試験		
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	DVD教材を取り入れ実践に即した内容を工夫する 授業時間外の教員へのアクセス mkobaya@shunshu-u.ac.jp		

登録コード:MA780500		授業科目区分	選択科目
科目名	精神作業療法学演習 Practice in Occupational Therapy in Mental Health		
担当教員	小林 正義 佐々木 努		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学領域 / 2年次	前期	木曜・5時限 木曜・6時限
単位数、講義室	4単位	保健学科111講義室	
授業概要	テーマに沿った系統的な文献調査により内外の最新知見を入手する．研究デザインを作成し予備調査（実験）を行う．交絡因子とバイアスを考慮した研究計画を作成し倫理審査を受ける．		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	1) 系統的な文献調査の方法を習得する 2) 研究計画書・倫理審査申請書の作成方法を学ぶ 3) コンピュータ統計の手法を学ぶ		
SBOs（行動目標）	1) 系統的な文献レビューを行うことができる 2) 研究計画の妥当性と倫理的配慮を説明できる 3) 目的に応じた統計解析を選択し実行できる		
授業計画	4/12 1回 文献レビューと研究デザイン 4/19 2回 文献レビューと研究デザイン 4/26 3回 文献レビューと研究デザイン 5/10 4回 文献レビューと研究デザイン 5/17 5回 文献レビューと研究デザイン 5/24 6回 予備調査（実験）と交絡因子・バイアスの検討 5/31 7回 予備調査（実験）と交絡因子・バイアスの検討 6/ 7 8回 予備調査（実験）と交絡因子・バイアスの検討 6/14 9回 予備調査（実験）と交絡因子・バイアスの検討 6/21 10回 予備調査（実験）と交絡因子・バイアスの検討 6/28 11回 研究計画と倫理審査，統計解析演習 7/ 5 12回 研究計画と倫理審査，統計解析演習 7/12 13回 研究計画と倫理審査，統計解析演習 7/19 14回 研究計画と倫理審査，統計解析演習 7/26 15回 研究計画と倫理審査，統計解析演習		
授業の進め方	演習を中心に行う．文献調査では複数の論文を担当し，研究のデザイン，介入方法，測定指標，評価方法，ニューエビデンスをレジюмеにまとめ発表する．		
テキスト，教材，参考書	江藤裕之，他 訳：APA論文作成マニュアル（医学書院） 文献調査には以下の雑誌を含める．1) Australian Occupational Therapy Journal, 2) The British Journal of Occupational Therapy, 3) American Journal of Occupational Therapy, 4) Canadian Journal of Occupational Therapy, 5) Occupational Therapy in Mental Health, その他，適宜紹介する．		
成績評価の方法	出席，研究計画書・倫理審査申請書の作成		
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	作業療法の臨床研究に必要な手続きを実際に行うので積極的に取り組んでほしい．相談等は，メールにて以下のアドレスに連絡してください． <mkobaya@shinshu-u.ac.jp>		

科目名	作業療法学特別研究 Research Thesis (Master's) in Occupational Therapy
担当教員	小林 正義 佐々木 努
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学領域 / 2年次 通年 ・不定
単位数、講義室	10単位
授業概要	共通科目、精神作業療法学特論・演習で学んだ方法を活かして精神保健医療福祉領域の臨床または基礎研究を行う。修士論文を作成しプレゼンテーションを行う。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究計画書に基づき研究活動を展開する</li> <li>2. 対象者への倫理的配慮の方法を習得する</li> <li>3. 研究論文の作成とプレゼンテーションの方法を習得する</li> </ol>
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究計画に沿ってデータ収集、解析、結果の考察を行う</li> <li>2. 修士論文を作成する</li> <li>3. 研究成果のプレゼンテーションを行う</li> </ol>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者の選定と倫理的配慮</li> <li>2. データ収集</li> <li>3. データ分析</li> <li>4. 統計解析</li> <li>5. 結果の考察</li> <li>6. 論文の作成</li> <li>7. 研究成果のプレゼンテーション</li> <li>8. 論文を投稿する</li> </ol>
授業の進め方	個別対応
テキスト、教材、参考書	APA（江藤，他 訳）：APA論文作成マニュアル，医学書院，2004 その他，適宜紹介する。
成績評価の方法	修士論文，プレゼンテーション
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	日程は個別に相談のうえ調整します。連絡先：0263-37-2403，mkobaya@shinshu-u.ac.jp

科目名	作業療法学特別研究 Research Thesis (Master's) in Occupational Therapy
担当教員	上村 智子 佐々木 努
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学領域 / 2 年次 通年 ・不定
単位数、講義室	10 単位
授業概要	身体障害や老年期障害のある人の作業療法に関する研究テーマを設定し、適切な研究方法を用いて研究を遂行し、修士論文を完成させる。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	1. 研究テーマを決定し、適切な研究方法を選択し、研究計画書を作成する 2. 研究に関する倫理的課題を理解し、対象への十分な配慮ができる 3. 計画書に従って研究を遂行し、修士論文を完成する
SBOs（行動目標）	1. 研究テーマを設定し、適切な研究疑問あるいは仮説として表現できる 2. 先行研究から得た知見を系統的にまとめることができる 3. 研究目的に照らして適切な研究デザインと、データ収集・分析方法を選択することができる 4. 研究対象者の状況を考慮して、倫理的な配慮を十分に行うことができる 5. 妥当で実施可能な研究計画を立案し、実施できる 6. 適切なデータ分析方法を選択して、実施できる 7. 研究結果に対する論理的な考察をすることができる 8. 研究の限界を明快かつ網羅的に論述することができる 9. 以上を実施し、修士論文を完成することができる
授業計画	1. テーマの選択と文献検討 2. 研究計画書と倫理審査申請書の作成 3. 研究の実施 4. 論文の作成と発表
授業の進め方	個別指導
テキスト、教材、参考書	適宜紹介
成績評価の方法	研究に取り組む態度および学位論文と発表会の内容を総合的に評価し判定する
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問・相談は随時受け付け、可能な限り積極的に対応する

登録コード:MA780602	授業科目区分	必修科目
科目名	作業療法学特別研究 Research Thesis (Master's) in Occupational Therapy	
担当教員	千島 亮 佐々木 努	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学領域 / 2年次	通年 ・不定
単位数、講義室	10単位	
授業概要	<p>作業療法学を实践する上で、生体情報応用に特化した基礎的学識とその応用技術を学ぶ。生活支援技術に関連する作業療法学の研究手法や技法を研究計画に則して計画・推進する。当該専門分野の知識を深め、臨床実践で応用していく能力を養う。医療関連専門職間との連携を密とし、社会ニーズに即応できる知識基盤の充実と自立した探求能力を促進する。広く開講される関連した「特論」と「演習」で学んだ理論と技術を基に、生活支援技術応用の進展に即応して、作業療法学の専門領域確立に向けた研究計画を展開する。国際的な支援技術のインフラ整備状況や先駆的応用技術を幅広く理解し、諸外国研究機関からの情報や研究成果を考察して、作業療法学における新たな支援技術確立の可能性について論ずる。</p>	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報工学分野の解析技法を応用した、脳・神経・筋活動に伴う生体情報処理の基礎的知識と原理を理解する。</li> <li>・様々な病変や障害に至った場合の代替・拡大的支援技術や、治療効果判定のための神経修復原理と技法展開の現況を研究経過から考察できる。</li> <li>・重度神経筋疾患患者（児）の生活支援技術のこれまでの取り組みを国際的視野で再考し、作業療法学に求められる新たな支援技術の可能性を提案できる。</li> <li>・生活活動の事象解決や作業遂行の分析に基づいて課題・問題点を明確とし、独自の発想で提案した研究計画の推進が出来る。</li> <li>・研究成果を論述し、学会での報告（発表）と議論ができる。</li> </ul>	
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳・神経・筋活動に伴う生体情報処理過程の電気生理学的基礎を論述出来る。</li> <li>・支援技術領域を広い視点で概観し、生活支援に関わる技術領域の概要を理解する。</li> <li>・PCを活用した信号処理に関わる基礎的事項と、生体情報解析技法の原理を身につける。</li> <li>・支援技術領域における障害・病態の克服・改善のための先駆的取り組みを理解する。</li> <li>・支援技術を応用・発展させるための独自の発想・着想を論理的に構築して提案できる。</li> </ul>	
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在籍期間で推進する研究計画と研究成果の報告（研究室ゼミナル参加）。</li> <li>・研究成果の検証と国内外関連学会での発表・報告・討論・情報交換。</li> <li>・国内外研究会/ワークショップ/研修への積極的な参加と関連研究機関との情報交換。</li> <li>・研究計画の策定と再構築。</li> <li>・大学リポジトリを介した研究成果開示と他学部・大学・研究機関との連携と調整。</li> <li>・研究成果を学位審査論文（修士論文）として草稿する。</li> <li>・学内審査会（公聴会）での研究成果報告と討議。</li> <li>・学位審査論文（修士論文）の開示と大学リポジトリとしての集約・公開・提出</li> </ul>	
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各履修者は、事前に担当：千島に研究計画案や展開スケジュールについて確認・相談した上で履修すること。</li> <li>・同時に開講予定の「生活支援・機器開発作業療法学演習（担当千島）」に連動し、在籍期間を通して研究計画の提案と討議を進め、最終的な学位審査論文（修士論文）を完成させる。また、大学リポジトリと関連学術機関を通じた研究成果報告の開示を行う。</li> </ul>	
テキスト、教材、参考書	<p>【千島担当の「生活支援・機器開発作業療法学演習」で用いるものに準ずる】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A.M.Cook, S.M.Hussey: Assistive Technologies, 2nd ed., 2002, Mosby.</li> <li>・A.Schoegl: Biosignal Processing, Graz Univ of Tech, 生体医学・情報脳科学分野の講義資料を参考とする。 <a href="http://hci.tugraz.at/schloegl/">http://hci.tugraz.at/schloegl/</a> からアクセス可。</li> <li>・J.Malmivuo, R.Plonsey: Bioelectromagnetism, 1995, Oxford Univ Press. <a href="http://butler.cc.tut.fi/~malmivuo/bem/bembook/">http://butler.cc.tut.fi/~malmivuo/bem/bembook/</a> から閲覧可。</li> <li>・M.Selzer, S.Clarke, etc.: Textbook of Neural Repair and Rehabilitation, Vol 1, 2006, Cambridge Univ Press.</li> </ul>	
成績評価の方法	<p>本学学位審査規定に準拠し、予備（下見）審査付託による論文草稿の適否判断後、学位論文申請する。学位審査論文の審査と最終試験に合格することが終了条件となる。最終審査要件に関わる修士論文（論文要旨ではない）提出となる。論文公開（リポジトリ）を含め、在籍期間を通じた研究成果を、申請時期と計画実施により学位審査論文（修士論文）として完成させる。また、同時に進める学会での研究成果報告とあわせ研究計画を展開する。</p>	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	<p>学内無線LANからWWW接続可能な個人所有のPCを持参のこと。在籍期間を通じたゼミナル（BCIゼミ）に参加し、研究計画の進展状況を定期報告する。連絡を密として研究計画を展開する。各研究を推進する上での時期・時間帯を含めた実施予定を学生と調整して進める。研究・実験場所など、所属予定者各人の条件を出来る限り考慮して展開する。当研究室の所属希望の者は必ず事前に千島まで相談すること。</p> <p>千島研究室：0263-37-2404（ダイヤルイン）または <a href="mailto:mchishi@shinshu-u.ac.jp">mchishi@shinshu-u.ac.jp</a></p>	

# 博士後期課程

## 信州大学大学院医学系研究科（博士後期課程）保健学専攻

### 教育・研究の理念

保健学は、人間を精神的、身体的、社会的な側面から、全人的な存在としてとらえ、人々の健康、疾病及び障害について探求する学問です。このため、医療に直接関係する学問だけでなく、社会学、倫理学などの学問との結びつきを通して、個人並びに集団の健康を学際的に探求する科学と考えられています。信州大学大学院医学系研究科保健学専攻（博士後期課程）では、このような学際的な保健学の領域における教育・研究を通して、その成果を社会に還元し、人々の健康支援を行い、積極的に疾病の予防を推進することにより、人類の健康と福祉に貢献することを基本理念とします。

### 教育・研究上の目標

- (1) 保健学の学問体系の確立と発展に寄与し、学際的研究を積極的に推進することにより、世界に向けてその成果を発信できる人材の養成
- (2) 保健・医療・福祉の分野の教育を行う大学あるいは大学院における教育・研究指導に貢献できる教育・研究者の養成
- (3) 保健・医療・福祉の現場において、高い倫理感と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる人材の養成
- (4) 保健医療職者に対して、根拠に基づく実践（Evidence-based Practice）の概念に則ったエビデンスを構築するための質の高い臨床研究方法に関する指導を実践することができる人材の養成

信州大学大学院医学系研究科（博士後期課程）保健学専攻では以下のような学生を求めています。

- (1) 保健学の領域において、科学的・倫理的な思考に基づいて独創的かつ実践的な研究を遂行することに意欲のある者
- (2) 保健・医療・福祉の分野の教育を行う大学あるいは大学院における教育・研究指導に意欲のある者
- (3) 保健・医療・福祉の現場において、高い倫理感と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことに意欲のある者
- (4) 保健医療職者に対して、根拠に基づく実践（Evidence-based Practice）の概念に則ったエビデンスを構築するための質の高い臨床研究方法に関する指導を実践することに意欲のある者

## 授 業 科 目 ・ 単 位 数

医学系研究科博士後期課程（保健学専攻）

平成24年度

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		備 考
			必 修	選 択	
共 通 科 目	保健・医療・福祉連携論	1・前	2		
	生涯保健学研究法	1・前	2		
生 涯 保 健 学 分 野	母 子 保 健 学 領 域	母子保健学特講	1・前	2	
		母子保健学演習A	1・後	2	
		母子保健学演習B	1・後	2	
		母子保健学演習C	1・後	2	
		母子保健学演習D	1・後	2	
		母子保健学演習E	1・後	2	
		母子保健学特別研究	1・2・3 通年	6	
	成 人 保 健 学 領 域	成人保健学特講	1・前	2	
		成人保健学演習A	1・後	2	
		成人保健学演習B	1・後	2	
		成人保健学演習C	1・後	2	
		成人保健学演習D	1・後	2	
		成人保健学演習E	1・後	2	
		成人保健学特別研究	1・2・3 通年	6	
	老 年 保 健 学 領 域	老年保健学特講	1・前	2	
		老年保健学演習A	1・後	2	
		老年保健学演習B	1・後	2	
		老年保健学演習C	1・後	2	
老年保健学特別研究		1・2・3 通年	6		
医 療 生 命 科 学 分 野	医療生命科学特講	1・前	2		
	医療生命科学演習A	1・後	2		
	医療生命科学演習B	1・後	2		
	医療生命科学演習C	1・後	2		
	医療生命科学特別研究	1・2・3 通年	6		

※ 修 了 要 件 及 び 履 修 方 法

共通科目から4単位、指導教員が指定する特講2単位、演習2単位及び特別研究6単位を含む14単位以上を習得し、かつ必要な論文指導を受けた上で、本大学院が行う博士論文の審査及び最終試験に合格すること

授業時限

1時限	9:00～10:30
2時限	10:40～12:10
3時限	13:00～14:30
4時限	14:40～16:10
5時限	16:20～17:50
6時限	18:00～19:30
7時限	19:40～21:10



登録コード:MA800100		授業科目区分	必修科目
科目名	保健・医療・福祉連携論 Cooperation within Healthcare and Welfare		
担当教員	上村 智子 金井 誠, 木村 貞治, 奥村 伸生, 杉原 伸宏, 川上 由行		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	保健学専攻共通/1年次 前期(前半) 土曜・3時限 土曜・4時限		
単位数、講義室	2単位 保健学科212講義室		
授業概要	保健・医療・福祉活動に関わる様々な組織間や専門職種間で連携が求められる社会的背景を理解し、ライフステージに応じた保健学の各領域における連携のあり方や研究課題を考究する。授業では、母子保健学、成人保健学、老年保健学、医療生命科学の各領域における連携の課題と連携モデルの実際、ITを用いた情報ネットワークシステムの活用法や産官学連携の手続きについて、事例を通して学習する。さらに長野県の地域特性に応じた保健・医療・福祉活動の有機的な連携モデルを考究し、それらの連携モデル構築に向けた研究シーズを探求する。		
一般学習目標G10(期待される学習効果)	人のライフステージに応じた母子保健学領域、成人保健学領域、老年保健学領域、医療生命科学領域における組織間や専門職種間の連携の必要性と具体的な連携モデルの実際、そして、今後の連携のあり方について俯瞰的に理解する。各領域の連携における実際的な課題とそれを克服するための提案を行うことで、情報収集能力と分析能力と情報発信能力を育成する。		
SBOs(行動目標)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健・医療・福祉活動に関わる様々な組織間や専門職種間で連携が求められる社会的背景について説明できる</li> <li>2. 母子保健学領域における連携の課題と連携モデルの実際について説明できる</li> <li>3. 成人保健学領域における連携の課題と連携モデルの実際について説明できる</li> <li>4. 老年保健学領域における連携の課題と連携モデルの実際について説明できる</li> <li>5. 医療生命科学領域における連携の課題と連携モデルの実際について説明できる 特に、感染症防止のための連携の課題と連携モデルの実際について説明できる</li> <li>6. ITネットワークシステムの活用法について具体例を示して説明できる</li> <li>7. 産官学連携の手続きについて説明できる</li> <li>8. 保健・医療・福祉活動の有機的な連携モデルについて意見を述べ、ディスカッションできる</li> </ol>		
授業計画	<p>第1-3回 4/14 保健医療福祉領域における連携の必要性(上村) 老年保健学領域における連携の必要性・課題と連携モデルの実際(上村)</p> <p>第4-5回 4/21 母子保健学領域における連携の必要性・課題と連携モデルの実際(金井)</p> <p>第6-7回 4/28 医療生命科学領域における連携の必要性・課題と連携モデルの実際(奥村・川上)</p> <p>5/5 休み</p> <p>第8-9回 5/12 成人保健学領域における連携の必要性・課題と連携モデルの実際(木村)</p> <p>第10-11回 5/19 保健医療福祉領域の連携を支えるITの概要と活用(濱野)</p> <p>第12-13回 5/26 保健医療福祉領域における産官学連携モデル(杉原)</p> <p>第14-15回 6/2 保健医療福祉領域における連携モデルの提案(まとめ)(上村)</p> <p>14日だけは2~4時限, 21日以降は3・4時限</p>		
授業の進め方	講義と演習		
テキスト, 教材, 参考書	資料を配布する 参考書は授業で紹介する		
成績評価の方法	出席, レポートを総合的に評価し判定する		
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	質問・相談は随時受け付け, 可能な限り積極的に対応する (奥村伸生) 個別の相談は事前の連絡(e-mail: nobuoku@shinshu-u.ac.jpまたは内線3570)によって随時対応 (上村智子) 相談への対応 e-mail: tkamimu@shinshu-u.ac.jp		

登録コード:MA800200	授業科目区分	必修科目
科目名	生涯保健学研究法 Research Methods in Lifespan Health Sciences	
担当教員	木村 貞治 野見山 哲生, 坂口 けさみ, 本郷 実, 相良 淳二, 横川 吉晴	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	保健学専攻博士後期課程 共通/1年次 前期(後半) 土曜・3時限 土曜・4時限	
単位数、講義室	2 単位 保健学科 2 1 2 講義室	
授業概要	生涯保健学ならびに医療生命科学分野における根拠に基づいた実践 (Evidence-based Practice, EBP) の概要と実際, 臨床疫学的研究法の実際について考究するとともに, 人のライフステージに応じた母子保健学領域, 成人保健学領域, 老年保健学領域における具体的な事例を取り上げ, 生涯保健学ならび医療生命科学分野における研究法についての幅広い概念と具体的な方法論について考究する。これらの課程を通して, ライフステージを俯瞰した保健学のあり方を創造的に探求するとともに, 各分野における研究の位置づけと独自性ならびに他分野との研究連携を視座に, 課題に適した研究法を選択できる能力を修得する。	
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	人のライフステージに応じた母子保健学領域, 成人保健学領域, 老年保健学領域, 医療生命科学領域におけるEBPの概念に則った研究法の概要と手法についての理解を深める。	
SBOs (行動目標)	1. EBPの概念に則った研究法の意義と要点について説明できる。 2. 生涯保健学分野, 医療生命科学分野における研究法の特徴と要点について説明できる。	
授業計画	第1回 (6月9日) 生涯保健学におけるEBPの概要 (木村貞治) 第2回 (6月16日) 成人保健学領域の研究法の概要と実際 (121講義室) (本郷 実) 第3回 (6月23日) 医療生命科学領域の研究法の概要と実際 (相良淳二) 第4回 (6月30日) 母子保健学領域の研究法の概要と実際 (坂口けさみ) 第5回 (7月7日) 生涯保健学と研究倫理 (玉井真理子) (1・2時限からの受講が望ましい。また, 終了時間が17時頃まで延長される可能性がある) 場所: 旭総合研究棟9階 A・B講義室 第6回 (7月14日) 老年保健学領域の研究法の概要と実際 (横川吉晴) 第7回 (7月21日) EBPを実践するための臨床疫学の実際 (野見山哲生) 第8回 (7月28日) 生涯保健学におけるEBP研究の講読 (木村貞治) ・パワーポイントを用いたPICOプレゼンテーション	
授業の進め方	講義, グループワーク, プレゼンテーションを中心に進めていく。最終回 (7月28日) には, 各自が設定した臨床的疑問 (PICO) に関する文献講読に関する発表を行う。	
テキスト, 教材, 参考書	資料を配付する。 参考書等については, 講義の中で適宜紹介する。	
成績評価の方法	出席, プレゼンテーションの内容。	
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	臨床場面において, 対象者の臨床像に適した臨床判断を 臨床疫学的な研究結果であるエビデンス, 臨床家の能力, 施設の設備, そして, 対象者の意向や価値観, を統合して臨床判断を実践していくためのEBPの概念と実践方法について修得し, 今後の臨床活動, 研究活動に生かせるよう能動学習を進めていってください。  相談への対応: 木村貞治 tkimura@shinshu-u.ac.jp	

登録コード:MA810100	授業科目区分	必修科目
科目名	母子保健学特講 Special Lectures in Child and Women's Health Science	
担当教員	坂口 けさみ 阪口 しげ子, 市川 元基, 寺田 克, 金井 誠, 玉井 真理子	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子保健学領域/1年次	前期 月曜・5時限 月曜・6時限
単位数、講義室	2単位	
授業概要	<p>リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖の健康と権利）の概念と歴史的背景をふまえ、女性・子ども・親子あるいは家族を対象として、周産期およびその前後のライフステージにおける健康問題や倫理的問題に加えて、感染免疫や臓器移植など先進医療に関する理解を深めるとともに、看護、医学並びに生命倫理的な視点から母子保健学領域の有する健康問題や健康問題を測定する指標の開発、安心して子どもを産み育てることができる保健・医療・福祉システムに基づく連携プログラムの開発、各種介入法、研究法について論究する。</p>	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	母子保健学領域における最新の保健・医療・福祉並びに生命倫理的な観点から研究課題を幅広く理解するとともに、研究課題を深めていくための研究手法について学ぶ。	
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>母子保健に関する研究課題および倫理的課題について述べる事が出来る。</li> <li>親と子の絆の形成メカニズムを理解すると共に、根拠に基づいた助産ケアについて述べる事が出来る。</li> <li>生活習慣病の発生メカニズムと胎児期・新生児期・乳児期の重要性について述べる事が出来る。</li> <li>産科医不足がもたらす産科医療へ及ぼす影響と地域医療ネットワークの重要性について述べる事が出来る。</li> <li>生体の感染防御システムである免疫系の役割について述べる事が出来る。</li> <li>生体肝移植の意義並びに様々な諸問題について理解する事が出来る。</li> </ol>	
授業計画	<p>第1回～第3回（4/9, 16, 23）：（坂口けさみ）周産期における母性行動・父性行動の発現メカニズムや児に対するスキンシップ、カンガルーケアの意義並びに出産後の女性のライフステージにおける臨床的排泄機能に焦点を当て、その概観を理解するとともに、研究手法を学ぶ。</p> <p>第4回～第6回（5/1, 7, 14）：（阪口しげ子）周産期以前のライフステージ、特に思春期保健並びに小児メタボリック症候群の実態とそれらを予防するための介入や取り組み、教育の場との連携プログラムの構築、それらの研究法について論究する。</p> <p>第7回～第8回（5/21, 28）：（市川元基）小児期における疾患の発症と予防について、成長・発達との関連を免疫学・神経学の観点から理解を深め、新生児期を含めた小児期の健康管理について論究する。</p> <p>第9回～第10回（6/4, 11）：（寺田克）胆道閉鎖症や肝移植など、小児期に外科手術を受け成人期を迎えた女性における諸問題について、妊娠・出産の観点を中心に教授する。また男子不妊症の原因の一つである停留睪丸の発症原因と、睪丸下降のメカニズムについて論究する。</p> <p>第11回～第12回（6/18, 25）：（金井誠）最近の産科医不足がもたらす産科医療の問題と、産科医師不足に対する医療連携体制の構築について論究するとともに、早産や妊娠高血圧症候群などハイリスク妊娠に対する疾病管理と重症化予知について学ぶ。</p> <p>第13回～第15回（7/2, 9, 23）：（玉井真理子）歴史的および文化的文脈から性と生殖の健康と権利の概念を多角的に検討しつつ、女性・子ども・家族の生涯にわたる健康問題を概観し、生命倫理的な観点から論究する。</p> <p>第16回 8/1 まとめ</p>	
授業の進め方	講義を中心に進めます。	
テキスト、教材、参考書	<p>【テキスト】 特に指定しないが、適宜紹介する。</p> <p>【参考書・参考資料等】 Klaus &amp; Kennell ;Parent-Infant Bonding,Mosby, 1982., 周産期医学：母子相互作用, 13(12), 1983.玉井真理子, 他；新生児医療現場の生命倫理, MCメディカ出版(2005) など</p>	
成績評価の方法	授業への出席状況並びに課題調査や発表内容、レポート等を総合的に判断して評価する。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	随時対応します。	

科目名	母子保健学演習A Practice in Child and Women's Health Science A
担当教員	坂口 けさみ
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子保健学領域/ 1 年次 後期 月曜・5 時限 月曜・6 時限
単位数、講義室	2 単位
授業概要	周産期における母子関係・父子関係の形成メカニズムや児へのスキンシップ、カンガルーケア、抱っこなど、こどもへのディベロップメンタルケア並びに女性の排泄機能に関する健康問題を中心に、国内外の文献の講読と批判的思考を通して、研究課題を精選する。さらに研究課題を実施するのに適した生理学的指標及び分子生物学的指標の選択や、調査・測定・分析方法について論じていく中で、課題に必要な各種条件を整える。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	母子保健学領域に関する研究課題について、国内外の文献の講読と批判的思考を通して、研究課題を精選するとともに、研究課題を進めるための研究手法や各種条件を整える。
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．課題に関する原著論文を、邦文、欧文に関わりなく読み解くことができる。</li> <li>2．論文講読を通して、主体的に課題を導くことができる。</li> <li>3．研究課題を推し進めるに当たり、必要な各種条件を整えることができる。</li> <li>4．研究計画書を作成できる。</li> </ol>
授業計画	<p>日程については初回時に受講生と話し合い決定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1．母子関係，父子関係，親子関係に関する諸理論について理解する。（10/1）</li> <li>2．母子関係，父子関係，親子関係に関する国内外の論文を講読し，何がどこまで解明されてきているのか，また相互関係をより発展させるためのディベロップメンタルケアについて理解を深めるとともに，1つ1つの研究方法や解釈について批判的に講読を勧める。これらの課程を通して関連領域の課題についても明らかにしていく。</li> <li>3．妊娠・分娩に伴う女性の排泄問題について，国内外の文献を講読し，何がどこまで解明されてきているのか，また課題は何かについて明らかにする。</li> <li>4．研究課題を推し進めるための研究手法について理解を深めるとともに，関連する研究手法を修得する。</li> </ol>
授業の進め方	一部講義、一部プレゼンテーションとディスカッションを行いながら進めていきます。
テキスト，教材，参考書	<p>【テキスト】 適宜紹介する。</p> <p>【参考書，参考資料等】 J. ボルビー：母子関係の理論 ， ， ，岩崎学術出版社(1983) . Klaus &amp; Kennel, Parent-Infant Bonding, Mosby(1982).</p>
成績評価の方法	授業への出席状況並びに課題に関する発表内容，レポート等を総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	

科目名	母子保健学演習B Practice in Child and Women's Health Science B
担当教員	玉井 真理子
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子保健学領域/ 1 年次 後期 火曜・ 5 時限 火曜・ 6 時限
単位数、講義室	2 単位
授業概要	母子保健学領域を中心に、女性・子ども・家族の健康問題をめぐる生命倫理問題を幅広く捉えて、受講者とともに国内外の重要文献を選定し、それらの内容および背景等を検討する。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	生殖補助技術，出生前診断，新生児医療，リプロダクティブ・ヘルス/ライツなど，従来の母子保健学領域で扱われてきた主題にとどまらず，エンハンスメント，ヒト胚利用，遺伝医療，再生医療なども射程に入れ，女性・子ども・家族の健康問題をめぐる生命倫理問題について多様な価値が存在することを認識し，自分なりの見識を養う。
SBOs（行動目標）	
授業計画	第 1 回：授業ガイダンスおよび講読文献候補の紹介 第 2 回～第 4 回：生殖補助技術と生命倫理に関する国内外の重要文献を受講者からの報告をもとに検討する。 第 5 回～第 7 回：出生前診断と生命倫理に関する国内外の重要文献を受講者からの報告をもとに検討する。 第 8 回～第 10 回：新生児医療と生命倫理に関する国内外の重要文献を受講者からの報告をもとに検討する。 第 11 回～第 13 回：リプロダクティブ・ヘルス/ライツと生命倫理に関する国内外の重要文献を受講者からの報告をもとに検討する。 第 14 回～第 15 回：エンハンスメント，ヒト胚利用，遺伝医療，再生医療などと生命倫理に関する国内外の重要文献を受講者からの報告をもとに検討する。
授業の進め方	日時は火 5・6 とは限らず不規則になりますので掲示等にご注意ください。
テキスト，教材，参考書	【テキスト】 指定しない 【参考書・参考資料等】 樋口範雄編『生命倫理と法』，『生命倫理と法』（いずれも弘文堂）
成績評価の方法	出席状況，授業での報告の状況，最終レポートを総合的に評価する。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	

科目名	母子保健学演習 C Practice in Child and Women's Health Science C
担当教員	市川 元基
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子保健学領域/ 1 年次 後期 月曜・ 5 時限 月曜・ 6 時限
単位数、講義室	2 単位
授業概要	新生児期、小児期における保健・医療に関する国内外の文献をテーマを決めて講読する。その中で情報収集能力、分析能力を養い、研究課題を決定する。研究課題を遂行して行くために必要な研究方法についても国内外の論文・教科書等を講読し、研究方法を追求する。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	1．国内外の原著論文、総説を読み解くことができる。 2．論文講読を通して研究課題を決定できる。 3．研究遂行に必要な知識・技術を得ることができる。
SBOs（行動目標）	新生児・小児の保健医療学領域の研究課題を国内外の文献講読を通して決定し、その研究方法に関する知識・技術を得る。
授業計画	10月 1日 新生児・小児保健医療に関する講義 10月15日 新生児・小児保健医療に関する講義 10月22日 新生児・小児保健医療に関する講義 10月29日 新生児・小児保健医療に関する論文講読 11月 5日 新生児・小児保健医療に関する論文講読 11月12日 新生児・小児保健医療に関する論文講読 11月19日 新生児・小児保健医療に関する論文講読 11月26日 新生児・小児保健医療に関する論文講読 12月 3日 新生児・小児保健医療に関する論文講読 12月10日 新生児・小児保健医療に関する討議 12月17日 新生児・小児保健医療に関する討議 12月25日 新生児・小児保健医療に関する討議 1月 7日 新生児・小児保健医療に関する討議 1月21日 新生児・小児保健医療に関する討議 1月28日 新生児・小児保健医療に関する討議
授業の進め方	講義、プレゼンテーション、討議を行う。
テキスト、教材、参考書	適宜紹介する。
成績評価の方法	出席、レポート、討議内容等を総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	自ら学ぶ姿勢を期待する。

科目名	母子保健学演習 D Practice in Child and Women's Health Science D
担当教員	金井 誠
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子保健学領域/ 1 年次 後期 火曜・ 5 時限 火曜・ 6 時限
単位数、講義室	2 単位
授業概要	<p>周産期における母子保健(特に母体産科合併症、胎児発育不全など)に関する諸問題を中心に、国内外の文献の講読と批判的思考を通して、研究課題を精選する。さらに研究課題を実施する際に適した研究手法の選択や調査・測定・分析方法について論究していく中で、課題に必要な各種条件を整える。</p> <p>一般学習目標G10(期待される学習効果) 母子保健学領域に関する研究課題について、国内外の文献の講読と批判的思考を通して、研究課題を精選するとともに、研究課題を進めるための研究方法や各種条件を整える。</p>
一般学習目標G10(期待される学習効果)	母子保健学領域に関する研究課題について、国内外の文献の講読と批判的思考を通して、研究課題を精選するとともに、研究課題を進めるための研究方法や各種条件を整える。
SBOs(行動目標)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題に関する原著論文を、邦文、欧文に関わりなく読み解くことができる。</li> <li>2. 論文講読を通して、主体的に課題を導くことができる。</li> <li>3. 研究課題を推し進めるに当たり、必要な各種条件を整えることができる。</li> <li>4. 研究計画書を作成できる。</li> </ol>
授業計画	<p>(10/2, 9, 16, 23, 30,11/6, 13, 20, 27, 12/4, 11, 18, 1/15, 22, 29)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母体産科合併症、胎児発育不全に関する疫学・発症機序などの理論について理解する。</li> <li>2. 母体産科合併症、胎児発育不全に関する国内外の論文を講読し、何がどこまで解明されてきているのかについて理解を深めるとともに、1つ1つの研究方法や解釈について批判的に講読を進める。これらの課程を通して関連領域の課題についても明らかにしていく。</li> <li>3. 研究課題を推し進めるための研究方法について理解を深めるとともに、関連する研究手法を修得する。</li> </ol>
授業の進め方	一部講義、一部プレゼンテーションとディスカッションを行いながら進めていきます。
テキスト、教材、参考書	<p>[テキスト] 適宜紹介する。 [参考書、参考資料等] 適宜紹介する。</p>
成績評価の方法	授業への出席状況並びに課題に関する発表内容、レポート等を総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	<p>質問は授業中もしくは終了後にいつでもして下さい。 相談などは、金井誠宛にお願い致します。電話は内線3582(外線0263-37-2399)ですが、原則的に連絡はメールでお願い致します。makotok@shinshu-u.ac.jpです。</p>

科目名	母子保健学演習 E Practice in Child and Women's Health Science E
担当教員	寺田 克
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子保健学領域/ 1 年次 後期 月曜・5 時限 月曜・6 時限
単位数、講義室	2 単位
授業概要	小児外科領域に関連した病因、病態、周術期管理、予後等に関する諸問題を中心に国内外の文献を購読し、プレゼンテーションとディスカッションを行う。それを通じ、対象文献の信頼性、妥当性の検討法、データの分析法等について学ぶとともに、研究課題の設定に向けての絞り込みを行う。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	1．国内外の研究の動向を理解することができる。 2．情報収集能力、分析能力を身につけることができる。 3．発表、討論能力を養うことができる。
SBOs（行動目標）	以下の目標に向かって主体的かつ自律して取り組む。 1．国内外の研究の動向を理解するため、国内外の文献を購読する。 2．対象文献の信頼性、妥当性について検討する。 3．対象文献で用いている分析法について理解する。 4．研究計画書作成に向けての研究課題の絞り込みを行う。
授業計画	1．演習E全般のガイダンスと興味ある分野・研究内容のヒアリングとディスカッション 2．興味ある分野・研究内容に関する既知の知識の整理と関連文献の紹介 3．文献の収集と購読ならびに内容の理解 4．収集文献のプレゼンテーションとディスカッション 5．研究課題絞り込みに向けての研究手法の習得 (開講日時は相談のうえ決定する)
授業の進め方	プレゼンテーションとディスカッションならびに講義を交えて進める。
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 指定しない。 【参考書・参考資料等】 研究課題の内容により適宜紹介する。
成績評価の方法	演習への参加状況、発表・討論における理解、レポート等を総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問・相談には随時対応します。

科目名	母子保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Child and Women's Health Science
担当教員	坂口 けさみ
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子保健学領域 1, 2, 3 年次 通年 ・不定
単位数、講義室	6 単位
授業概要	女性・子ども・親子あるいは家族に関する健康と看護並びに助産を含めた母子保健学領域の中で研究課題を設定し、倫理的配慮に基づいた研究計画書を立案する。また、研究課題を達成するために最も適した信頼性、妥当性、信憑性のある研究手法によるデータ収集と解析を行い、一連の研究成果を論文にまとめる。これらのプロセスを自律してできるように指導する。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	国内外の研究の動向を理解するとともに、独創的な観点から研究課題が設定できる。その課題に従って研究を推し進めるための各種条件を整えながら、研究計画書を作成する。研究計画書に従ってデータを収集し分析、科学的論文を作成する。この一連の過程を自律してできる。
SBOs（行動目標）	以下の過程について主体的に、かつ自立して取り組むことができる。 1. 国内外の研究の動向を理解するとともに、独創的な観点から研究課題が設定できる。 2. その課題に従って研究を推し進めるための各種条件を整えながら、研究計画書を作成する。 3. 研究計画書に従って必要なデータを収集できる。 4. 適切な分析方法を選択できる。 5. 科学的論文を作成できる。
授業計画	1. 国内外の研究の動向を理解するとともに、独創的な観点から研究課題を設定し、研究計画書を立案する。 2. プレテストを実施し、研究計画書の修正を行う。 3. 研究に関する倫理について必要な内容を含めて明確に把握するとともに、信州大学医学部医倫理委員会での研究倫理審査を受ける。 4. 研究計画書に従ってデータを収集する。 5. 収集したデータを分析する。 6. 収集したデータから導かれた結果に基づいて博士論文を完成させる。またそれを発表する。
授業の進め方	主体的に進めていくこと。
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 随時紹介する 【参考書・参考資料等】 適宜指示する
成績評価の方法	一連の研究プロセスに則ってその過程が自律してできるか、問題が生じた場合にどのように対応して問題の解決にあたったか、さらに一連の研究内容が独創性に富んだものであるか、科学的に進められて論文作成に至っているかを総合的に判断する。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	随時対応します。

科目名	母子保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Child and Women's Health Science
担当教員	市川 元基
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子保健学領域 1, 2, 3 年次 通年 ・不定
単位数、講義室	6 単位
授業概要	小児保健学に関する研究を自律して遂行し、科学的論文を作成する。
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	国内外の研究の動向を理解するとともに、独創的な観点から研究課題が設定できる。その課題に従って研究を推し進めるための各種条件を整えながら、研究計画書を作成する。研究計画書に従ってデータを収集し分析、科学的論文を作成する。この一連の過程を自律してできる。
SBOs (行動目標)	以下の過程について主体的に、かつ自立して取り組むことができる。 1. 国内外の研究の動向を理解するとともに、独創的な観点から研究課題が設定できる。 2. その課題に従って研究を推し進めるための各種条件を整えながら、研究計画書を作成する。 3. 研究計画書に従って必要なデータを収集できる。 4. 適切な分析方法を選択できる。 5. 科学的論文を作成できる。
授業計画	1. 国内外の研究の動向を理解するとともに、独創的な観点から研究課題を設定し、研究計画書を立案する。 2. プレテストを実施し、研究計画書の修正を行う。 3. 研究に関する倫理について必要な内容を含めて明確に把握するとともに、信州大学医学部医倫理委員会での研究倫理審査を受ける。 4. 研究計画書に従ってデータを収集する。 5. 収集したデータを分析する。 6. 収集したデータから導かれた結果に基づいて博士論文を完成させる。またそれを発表する。
授業の進め方	研究に関する討論を適宜行いながら、研究に実施、論文を作成する。
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 随時紹介する 【参考書・参考資料等】 適宜指示する
成績評価の方法	一連の研究プロセスに則ってその過程が自律してできるか、問題が生じた場合にどのように対応して問題の解決にあたったか、さらに一連の研究内容が独創性に富んだものであるか、科学的に進められて論文作成に至っているかを総合的に判断する。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	

登録コード:MA810703		授業科目区分	必修科目
科目名	母子保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Child and Women's Health Science		
担当教員	金井 誠		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子保健学領域 1, 2, 3 年次	通年	・不定
単位数、講義室	6 単位		
授業概要	母体産科合併症、胎児発育不全に関する諸問題を含めた母子保健学領域の中で研究課題を設定し、倫理的配慮に基づいた研究計画書を立案する。また、研究課題を達成するために最も適した信頼性、妥当性、信憑性のある研究手法によるデータ収集と解析を行い、一連の研究成果を論文にまとめる。これらのプロセスを自律してできるように指導する。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	国内外の研究の動向を理解するとともに、独創的な観点から研究課題が設定できる。その課題に従って研究を推し進めるための各種条件を整えながら、研究計画書を作成する。研究計画書に従ってデータを収集し分析、科学的論文を作成する。この一連の過程を自律してできる。		
SBOs（行動目標）	以下の過程について主体的に、かつ自立して取り組むことができる。 1. 国内外の研究の動向を理解するとともに、独創的な観点から研究課題が設定できる。 2. その課題に従って研究を推し進めるための各種条件を整えながら、研究計画書を作成する。 3. 研究計画書に従って必要なデータを収集できる。 4. 適切な分析方法を選択できる。 5. 科学的論文を作成できる。		
授業計画	1. 国内外の研究の動向を理解するとともに、独創的な観点から研究課題を設定し、研究計画書を立案する。 2. プレテストを実施し、研究計画書の修正を行う。 3. 研究に関する倫理について必要な内容を含めて明確に把握するとともに、信州大学医学部医倫理委員会での研究倫理審査を受ける。 4. 研究計画書に従ってデータを収集する。 5. 収集したデータを分析する。 6. 収集したデータから導かれた結果に基づいて博士論文を完成させる。またそれを発表する。		
授業の進め方	主体的に進めていくこと。		
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 随時紹介する 【参考書・参考資料等】 適宜指示する		
成績評価の方法	一連の研究プロセスに則ってその過程が自律してできるか、問題が生じた場合にどのように対応して問題の解決にあたったか、さらに一連の研究内容が独創性に富んだものであるか、科学的に進められて論文作成に至っているかを総合的に判断する。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問は授業中もしくは終了後にいつでもして下さい。 相談などは、金井誠宛にお願い致します。電話は内線3582（外線0263-37-2399）ですが、原則的に連絡はメールでお願い致します。makotok@shinshu-u.ac.jpです。		

登録コード:MA810704	授業科目区分	必修科目
科目名	母子保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Child and Women's Health Science	
担当教員	寺田 克	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子保健学領域 1, 2, 3 年次	通年 ・不定
単位数、講義室	6 単位	
授業概要	小児外科領域に関連した病因、病態、周術期管理、予後等に関する研究課題をプレゼンテーションとディスカッションを通じて設定し、倫理的配慮に基づいた研究計画書を立案・作成する。それを基に倫理委員会申請書類を作成する。 研究計画書に基づき研究を実施し、信頼性、妥当性のある研究分析法によりデータの収集、解析を行う。一連の研究成果を論文にまとめ、国内外で発表する。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．国内外の研究の動向を理解するとともに、独創的な観点から研究課題が設定できる。</li> <li>2．課題に従って研究を推し進めるための各種条件を整えながら、研究計画書を作成することができる。</li> <li>3．研究計画書に従ってデータを収集、分析し、科学的論文を作成することができる。</li> <li>4．一連の過程が自律してできることにより、情報収集能力、分析能力を養うことができる。</li> <li>5．また研究成果を国内外に発信することで情報発信能力を養うことができる。</li> </ol>	
SBOs（行動目標）	<p>以下の過程について主体的に、かつ自律して取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1．国内外の研究の動向を理解するとともに、独創的な観点から研究課題を設定する。</li> <li>2．その課題に従って研究を推し進めるための各種条件を整えながら、研究計画書、倫理委員会申請書類を作成する。</li> <li>3．研究計画書に従って必要なデータを収集する。</li> <li>4．適切な分析方法を選択する。</li> <li>5．科学的論文を作成する。</li> <li>6．研究成果を国内外で発表する。</li> </ol>	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．プレゼンテーションとディスカッションを通じ国内外の研究の動向を理解するとともに、独創的な観点から研究課題を設定し、研究計画書を立案する。</li> <li>2．プレテストを実施し、研究計画書の修正を行う。</li> <li>3．研究に関する倫理について必要な内容を含めて明確に把握するとともに、信州大学医学部医倫理委員会での研究倫理審査を受ける。</li> <li>4．研究計画書に従ってデータを収集する。</li> <li>5．収集したデータを分析する。</li> <li>6．収集したデータ分析から導かれた結果に基づいて博士論文を完成させる。またそれを発表する。</li> </ol>	
授業の進め方	プレゼンテーションとディスカッションに基づき進める。	
テキスト、教材、参考書	<p>【テキスト】 指定しない。</p> <p>【参考書・参考資料等】 研究課題の内容により適宜紹介する。</p>	
成績評価の方法	一連の研究プロセスに則ってその過程が自律してできるか、問題が生じた場合にどのように対応して問題の解決にあたったか、さらに一連の研究内容が独創性に富んだものであるか、科学的に進められて論文作成に至っているかを総合的に判断する。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問・相談には随時対応します。	

科目名	母子保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Child and Women's Health Science
担当教員	玉井 真理子
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子保健学領域 1, 2, 3 年次 通年 ・不定
単位数、講義室	6 単位
授業概要	女性・子ども・家族の健康問題をめぐる生命倫理学という大枠の中から，自らの問題意識に基づいて研究課題を設定し，フィールドワークや文献研究などを含む学術的な研究方法論をふまえて，自律的に研究を遂行できる能力を養う。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	国内外の研究の動向を理解するとともに，独創的な観点から研究課題が設定できる。その課題に従って研究を推し進めるための各種条件を整えながら，研究計画書を作成する。研究計画書に従ってデータを収集し分析，科学的論文を作成する。この一連の過程を自律してできる。
SB0s（行動目標）	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内外の研究の動向を理解するとともに，独創的な観点から研究課題を設定し，研究計画書を立案する。</li> <li>2. プレテストを実施し，研究計画書の修正を行う。</li> <li>3. 研究に関する倫理について必要な内容を含めて明確に把握するとともに，信州大学医学部医倫理委員会での研究倫理審査を受ける。</li> <li>4. 研究計画書に従ってデータを収集する。</li> <li>5. 収集したデータを分析する。</li> <li>6. 収集したデータから導かれた結果に基づいて博士論文を完成させる。またそれを発表する。</li> </ol>
授業の進め方	
テキスト，教材，参考書	<b>【テキスト】</b> 随時紹介する <b>【参考書・参考資料等】</b> 適宜指示する
成績評価の方法	一連の研究プロセスに則ってその過程が自律してできるか，問題が生じた場合にどのように対応して問題の解決にあたったか，さらに一連の研究内容が独創性に富んだものであるか，科学的に進められて論文作成に至っているかを総合的に判断する。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	

登録コード:MA820100		授業科目区分	選択科目
科目名	成人保健学特講 Special Lectures in Adult Health Science		
担当教員	松永 保子 本郷 実, 坂口 けさみ, 木村 貞治, 百瀬 公人, 小林 正義		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人保健学領域/1年次	前期	土曜・5時限 土曜・6時限
単位数、講義室	2単位	保健学科212講義室	
授業概要	成人期における心身の健康問題の予防とケアを目的とした保健学の取り組みとその効果について、EBPの観点から考究する。具体的には、生活習慣病、運動器疾患、内部障害、神経疾患、スポーツ傷害、精神疾患等の予防とケアを目的とした保健学に関するエビデンスを創出するための研究方法や、看護師・保健師等の医療技術者のケアに必要な医療技術の修得・実践・開発方法、及び医療技術者の育成方法・継続教育に関する研究について探求する。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	成人期における心身の健康問題の予防とケアを目的とした保健学の取り組みと、EBPの観点に則った研究法のあり方や、医療技術の修得・実践・開発、医療技術者の育成、継続教育等に関する研究法について修得する。		
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クライアントの健康問題に対するケアに必要な医療技術の修得・実践・開発や医療技術者の育成に関する方法、および継続教育プログラムについて説明できる。</li> <li>・成人期における運動器疾患、内部障害疾患、神経疾患の予防とケアを目的としたEBPの進め方について具体的に説明できる。</li> <li>・成人期における排泄障害について、最新のトピックスと治療・ケアの動向について説明できる。</li> <li>・ライフサイクルに沿ったメンタルヘルスの課題とその対応について説明できる。</li> <li>・成人期の精神科入院医療における心身のケアについての研究法を説明できる。</li> </ul>		
授業計画	第1回（4月21日）：成人期における生活習慣病の実態（本郷実） 第2回（4月21日）：成人期における生活習慣病の予防とケアに関する研究法（本郷実） 第3回（5月19日）：成人期における運動器疾患の実態（Goh Ah Cheng） 第4回（5月19日）：成人期における運動器疾患の予防とケアに関する研究法（Goh Ah Cheng） 第5回（5月26日）：成人期における入院医療での精神医療の実際（下里誠二） 第6回（5月26日）：成人期における入院医療での精神障害者のケアと研究法（下里誠二） 第7回（6月2日）：成人期におけるこころの健康問題（小林正義） 第8回（6月2日）：精神科リハビリテーションの理論とモデル（小林正義） 第9回（6月23日）：成人期における重度神経筋疾患患者の支援技術（千島 亮） 第10回（6月23日）：支援技術の理論と生体医工学に関する研究法（千島 亮） 第11回（6月30日）：妊産婦における排泄障害（1）（坂口けさみ） 第12回（6月30日）：妊産婦における排泄障害（2）（坂口けさみ） 第13回（7月14日）：クライアントの健康問題に対するケアに必要な医療技術の修得・実践・開発及び医療技術者の育成に関する方法論（松永保子） 第14回（7月14日）：継続教育プログラムの構築（松永保子） 第15回（7月21日）：成人期におけるスポーツ傷害に対するEBPの実践モデル（木村貞治） 第16回（7月21日）：成人期におけるスポーツ傷害の予防とケアに関する研究法（木村貞治） 第17回（7月28日）：成人期における内部障害・神経疾患の実際（百瀬公人） 第18回（7月28日）：成人期における内部障害・神経疾患のケアに関する研究法（百瀬公人）		
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義</li> <li>・グループワーク</li> </ul>		
テキスト、教材、参考書	適宜、指示する。		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席状況</li> <li>・レポート</li> </ul>		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応			

科目名	成人保健学演習A Practice in Adult Health Science A
担当教員	松永 保子
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人保健学領域/1年次 後期 月曜・5時限 月曜・6時限
単位数、講義室	2単位
授業概要	成人保健学特講をふまえて、看護師・保健師等の医療技術者がクライアントに対する身体的精神的ケアのために必要な医療技術の修得・実践・開発、クライアント自身が健康生活を確立・維持するための保健行動がとれるような教育・指導ができる医療技術者の育成方法、及び医療技術者の継続教育や健康を支援する制度・システムに関する研究論文等をクリティカルシンキングの観点から講読し、分析・検討する。また、これらのことを通じて研究課題を見出し、具体的で実践的な研究計画の立案をはかる。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	成人保健学特講をふまえて、医療技術の修得方法及びクライアントに対する実践が行える医療技術者の育成方法や継続教育、健康を支援する制度・システム等に関する先行研究を概観し、研究課題を見出す。
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療技術の修得方法及び医療技術者の育成方法や継続教育、健康を支援する制度・システム等について説明できる。</li> <li>・研究課題を見出すことができる。</li> <li>・研究計画の立案ができる。</li> </ul>
授業計画	<p>第1～3回：クライアントに対するケアのために必要な医療技術の修得・実践方法及び開発等に関する先行研究を講読し、分析・検討する。</p> <p>第4～6回：クライアントへの学習支援や健康教育・保健指導が行える看護師・保健師等の医療技術者の育成方法についての先行研究を講読し、現状を分析・検討する。</p> <p>第7～9回：施設における看護師・保健師等の医療技術者への継続教育に関する先行研究を講読し、分析・検討する。</p> <p>第10～12回：クライアントの健康を支援する制度やシステムに関する先行研究を講読し、分析・検討する。</p> <p>第13～15回：これまでの先行研究についての分析や検討をふまえて、研究課題を見出し計画の立案をはかる。</p> <p>*実施日時については、後日指示する。</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義</li> <li>・演習</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>
テキスト、教材、参考書	適宜、指示する。
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席状況</li> <li>・レポート</li> </ul>
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	

登録コード:MA820500		授業科目区分	選択科目
科目名	成人保健学演習B Practice in Adult Health Science B		
担当教員	本郷 実		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人保健学領域/1年次	後期	火曜・5時限 火曜・6時限
単位数、講義室	2単位		
授業概要	わが国の3大死因、特に心疾患、脳血管疾患に深く関連するメタボリックシンドロームおよびこれを構成する高血圧、糖尿病、脂質異常症など各種生活習慣病、虚血性心疾患などの動脈硬化性疾患や心不全などの疫学、病態、診断、治療法を幅広く学び、予防や健康増進に必要な最新の専門知識を具体的データに基づいて教授する。また、青少年期の生活習慣病の予防を目的としたエビデンスの収集・構築方法、解釈の仕方、応用方法などについて修得する。		
一般学習目標G10(期待される学習効果)	1. メタボリックシンドローム、各種生活習慣病、動脈硬化性疾患、心不全などの疫学、病態、診断、治療を理解出来る。 2. メタボリックシンドローム、各種生活習慣病の予防法を修得し、健康増進に活かすことが出来る。 3. 生活習慣病の予防を目的としたエビデンスの収集・構築、解釈、応用方法を修得する。		
SBOs(行動目標)			
授業計画	第1回:メタボリックシンドローム、生活習慣病 第2回:高血圧 第3回:糖尿病 第4回:脂質異常症(高脂血症) 第5回:動脈硬化 第6回:虚血性心疾患 第7回:心不全 第8回:こどもの生活習慣病 第9回:生活習慣病とその予防、健康増進 第10回:成人の生活習慣病研究 第11回:青少年の生活習慣病研究 第12回:学童・小児の生活習慣病研究 第13回~第15回:まとめ		
授業の進め方	テキスト、プリント、スライドなどにより進める		
テキスト,教材,参考書	<b>【テキスト】</b> 内科学 Handbook:本郷 実・編(信州大学) <b>【参考書・参考資料等】</b> メタボリックシンドローム実践ハンドブック:松澤佑次・監修(金芳堂)		
成績評価の方法	レポート,出席状況から評価する。		
学生へのメッセージ並びに質問,相談への対応	内科系疾患の専門的評価能力を高め、より専門性の高い実践を遂行するために、生活習慣病、各種循環器疾患に関する疫学、病態、診断、治療法を幅広く学び、予防や健康増進に必要な最新の専門知識を具体的データに基づいて教授する。随時、日進月歩の医学の歩み、トピックスについて紹介し、学生諸君の夢を広げるような講義を行いたいと考えている。		

登録コード:MA820700		授業科目区分	選択科目
科目名	成人保健学演習C Practice in Adult Health Science C		
担当教員	百瀬 公人 木村 貞治, ゴウ アーチェン		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人保健学領域/ 1年次	後期	水曜・5時限 水曜・6時限
単位数、講義室	2 単位		
授業概要	授業では、成人期における運動器疾患、スポーツ傷害、神経疾患の評価・治療に関連した講義、臨床試験や系統的総説などの研究論文の講読、批判的吟味を中心としたプレゼンテーション、討論を通じて、EBPの概念に則った研究法の具体的な進め方について考究する。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	EBPの概念に則った研究論文の講読とプレゼンテーションを通して、成人期における運動器疾患、スポーツ傷害、神経疾患、内部障害に対する評価、臨床推論、臨床判断、治療に関する科学的妥当性のある研究計画の立案方法を修得する。		
SBOs（行動目標）	成人期における運動器疾患、スポーツ傷害、神経疾患、内部障害などによる異常な運動の原因を説明できる。 運動器疾患、スポーツ傷害の評価ができ、臨床推論が行える。 成人期における運動器疾患、内部障害疾患、神経疾患の予防とケアを目的としたEBPTの研究を実施できる。		
授業計画	第1回（10月3日）正常な身体運動の基礎理解とその評価（百瀬公人） 第2回（10月10日）異常な身体運動の基礎理解とその評価（百瀬公人） 第3回（10月17日）肩関節疾患患者の異常動作の原因と治療（百瀬公人） 第4回（10月24日）脳血管障害患者の異常動作の原因と治療（百瀬公人） 第5回（10月31日）内部障害患者の異常動作の原因と治療（百瀬公人） 第6回（11月7日）運動器疾患の評価法：上肢（Goh Ah Cheng） 第7回（11月14日）運動器疾患の評価法：下肢（Goh Ah Cheng） 第8回（11月21日）運動器疾患の評価法：体幹（Goh Ah Cheng） 第9回（11月28日）運動器疾患の臨床推論（Goh Ah Cheng） 第10回（12月5日）運動器疾患の臨床判断モデル（Goh Ah Cheng） 第11回（12月12日）スポーツ傷害の評価法（木村貞治） 第12回（12月19日）スポーツ傷害の治療法（木村貞治） 第13回（1月9日）EBPの概念に則った研究法の進め方（木村貞治） 第14回（1月16日）EBPの概念に則った研究論文の講読会（木村貞治） 第15回（1月23日）EBPに概念に則った研究論文の講読会（木村貞治）		
授業の進め方	講義，グループワーク		
テキスト，教材，参考書	適宜，指示する		
成績評価の方法	出席，プレゼンテーションの内容		
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	メール、および研究室までお問い合わせください。		

科目名	成人保健学演習D Practice in Adult Health Science D
担当教員	小林 正義
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人保健学領域/ 1年次 後期 木曜・5時限 木曜・6時限
単位数、講義室	2単位
授業概要	早期介入，退院促進，家族支援，地域移行・参加支援，就労支援など，精神保健医療福祉領域の先行研究を調査し，エビデンスを集約する．調査結果をもとに精神・認知機能障害をもつ人達に対する支援プログラムと利用者アウトカムを作成し，介入効果を検証する研究計画を作成する．
一般学習目標G10（期待される学習効果）	精神保健医療福祉領域における支援プログラムと，効果測定に用いる評価ツール等を作成し，プログラムによる治療効果や，作成した評価法の信頼性・妥当性を検証する臨床研究の実践能力を開発する．
SBOs（行動目標）	1. テーマに沿った系統的な文献レビューができる． 2. 精神保健医療福祉領域の支援プログラムや，効果測定に有効な評価ツール等を作成し，これらを検証する研究計画を作成することができる．
授業計画	10/ 4 第1回 研究テーマの検討と文献レビュー 10/11 第2回 研究テーマの検討と文献レビュー 10/18 第3回 研究テーマの検討と文献レビュー 10/25 第4回 研究テーマの検討と文献レビュー 11/ 1 第5回 支援プログラム・アウトカムメジャー計画 11/ 8 第6回 支援プログラム・アウトカムメジャー計画 11/15 第7回 支援プログラム・アウトカムメジャー計画 11/22 第8回 支援プログラム・アウトカムメジャー計画 11/29 第9回 プログラム・評価法の演習（予備調査，BACS-J，他） 12/ 6 第10回 プログラム・評価法の演習（予備調査，BACS-J，他） 12/13 第11回 プログラム・評価法の演習（予備調査，BACS-J，他） 12/20 第12回 プログラム・評価法の演習（予備調査，BACS-J，他） 1/10 第13回 研究デザイン・研究計画・倫理審査申請書の作成 1/17 第14回 研究デザイン・研究計画・倫理審査申請書の作成 1/24 第15回 研究デザイン・研究計画・倫理審査申請書の作成
授業の進め方	講義，演習
テキスト，教材，参考書	【テキスト】 授業の中で参考図書を紹介する 【参考書・参考資料等】 授業の中で配布する
成績評価の方法	文献調査とエビデンスの吟味，作成する介入プログラムの妥当性・実用性，研究計画の具体性等を評価する
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	直接，またはEメールにて対応する．mkobaya@shinshu-u.ac.jp

登録コード:MA821000	授業科目区分	選択科目
科目名	成人保健学演習 E Practice in Adult Health Science E	
担当教員	千島 亮	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人保健学領域/1年次	後期 金曜・5時限 金曜・6時限
単位数、講義室	2単位	
授業概要	作業療法学に応用される支援機器と活用による支援技術領域について、生体信号応用の基本的な数理情報科学と情報工学における基本的な理論と技法を学習する。ヒューマン・コンピュータ・インタラクション(HCI)に関わる情報科学領域との協調を図り、新たな支援方策や戦略提案について討論する。脳波(EEG)研究領域の幅広い知見や課題を考察し、具体的な研究計画の策定を進める。	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	重度障害者の生活支援に応用される情報科学・工学領域に精通し、新たな生活支援システムと支援プログラムを提案できる。脳波応用による幅広い研究分野に精通し、「脳波(EEG)」応用研究の歩みを学術書・文献から考察できる。新たなBCI(Brain-Computer Interface)構築を最終目標とし、特徴的な脳波信号処理・解析に関する生体信号解析理論を深く理解する。重度障害者の自立生活支援に向けた脳波応用支援技術について論ずる。リハビリテーション医工学領域での脳波応用支援技術の現況を考察できる。今日までに進められてきたBCI研究の基礎から応用までの研究成果について理解できる。具体的な方策提案に向けた研究計画を立案する。	
SBOs(行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究技法の獲得と論述技法についての自主的な学習展開と、発展的な計画提案を発表・議論を通じた研究計画を実践できる。</li> <li>研究ゼミナール(BCIゼミ)への積極的な参加と、輪読による発表・研究計画や進展状況の定期報告と討議を自主的に推進できる。</li> </ul>	
授業計画	<p>「BCI研究」に関わる「J.R.Wolpaw,E.W.Wolpaw(Editor): Brain-Computer Interfaces: Principles and Practice, Oxford University Press, 2012.」をテキストとして輪読報告し、研究計画に関連する文献検索と報告をゼミナール(BCIゼミ)で展開する。</p> <p>第1回: 1. Brain-Computer Interfaces: Something New under the Sun/2. Neuronal Activity in Motor Cortex and Related Areas</p> <p>第2回: 3. Electric and Magnetic Fields Produced by the Brain/4. Signals Reflecting Brain Metabolic Activity</p> <p>第3回: 5. Acquiring Brain Signals from Within the Brain/6. Acquiring Brain Signals from Outside the Brain</p> <p>第4回: 7. BCI Signal Processing: Feature Extraction/6. BCI Signal Processing: Feature Translation</p> <p>第5回: 9. BCI Hardware and Software/10. BCI Operating Protocols</p> <p>第6回: 11. BCI Applications/12. BCIs that Use P300 Event-Related Potentials</p> <p>第7回: 13. BCIs that Use Sensorimotor Rhythms/14. BCIs that Use Steady-State Visual Evoked Potentials or Slow Cortical Potentials</p> <p>第8回: 15. BCIs that Use Electroencephalographic (EEG) Activity/16. BCIs that Use Signals Recorded in Motor Cortex</p> <p>第9回: 17. BCIs that Use Signals Recorded in Parietal or Premotor Cortex/18. BCIs that Use Brain Metabolic Signals</p> <p>第10回: 19. BCI Users and Their Needs/20. Clinical Evaluation of BCIs</p> <p>第11回: 21. Dissemination: Getting BCIs to the People Who Need Them/22. BCI Therapeutic Applications for Improving Brain Function</p> <p>第12回: 23. BCI Applications for the General Population/24. Ethical Issues in BCI Research</p> <p>第13回: 25. The Future of BCIs</p> <p>第14回: 研究計画策定・研究概要報告・討議・情報交換・学会発表・ワークショップ参加</p> <p>第15回: 研究計画修正・年間研究スケジュール立案・倫理審査申請・研究計画の検討</p> <p>第16回: 外部研究費申請計画・研究申請の検討・国内外学術研究機関との連携と情報交換 研究計画案の完了。国内外関連学会の年間スケジュール確認と発表計画の検討</p>	
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究ゼミナール(BCIゼミ)での抄読発表・研究経過に関わる定期報告と討議。</li> <li>研究計画提案の過程で重要となる文献の検索・収集と論文考察。</li> <li>学会発表・論文発表内容の報告と討議。</li> <li>BCI研究に関わる最新の情報収集と関連研究機関との連携。</li> <li>研究推進過程での課題や、問題解決に向けた新たな提案事項の討議。</li> </ul>	
テキスト,教材,参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>配付資料</li> <li>関連する文献資料</li> <li>J.R.Wolpaw,E.W.Wolpaw(Editor): Brain-Computer Interfaces: Principles and Practice, Oxford University Press, 2012.</li> </ul>	
成績評価の方法	<p>ゼミナール参加・受講状況:20点 演習課題:第1回・2回・3回:30点 研究計画策定の進展状況・研究計画過程での討議内容:50点 以上を加味し、成績の目安は合計点で、A;85点以上、B;84~70点、C;69~60点、D;59点以下として判断する。状況については各自で千島まで確認のこと。</p>	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	<p>学内無線LANからWWW接続可能なPCを持参のこと。在籍期間を通し、実験・ゼミナール討論・研究実施状況の報告等を自主的に進めること。指導教員への広告を密として研究計画案の検討を進める。各研究を推進する上での日時含めた実施予定は、ゼミナール・本演習の進行に合わせて調整する。研究・実験場所など、所属予定者各人の予定や条件を出来る限り考慮して進める。当研究室(千島)の所属希望の者は「特別研究」履修を含めて、必ず事前に千島まで相談のこと。</p> <p>千島研究室: 0263-37-2404(ダイヤルイン) mchishi@shinshu-u.ac.jp</p>	

科目名	成人保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Adult Health Science
担当教員	松永 保子
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人保健学領域/ 1 , 2 , 3 年次 通年 ・不定
単位数、講義室	6 単位
授業概要	成人保健学領域における研究課題の設定，研究計画の立案，調査・研究の遂行，論理的に構成された博士論文の作成という一連の研究活動を指導教員の助言・指導のもとで行う。 看護師・保健師等の医療技術者がクライアントに対してケアを実施するための効果的な医療技術の修得方法や実践方法の開発，クライアント自身が健康生活のための保健行動がとれるように教育・指導ができる看護師・保健師等の医療技術者の育成方法の開発に関する実践研究を行い，研究成果を博士論文としてまとめる。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	医療技術者がクライアントに対してケアを実施するための効果的な医療技術の修得方法や実践方法の開発や，医療技術者の育成方法の開発に関連する研究計画の立案，研究の実施，博士論文作成という一連の過程を通して，成人期における保健学研究法概念と手法を修得する。
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究テーマを設定できる。</li> <li>・適切な研究方法を選択して研究計画書が作成できる。</li> <li>・倫理委員会提出用の書類が作成できる。</li> <li>・データの収集ができる。</li> <li>・データの分析ができる。</li> <li>・研究論文を作成することができる。</li> <li>・研究成果のプレゼンテーションができる。</li> </ul>
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献講読会と研究ミーティングに基づいた研究テーマの設定</li> <li>・研究計画の立案</li> <li>・研究計画書の作成</li> <li>・倫理委員会提出用書類の作成</li> <li>・調査・実験の実施</li> <li>・研究データの収集およびその処理</li> <li>・博士論文の作成</li> <li>・研究成果のプレゼンテーション</li> </ul> <p style="text-align: center;">* 実施日時については、後日指示する。</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスカッション</li> <li>・プレゼンテーション</li> </ul>
テキスト，教材，参考書	適宜，指示する。
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席状況</li> <li>・研究への取り組み</li> <li>・ディスカッションの内容および貢献度</li> <li>・博士論文作成状況</li> <li>・プレゼンテーションの内容</li> <li>・博士論文</li> </ul>
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	

科目名	成人保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Adult Health Science
担当教員	本郷 実
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人保健学領域 1, 2, 3 年次 通年 ・不定
単位数、講義室	6 単位
授業概要	成人保健学領域における研究課題の設定, 研究計画の立案, 調査・研究の遂行, 論理的に構成された博士論文の作成という一連の研究活動を指導教員の助言・指導のもとで行う。メタボリックシンドロームを構成する各種生活習慣病, 動脈硬化性疾患や心不全などについて病態, 疫学などの面から研究し, 論文にまとめる。これらは, 医学, 保健学, 看護学, 臨床検査学, 運動学, 栄養学の研究者, 学校関係者と連携して「青少年の生活習慣病予防医療の新たな研究・教育システムの開発に関する総合的研究プロジェクト」に参加して実施される。以上により, 生活習慣の改善, 生活習慣病予防, 健康増進に必要な新たな予防医療システムの開発を目指す。
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	成人保健学領域に関連する研究計画の立案, 研究の実施, 博士論文作成という一連の過程を通して, 成人期における保健学研究法の内容と手法を修得する。
SBOs (行動目標)	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献講読会と研究ミーティングに基づいた研究計画の立案</li> <li>2. 調査・実験の実施</li> <li>3. データ処理</li> <li>4. 博士論文の作成</li> <li>5. 研究成果のプレゼンテーション</li> </ol>
授業の進め方	
テキスト, 教材, 参考書	<p>【テキスト】 資料を配布する</p> <p>【参考書・参考資料等】 適宜, 指示する</p>
成績評価の方法	研究への取り組みおよび学位論文
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	

科目名	成人保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Adult Health Science
担当教員	木村 貞治
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人保健学領域 1, 2, 3 年次                      通年                      ・不定
単位数、講義室	6 単位
授業概要	成人保健学領域における研究課題の設定, 研究計画の立案, 調査・研究の遂行, 論理的に構成された博士論文の作成という一連の研究活動を指導教員の助言・指導のもとで行う。 成人期における運動器疾患, スポーツ傷害に関連したEBPの概念に則った実践研究を行い, 研究成果を博士論文としてまとめる。研究課題としては, 運動制御, 運動学習の視点から運動と健康との関連性に視座を据え, EBPの実践のために必要となるエビデンスの構築に繋がるような研究の展開を目指す。
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	成人保健学領域に関連する研究計画の立案, 研究の実施, 博士論文作成という一連の過程を通して, 成人期における保健学研究法の内容と手法を修得する。
SBOs (行動目標)	研究課題の設定, 研究計画の立案と遂行, 博士論文の作成という一連の研究活動を指導教員の助言・指導のもとで行う。
授業計画	1. 文献講読会と研究ミーティングに基づいた研究計画の立案 2. 調査・実験の実施 3. データ処理 4. 博士論文の作成 5. 研究成果のプレゼンテーション
授業の進め方	研究ミーティングにおける討論に基づいて一連の研究活動を展開する。
テキスト, 教材, 参考書	【テキスト】 資料を配布する 【参考書・参考資料等】 適宜, 指示する
成績評価の方法	研究への取り組み状況および学位論文の内容。
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	相談への対応: 木村貞治    tkimura@shinshu-u.ac.jp

科目名	成人保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Adult Health Science
担当教員	百瀬 公人
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人保健学領域 1, 2, 3 年次 通年 ・不定
単位数、講義室	6 単位
授業概要	成人保健学領域における研究課題の設定, 研究計画の立案, 調査・研究の遂行, 論理的に構成された博士論文の作成という一連の研究活動を指導教員の助言・指導のもとで行う。脳血管障害や肩関節疾患などの臨床研究あるいは臨床に密接に関連した起立・歩行などの運動学に関する基礎研究を通して, 臨床に科学的根拠を還元できる研究成果を博士論文としてまとめる。
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	成人保健学領域に関連する研究計画の立案, 研究の実施, 博士論文作成という一連の過程を通して, 成人期における保健学研究法の内容と手法を修得する。
SBOs (行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究計画を立案できる。</li> <li>・ 研究に必要な論文を収集し、研究目的を明らかにすることができる。具体的研究方法を実施、改善できる。</li> <li>・ 統計学的処理が実施できる。</li> <li>・ 論理的考察が実施できる。</li> </ul>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献講読会と研究ミーティングに基づいた研究計画の立案</li> <li>2. 調査・実験の実施</li> <li>3. データ処理</li> <li>4. 博士論文の作成</li> <li>5. 研究成果のプレゼンテーション</li> </ol>
授業の進め方	個別指導
テキスト, 教材, 参考書	<p>【テキスト】 資料を配布する</p> <p>【参考書・参考資料等】 適宜, 指示する</p>
成績評価の方法	研究への取り組みおよび学位論文
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	

科目名	成人保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Adult Health Science
担当教員	小林 正義
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人保健学領域 1, 2, 3 年次 通年 ・不定
単位数、講義室	6 単位
授業概要	成人保健学領域における研究課題の設定, 研究計画の立案, 調査・研究の遂行, 論理的に構成された博士論文の作成という一連の研究活動を指導教員の助言・指導のもとで行う ・ 成人期の精神保健医療福祉に関連する最新知見をレビューし, 成人保健学演習 D で作成した研究計画をもとに臨床研究を行う。研究成果を博士論文にまとめ専門誌に投稿する ・
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	文献レビュー, 研究計画の立案, 研究の実施, 論文作成という一連の過程を通して, 成人保健学研究の概念と手法を習得する。
SBOs (行動目標)	1. 精神保健医療福祉領域の学会で研究成果を発表する 2. 原著論文 (英語) を作成する 3. 論文を投稿する
授業計画	1. 系統的な文献レビューに基づいた研究計画の立案 2. 調査・実験の実施 3. データ収集 4. データ解析 5. 博士論文の作成 6. 研究成果のプレゼンテーション 7. 論文投稿
授業の進め方	個別指導
テキスト, 教材, 参考書	【テキスト】 資料を配布する 【参考書・参考資料等】 適宜, 指示する
成績評価の方法	研究への取り組み, 学位論文
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	直接またはEメールにて対応する。mkobaya@shinshu-u.ac.jp

科目名	成人保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Adult Health Science
担当教員	ゴウ アーチェン
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人保健学領域 1, 2, 3 年次 通年 ・不定
単位数、講義室	6 単位
授業概要	成人保健学領域における研究課題の設定, 研究計画の立案, 調査・研究の遂行, 論理的に構成された博士論文の作成という一連の研究活動を指導教員の助言・指導のもとで行う。スポーツ傷害や整形外科的疾患に関する理学療法の効果について研究を行う。具体的には, 物理療法, 運動療法, 動作分析, 徒手療法などの理学療法アプローチの理論を基礎科学的な視点から検証することを目的とした研究を展開し, 研究成果を博士論文としてまとめる。
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	成人保健学領域に関連する研究計画の立案, 研究の実施, 博士論文作成という一連の過程を通して, 成人期における保健学研究法の内容と手法を修得する。
SBOs (行動目標)	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献講読会と研究ミーティングに基づいた研究計画の立案</li> <li>2. 調査・実験の実施</li> <li>3. データ処理</li> <li>4. 博士論文の作成</li> <li>5. 研究成果のプレゼンテーション</li> </ol>
授業の進め方	
テキスト, 教材, 参考書	<p>【テキスト】 資料を配布する</p> <p>【参考書・参考資料等】 適宜, 指示する</p>
成績評価の方法	研究への取り組みおよび学位論文
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	

登録コード:MA821106	授業科目区分	必修科目
科目名	成人保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Adult Health Science	
担当教員	千島 亮	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人保健学領域 1, 2, 3 年次 通年 ・不定	
単位数、講義室	6 単位	
授業概要	<p>作業療法学に関わる研究者として自立的な研究活動が推進できる能力を養う。作業療法実践に貢献できる機器開発・活用による生活支援技術について、今日までに展開・蓄積されてきた手法や技術を科学的視点で再考・検証し、普遍的な支援技術構築に向けた研究課題を想起・立案する。具体的な支援技術提案において欠くことのできない数理情報科学領域と情報工学領域の総合的な学術連携と導入を積極的に進め、作業療法実践で有用な具体的な支援技術方策を提案する。時代変容に即応した真に作業療法学が取り組むべき先進的支援技術領域の現況と課題を明らかとし、ヒューマン・コンピュータ・インタラクション (HCI) にはじまる情報科学と支援技術の接点から見いだされる新たな支援方策と戦略を論ずる。新たなBCI(Brain-Computer Interface) 開発を最終目標とし、生体信号応用による支援技術の臨床実践での有用性について探究する。</p> <p>当授業科目での最終成果は学位授与機関への学位審査論文提出となる。草稿の段階から作成論文に関わる論述技法を向上させるための自主的な学習展開と発展的な提案・議論を通じて研究を進める。</p>	
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	<p>重度障害者の生活支援に応用される情報科学・工学領域の技術や技法に精通し、困難となっている日常生活活動での問題や課題を工学の視点から分析できる。作業療法学における支援方策の提案と支援プログラム策定が出来る。自立的な生活支援について、文化・社会・経済・心理・医学・工学分野等、より広い課題解決のための視点や技法を取り入れて作業療法学を探究する。</p>	
SB0s (行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳・神経・筋活動に伴う情報処理過程の電気生理学的な知識と技法の理解を深める。</li> <li>・具体的な支援技術領域を幅広い視点で概観し、生活支援に関わる技術領域を理解する。</li> <li>・PCを活用した信号処理に関わる基礎的事項と、生体情報解析技法の原理を研鑽する。</li> <li>・支援技術領域における障害・病態の克服・改善のための先駆的取り組みを理解する。</li> <li>・支援技術を発展させるための独自の発想・着想を理論的に構築して報告・提案できる。</li> <li>・実験実施を通じた論理構築と技術開発提案から、研究目的を明確として論ずる。</li> <li>・研究成果を関連学会で報告し、研究成果を学位審査論文としてまとめる。</li> <li>・自発的な研究推進能力を身につけ、作業療法学における発展的な将来像の構築と改善課題を明確にできる。</li> </ul>	
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1-2-3年次ごとに検討した研究計画の策定・実施による定期報告 (BCIゼミナール参加)。</li> <li>・研究結果の持続的な検証と国内外関連学会での発表・報告・論述・情報交換を進める。</li> <li>・国内外研究会/ワークショップ/研修への参加と、関連研究機関との情報交換を進める。</li> <li>・研究推進状況を定期的に報告・討議し、計画の見直や修正を図って再構築する。</li> <li>・大学リポジトリを介した積極的な研究成果開示と他学部・大学・研究機関との連携。</li> <li>・総合的な研究成果を集約して草稿し、学位審査論文 (博士論文) を完成させる。</li> <li>・学内審査会 (公聴会) で研究成果を報告し、研究内容について幅広く討論する。</li> <li>・最終的な学位審査論文 (博士論文) を開示し、リポジトリとして集約・公開する。</li> </ul>	
授業の進め方	<p>初年度開講予定の「成人保健学演習 E (千島)」に連動し、在籍期間を通じた研究計画と討議、研究推進に関わる指導により最終的な学位審査論文 (博士論文) を完成させる。また、大学リポジトリと関連学術機関を通じて研究成果の開示する。</p>	
テキスト、教材、参考書	<p>【参考書】研究指導中で指示する。「成人保健学演習 E」で進めてきた演習内容と配布文献資料を同時に活用するので、合わせて持参のこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・G.Dornhege, J.R.Mill&amp;#225;n, etc.: Toward Brain-Computer Interfacing, 2007, MIT Press.</li> <li>・J.R.Wolpaw, E.W.Wolpaw: Brain-Computer Interface principales and practice, 2012, Oxford Univ Press.</li> <li>・G.A.Urban: Biological Micro-Electro-Mechanical Systems (BioMEMS), 2006, Springer.</li> <li>・H.Putnam: Reaason, Truth, and History, 1981, Cambridge Univ Press.</li> <li>・飯田 隆, 伊藤邦武, 井上達夫 他: 哲学05 心/脳の哲学, 2008, 岩波書店。</li> </ul>	
成績評価の方法	<p>本学学位審査規定に準拠し、予備 (下見) 審査付託による論文草稿の適否判断後、学位論文申請を行う。学位審査論文 (博士論文) と最終試験に合格することが終了要件であり、最終審査に関わる学位審査論文 (論文要旨ではない) 作成と提出となる。研究内容の開示 (リポジトリ) を含め、在籍期間を通じた研究成果を、申請時期に合わせた計画実施により博士論文として完了させる。</p>	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	<p>学内無線LANからWWW接続が可能なPCを持参のこと。在籍期間を通じ、実験・ゼミナール討論・研究実施状況の定期報告等を実践し、指導教員との連絡を密として研究計画を展開する。各研究を推進する上での時期・日時を含めた実施スケジュールを調整して展開する。研究・実験場所など、履修予定者各人の条件を出来る限り考慮して展開する。当研究室の所属を希望する者は必ず事前に千島まで相談のこと。</p> <p>千島研究室: 0263-37-2404 (ダイヤルイン) または mchishi@shinshu-u.ac.jp</p>	

登録コード:MA830100	授業科目区分	必修科目
科目名	老年保健学特講 Special Lectures in Geriatric Health Science	
担当教員	上村 智子 横川 吉晴, 埴原 秋児	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	老年保健学領域/1年次	前期 木曜・5時限 木曜・6時限
単位数、講義室	2単位	
授業概要	高齢者への保健・医療・福祉活動の有効性を生活機能や生活の質（QOL）向上の視点で分析する理論枠組みをリハビリテーション科学や精神医学の立場から考究し、実践の科学的エビデンス創出の方法論について理解を深める。具体的には、加齢性疾患をもつ人への日常生活活動（ADL）支援技術、認知症高齢者やうつ病高齢者への精神医学的アプローチ、さらに介護予防としての運動機能向上プログラムについて考究する。高齢者のリハビリテーション医療の関連領域である公衆衛生学や老年社会学を背景に、高齢者の生活機能の自立や活動能力の保持に関連する要因についても講義を行う。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢期における心身機能の加齢変化、身辺動作能力の変化、社会的活動能力の変化などにより高齢者は多様性に富むことと、活動能力保持の意味するところを理解する。</li> <li>・高齢者の認知・精神機能の障害と日常生活活動（ADL）障害の関連を、脳科学の立場から学習する。</li> <li>・要介護高齢者や脳卒中者など加齢性疾患をもつ人のADL支援技術における課題をQOL向上の視点から探求する科学的過程について理解を深める。</li> </ul>	
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の心身機能の加齢変化と関連要因について説明できる</li> <li>・高齢者の活動能力保持のための方略について説明できる</li> <li>・老年期精神障害の特徴（精神症候と認知機能障害と器質因の相互関係）について説明できる</li> <li>・高齢者うつ病の総合的マネジメントについて説明できる</li> <li>・保健医療福祉現場へのフィールドワークの実際と課題について意見が述べられる</li> <li>・加齢性疾患をもつ人のADL支援技術における課題と解決策について意見を述べ、ディスカッションできる</li> </ul>	
授業計画	4/12 第1回：心身諸機能の加齢変化と関連要因（横川） 4/19 第2回：高齢者の活動能力とは（横川） 4/26 第3回：高齢期の社会活動性と関連要因（横川） 5/10 第4回：高齢者の活動能力保持のための方略1（横川） 5/17 第5回：高齢者の活動能力保持のための方略2（横川） 5/24 第6回：認知症疾患の認知機能障害からみた疾患別の特徴1（埴原） 5/31 第7回：認知症疾患の認知機能障害からみた疾患別の特徴2（埴原） 6/7 第8回：認知症疾患の神経徴候や病理学的背景（埴原） 6/14 第9回：老年期精神障害の特徴（精神症候と認知機能障害と器質因の相互関係）（埴原） 6/21 第10回：高齢者うつ病の総合的マネジメント（埴原） 6/28 第11回：加齢性疾患をもつ人のADL支援技術における課題（上村） 7/5 第12回：課題解決のための評価ツール開発のモデル（上村） 7/12 第13回：効果検証のための研究計画のモデル1（上村） 7/19 第14回：効果検証のための研究計画のモデル2（上村） 7/26 第15回：加齢性疾患をもつ人のADL支援技術における課題解決のために（上村）	
授業の進め方	講義，ディスカッション	
テキスト，教材，参考書	【テキスト】 資料を配布する 【参考書・参考資料等】 適宜，指示する	
成績評価の方法	授業やディスカッションへの参加状況およびレポートを総合的に評価し判定する	
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	質問・相談は随時受け付け，可能な限り積極的に対応する	

科目名	老年保健学演習A Practice in Geriatric Health Science A
担当教員	上村 智子
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	老年保健学領域/ 1年次 後期 月曜・5時限 月曜・6時限
単位数、講義室	2単位
授業概要	高齢者と環境の相互作用を促し、QOL向上に効果的なADL支援技術を提供する上での課題を 探知・評価・分析・解決するための臨床研究遂行能力を養成する。授業では、要介護高齢 者や脳卒中者などの加齢性疾患をもつ人へのADL支援技術や支援技術提供システムにおけ る課題から研究テーマを抽出し、適切な研究デザインを選択し、当該研究フィールドに適 合させる方法論について、文献レビューやフィールドワークや討論を通して指導する。
一般学習目標G10（期待される学習 効果）	要介護高齢者や脳卒中者などの加齢性疾患をもつ人と環境の相互作用を促し、生活の質（ QOL）向上に効果的な日常生活活動（ADL）支援技術および支援技術提供システムの開発や 理論構築に向けた研究を計画し、遂行するために必要な基本的能力を修得する。
SBOs（行動目標）	「要介護高齢者や脳卒中者などの加齢性疾患をもつ人と環境の相互作用を促し、生活の質 （QOL）向上に効果的な日常生活活動（ADL）支援技術および支援技術提供システムの開発 や理論構築に向けた研究」計画が立案できる。
授業計画	第1回～第6回：研究テーマの推敲と文献レビュー 第7回～第8回：研究テーマに関連した評価法の演習（住環境評価，福祉用具評価， QOL評価など） 第9回～第12回：フィールドワーク 第13回～第15回：研究デザインと研究計画
授業の進め方	演習（フィールドワークを含む）
テキスト，教材，参考書	【テキスト】 資料を配布する 【参考書・参考資料等】 適宜，指示する
成績評価の方法	授業やディスカッションへの参加状況およびレポートを総合的に評価し判定する
学生へのメッセージ並びに質問， 相談への対応	質問・相談は随時受け付け，可能な限り積極的対応する

科目名	老年保健学演習B Practice in Geriatric Health Science B
担当教員	埴原 秋児
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	老年保健学領域/1年次 後期 火曜・5時限 火曜・6時限
単位数、講義室	2単位
授業概要	高齢者の認知機能や精神機能の障害と生活機能の障害の関連を的確に捉え、リハビリテーション科学の視点から研究を遂行するための能力を身につけさせる。認知症やうつ病などの精神障害を有する高齢者の生活機能障害に対する支援や活動性向上のための治療の有効性や、適合性、理論の妥当性等の課題について先行研究を取り上げ、他職種との連携を視野に入れた演習形式による指導を行う。事例検討や討論を通して、臨床現場でリーダーシップを発揮し問題解決するための戦略立案能力の修得を目指す。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	高齢者の認知機能障害や精神機能の障害と生活機能の障害の関連を的確に捉え、リハビリテーション科学の視点から研究を遂行するための能力を身につけさせる。認知症やうつ病などの精神障害を有する高齢者の生活機能障害に対する支援や活動性向上のための治療の有効性について先行研究を取り上げ、他職種との連携を視野に入れた演習形式による指導を行う。臨床現場でリーダーシップを発揮し問題解決するための臨床評価能力や戦略立案能力、科学的根拠を作成するための研究立案能力の修得を目標とする。
SBOs（行動目標）	
授業計画	第1回～第5回：研究のテーマと文献レビュー 第6回～第8回：研究テーマのための評価法の演習。 第9回～第12回：物忘れ外来や在宅支援センター等でのフィールドでの実地演習 第13回～第15回：研究デザインと研究計画
授業の進め方	
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 資料を配布する 【参考書・参考資料等】 適宜、指示する
成績評価の方法	授業やディスカッションへの参加状況およびレポート
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	

科目名	老年保健学演習C Practice in Geriatric Health Science C
担当教員	横川 吉晴
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	老年保健学領域/1年次 後期 水曜・5時限 水曜・6時限
単位数、講義室	2単位
授業概要	地域社会における高齢者の体力・活動能力の実態とその関連要因の解明，縦断的研究による生体諸機能や身体健康指標の加齢過程およびその関連要因の分析，老年症候群の危険因子の究明，健やかな高齢社会のための手立てや政策の樹立を目的とした地域介入研究を中心とする文献レビューを行う。在宅で自立した生活を送る高齢者の様々な社会活動支援プログラムや，転倒予防などの健康教育プログラムに関するフィールドワークを通して，理論の妥当性，計画と実施プロセスの一貫性，成果の各段階を評価する手法を学習させる。以上の課題について演習形式で指導する。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	日常生活の自立した健康な高齢者やより活動能力の高い高齢者，そして自立をしているもののADLの一部に援助が必要と考えられる虚弱高齢者などを対象に，身体活動能力を測定評価し，さらには維持向上させる介入の方略を修得する。
SBOs（行動目標）	
授業計画	第1回～第6回：研究テーマと文献レビュー 第7回～第10回：測定方法の演習 第11回～第13回：フィールドワーク（研究協力地域における測定の実際を学習する） 第14回～第15回：研究デザインと研究計画
授業の進め方	
テキスト，教材，参考書	【テキスト】 資料を配付する 【参考書・参考資料等】 適宜，指示する
成績評価の方法	授業やディスカッションへの参加状況およびレポート
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	

科目名	老年保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Geriatric Health Science
担当教員	上村 智子
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	老年保健学領域 1, 2, 3 年次 通年 ・不定
単位数、講義室	6 単位
授業概要	<p>老年保健学の分野において、大学院生の企画・立案した研究課題についての調査や分析を進め、考察を深めるとともに、論理的な結論を導き出し、博士論文を作成させる。</p> <p>要介護高齢者や脳卒中者などの加齢性疾患をもつ人と環境の相互作用を促し、生活の質（QOL）向上に効果的な日常生活活動（ADL）支援技術および支援技術提供システムの開発や理論構築に資する博士論文を作成させる。具体的には、福祉用具や住環境整備といった支援技術のADLやQOLにおける成果を検証するための理論構築および評価手法の開発や、機能障害を補うADL支援技術の適応や効果的な導入方法を探求する研究に、当事者やサービス提供機関や行政と連携して取り組む。</p>
一般学習目標G10（期待される学習効果）	老年保健学に関連する博士論文作成に必要な能力を修得する。
SBOs（行動目標）	研究課題の設定，研究計画の立案と遂行，博士論文の作成という一連の研究活動を指導教員の助言・指導のもとで行う。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 演習で行った文献レビューを通して，研究課題を定めて研究計画を立案する</li> <li>2. 作成した研究計画についてクリティカルな討論を行う</li> <li>3. 信頼性と妥当性を確保したデータ収集と分析を行う</li> <li>4. 結果についてクリティカルな討論を行う</li> <li>5. 論文作成</li> <li>6. プレゼンテーション</li> </ol>
授業の進め方	個別指導
テキスト，教材，参考書	<p>【テキスト】 資料を配布する</p> <p>【参考書・参考資料等】 適宜，指示する</p>
成績評価の方法	研究に取り組む態度および学位論文と発表会の内容を総合的に評価し判定する
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	質問・相談は随時受け付け，可能な限り積極的に対応する

科目名	老年保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Geriatric Health Science
担当教員	埴原 秋児
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	老年保健学領域 1, 2, 3 年次 通年 ・不定
単位数、講義室	6 単位
授業概要	<p>老年保健学の分野において、大学院生の企画・立案した研究課題についての調査や分析を進め、考察を深めるとともに、論理的な結論を導き出し、博士論文を作成させる。</p> <p>認知症や老年期うつ病など精神・神経機能に障害のある高齢者のADL障害や社会活動参加を妨げる要因の分析や改善に関する問題を探求する博士論文を作成させる。具体的には、高齢者うつ病患者における精神症状と認知機能との関係や、高齢者特有の妄想の器質的因子の解析、アルツハイマー病やレビー小体型認知症、進行性核上性麻痺などの認知機能障害や神経症候を伴う認知症疾患を対象に疾患別の病態理解やQOL向上のための研究に取り組む。</p>
一般学習目標G10（期待される学習効果）	老年保健学に関連する博士論文作成に必要な能力を修得する。
SBOs（行動目標）	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 演習で行った文献レビューを通して、研究課題を定めて研究計画を立案する</li> <li>2. 作成した研究計画についてクリティカルな討論を行う</li> <li>3. 信頼性と妥当性を確保したデータ収集と分析を行う</li> <li>4. 結果についてクリティカルな討論を行う</li> <li>5. 論文作成</li> <li>6. プレゼンテーション</li> </ol>
授業の進め方	
テキスト、教材、参考書	<p>【テキスト】 資料を配布する</p> <p>【参考書・参考資料等】 適宜、指示する</p>
成績評価の方法	研究に取り組む態度および学位論文
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	

科目名	老年保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Geriatric Health Science
担当教員	横川 吉晴
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	老年保健学領域 1, 2, 3 年次 通年 ・不定
単位数、講義室	6 単位
授業概要	<p>老年保健学の分野において、大学院生の企画・立案した研究課題についての調査や分析を進め、考察を深めるとともに、論理的な結論を導き出し、博士論文を作成させる。</p> <p>テーマは1) 高齢者の健康に関する心理・社会的リスク要因, 2) 高齢者に関連する保健活動の評価, 3) 高齢者の健康維持、機能低下の遅延に寄与する介入法の開発とその評価などに関するものである。博士論文の作成にあたっては、実証研究の方法論についての体系的な知識・技術の修得を目指す。具体的には、在宅高齢者の活動能力保持に関連する要因と介入プログラム、高齢者自身によるボランティア、転倒予防教室、介護予防事業、訪問リハビリテーションなどのプログラム内容や地域におけるネットワークのあり方を取り上げて探求する。</p>
一般学習目標G10（期待される学習効果）	老年保健学に関連する博士論文作成に必要な能力を修得する。
SBOs（行動目標）	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 演習で行った文献レビューを通して、研究課題を定めて研究計画を立案する。</li> <li>2. 作成した研究計画についてクリティカルな討論を行う。</li> <li>3. 信頼性と妥当性を確保したデータ収集と分析を行う。</li> <li>4. 結果についてクリティカルな討論を行う。</li> <li>5. 論文作成</li> <li>6. プレゼンテーション</li> </ol>
授業の進め方	
テキスト、教材、参考書	<p>【テキスト】 資料を配布する</p> <p>【参考書・参考資料等】 適宜、指示する</p>
成績評価の方法	研究に取り組む態度および学位論文
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	

登録コード:MA840100		授業科目区分	必修科目
科目名	医療生命科学特講 Special Lectures in Health and Medical Sciences		
担当教員	相良 淳二 高 昌星, 川上 由行, 奥村 伸生, 太田 浩良, 齋藤 直人		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	健康基礎科学領域/1年次	前期	金曜・5時限 金曜・6時限
単位数、講義室	2単位		
授業概要	各分野の専門家が講義形式で教授する。		
一般学習目標G10(期待される学習効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生体の構造と機能の変化という視点から病態を理解する。</li> <li>・生体の恒常性を急激に破綻させる病因の解明とその制御, 破綻した生体の構造および機能の修復・再生のための最新の知見を学習する。</li> <li>・蛋白質・脂質・糖質・核酸などの生体を構成する分子の量的あるいは質的異常に基づく病態をエビデンスに基づき早期に診断するための方法を理解する。</li> </ul>		
SBOs(行動目標)	幅広い医療生命科学の講義から、単なる知識としてではなく、現在および将来の研究に繋がるものを学びとる姿勢が必要である		
授業計画	<p>4月13日: 医療生命科学概論 - 分子細胞生物学(相良淳二)</p> <p>4月20日: 医療生命科学概論 - 生体情報と臨床化学(奥村伸生)</p> <p>4月27日: 医療生命科学概論 - 形態学と病理学(太田浩良)</p> <p>5月 2日: 医療生命科学概論 - 病原体と検査(川上由行)</p> <p>5月11日: 血栓止血異常症の病態解析(高宮脩 特任)</p> <p>5月18日: 中枢神経系の自己免疫性神経疾患と分子免疫学的研究(高昌星)</p> <p>5月25日: 病因物質/病原体の疫学的・遺伝学的研究(川上由行)</p> <p>6月 1日: 細胞死と自然免疫(相良淳二)</p> <p>6月 8日: 血漿蛋白異常症と欠損症の遺伝子解析と蛋白解析(奥村伸生)</p> <p>6月15日: 消化管粘膜上皮細胞の細胞形質の特徴と病態(太田浩良)</p> <p>6月22日: 骨の分子生物学(齋藤直人) &lt;6コマ目&gt;</p> <p>6月29日: 膜骨格の分子形態(寺田信生)</p> <p>7月 6日: 血液蛋白質の分離・分析法の技術および理論(高宮脩 特任)</p> <p>7月13日: 腫瘍の形態学的, 組織化学的, 免疫組織化学的, 分子病理学的解析(羽山正義)</p> <p>7月20日: 脂質分子および脂質分子代謝産物の高感度・高分解能分析(日高宏哉)</p>		
授業の進め方			
テキスト, 教材, 参考書	適宜プリントを配布		
成績評価の方法	出席状況とレポートの評価		
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	<p>(高宮 脩) 個別の相談は事前の連絡(e-mail: itosamu@shinshu-u.ac.jpまたは内線3569)によって随時対応する。</p> <p>(奥村伸生) 個別の相談は事前の連絡(e-mail: nobuoku@shinshu-u.ac.jpまたは内線3570)によって随時対応する。</p>		

科目名	医療生命科学演習A Practice in Health and Medical Sciences A
担当教員	川上 由行 高 昌星, 相良 淳二, 藤本 圭作
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域/1年次 後期 火曜・5時限 火曜・6時限
単位数、講義室	2単位
授業概要	病原微生物の生物学的研究方法, 動物実験モデルの応用, 生体の感染防御機構や生理機能評価等に関する原著論文を教材としてセミナーをおこなう。自由な討論と最新の専門知識の解説によって専門知識を深化させる。
一般学習目標G10(期待される学習効果)	薬剤耐性菌の発生, 再興・新興感染症の流行, 感染に起因する神経変性疾患・自己免疫疾患・ガンや、生理学的機能障害は人間の健康を常に脅している。感染症の最近の動向, 病原微生物の生物学的研究方法, 動物実験モデルの応用, 生体の感染防御機構や生理学的機能とその破綻による病気の発症にかんする演習によって, この分野における研究能力を養う。
SBOs(行動目標)	
授業計画	第1回(10月2日): 国内感染症の最近の動向(川上由行) 第2回(10月9日): 薬剤耐性菌と院内感染(川上由行) 第3回(10月16日): 院内感染対策とチーム医療(川上由行) 第4回(10月23日): 感染症の症例と臨床微生物学的視点(川上由行) 第5回(10月30日): 培養細胞を用いた感染研究(相良淳二) 第6回(11月6日): 病原体感染と細胞死-1(相良淳二) 第7回(11月13日): 病原体感染と細胞死-2(相良淳二) 第8回(11月20日): 病原体感染と自然免疫(相良淳二) 第9回(11月27日): COPD患者における呼吸困難のメカニズム(藤本圭作) 第10回(12月4日): COPDと喘息の類似点と相違点(藤本圭作) 第11回(12月11日): 睡眠呼吸障害と合併症との関係(藤本圭作) 第12回(12月18日): 高地肺水腫と疾患感受性(藤本圭作) 第13回(1月8日): 難治性神経疾患と動物実験モデル(高昌星) 第14回(1月15日): 免疫性神経疾患と細胞性免疫およびサイトカイン-1(高昌星) 第15回(1月22日): 免疫性神経疾患と細胞性免疫およびサイトカイン-2(高昌星) 第16回(1月29日): ウイルス性脱髄疾患の動物実験モデルと治療法開発(高昌星)
授業の進め方	
テキスト, 教材, 参考書	【テキスト】 英語また和文の原著論文 【参考書・参考資料等】 医系免疫学(中外医学社), Microbiology (Black JG著, WILEY社)
成績評価の方法	出席状況およびセミナーでの発表
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	

科目名	医療生命科学演習B Practice in Health and Medical Sciences B
担当教員	奥村 伸生 日高 宏哉, 寺澤 文子
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域/1年次 後期 木曜・5時限 木曜・6時限
単位数、講義室	2単位
授業概要	血漿蛋白および脂質の異常とその病態に関する分析・解析に関連する文献をはじめとする関連情報を収集し、それらの講読と指導教員を交えた討論より、研究を進めるための計画・実験方法・データのまとめ方・結論の導き方・考察の広さと深さなどの妥当性を分析・評価できる能力を養う。
一般学習目標G10(期待される学習効果)	健康基礎科学特別研究を行うために血漿蛋白および脂質の異常とその病態に関する分析・解析方法と意義を演習し、病因・病態解析ができる応用能力を育成する。
SBOs(行動目標)	研究テーマに関連する文献をはじめとする関連情報の収集能力を習得する。 研究テーマに関連する文献をはじめとする関連情報の分析能力を習得する。 研究結果を分析・評価する能力を習得する。 研究結果を英文論文として情報発信する能力を習得する。
授業計画	10/4 : 異常タンパク解析 1 (寺澤文子) 10/11 : 異常タンパク解析 2 (寺澤文子) 10/18 : 異常タンパク解析 3 (寺澤文子) 10/25 : 異常タンパク解析 4 (寺澤文子) 11/1 : タンパク質異常症と欠損症の病因解析の概要 (奥村伸生) 11/8 : タンパク質・遺伝子解析方法 (奥村伸生) 11/15 : リコンビナントタンパク質の発現方法 (奥村伸生) 11/22 : 分子生物学的機能解析法 (奥村伸生) 11/29 : 異常タンパクの機能・性状の解析法-電気泳動法 (寺澤文子) 12/6 : 異常タンパクの機能・性状の解析法 - 放射性同位元素の利用 (奥村伸生) 12/13 : 異常タンパクの機能・性状の解析法 - 質量分析 (日高宏哉) 12/20 : 脂質生物学の概要 (日高宏哉) 1/10 : 脂質分析の基礎 (日高宏哉) 1/17 : 脂質メディエーターとその機能 1 (日高宏哉) 1/24 : 脂質メディエーターとその機能 2 (日高宏哉)
授業の進め方	セミナー形式
テキスト, 教材, 参考書	【テキスト】 なし 【参考書・参考資料等】 最新の英語論文を紹介する
成績評価の方法	文献講読における理解度と指導教員を交えた討論の内容により総合的に評価する。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	(奥村伸生) 個別の相談は事前の連絡 (e-mail : nobuoku@shinshu-u.ac.jp または内線 3570) によって随時対応する。 (日高宏哉) 個別の相談は事前の連絡 (e-mail : hiroyan@shinshu-u.ac.jp または内線 3538) によって随時対応する。 (寺澤文子) 個別の相談は事前の連絡 (e-mail : itosamu@shinshu-u.ac.jp または内線 3569) によって随時対応する。

科目名	医療生命科学演習C Practice in Health and Medical Sciences C
担当教員	太田 浩良 齋藤 直人, 羽山 正義, 寺田 信生
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域/1年次 後期 金曜・5時限 金曜・6時限
単位数、講義室	2単位
授業概要	人体の正常および病的状態における変化について、組織・細胞・分子レベルから探求する。主として消化器、神経、骨、骨格筋・心筋組織を対象に、免疫組織化学、in situ hybridization法を用いた光顕的・電顕的解析法、共焦点レーザー顕微鏡を用いた3次元解析法や遺伝子発現解析法およびこれらの解析により得られるデータ解析法について教示する。さらに、運動器の生理について理解を深める。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	1.消化器、神経、骨、骨格筋・心筋組織の正常および病理について組織・細胞レベルでの形態変化の分析能力を身につけ、形態変化を理解する。 2.組織・細胞レベルでの形態変化の解析法につき、その理論と結果の解釈法を理解する。 3.運動器の生理を理解する。
SBOs（行動目標）	1.人体の正常および病的状態における変化について、組織・細胞・分子レベルから探求する研究方法、解釈法および分析能力を習得する。 2.運動器の生理を理解する。
授業計画	9/28 第1回 消化管の正常組織・細胞形態と機能（太田浩良） 10/ 5 第2回 消化管の病理（太田浩良） 10/12 第3回 消化管粘液の解析方法の理論と病理診断への応用（太田浩良） 10/19 第4回 消化管粘液の解析方法（実技指導）（太田浩良） 10/26 第5回 細胞分子からみた神経（齋藤直人） 11/ 2 第6回 神経の生理学（齋藤直人） 11/ 9 第7回 細胞分子からみた骨（齋藤直人） 11/16 第8回 骨の生理学（齋藤直人） 11/30 第9回 膜骨格の形態と機能の概略（講義）（寺田信生） 12/ 7 第10回 膜骨格の顕微鏡による可視化法（実技1）（寺田信生） 12/14 第11回 膜骨格の顕微鏡による可視化法（実技2）（寺田信生） 12/21 第12回 膜骨格の顕微鏡による可視化法（実技3）（寺田信生） 12/26 第13回 免疫組織化学、in situ hybridization法、共焦点レーザー顕微鏡の理論（講義）（羽山正義） 1/11 第14回 同上（実技1）（羽山正義） 1/25 第15回 同上（実技2）（羽山正義） 2/ 1 第16回 同上（実技3）（羽山正義）
授業の進め方	解析法の理論と結果の解析法等について議論しながら、実験・演習を行う。
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 各教員が必要に応じてハンドアウトを配布する。 【参考書・参考資料等】 1.渡辺・中根 酵素抗体法, 名倉 宏, 堤 寛, 長村 義之, 学際企画 2.電顕入門ガイドブック, 日本顕微鏡学会 (編集), 学会出版センター 3.初めてでもできる共焦点顕微鏡活用プロトコール 観察の基本からサンプル調製法, 学会・論文発表のための画像処理まで, 高田 邦昭 (編集), 羊土社
成績評価の方法	講義・実習で触れた解析法の理論と結果の解析法等についての理解度・到達度をレポート等により評価する。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	可能な限り、随時受け付ける。

科目名	医療生命科学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Health and Medical Sciences
担当教員	高 昌星
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域 1, 2, 3 年次 通年 ・不定
単位数、講義室	6 単位
授業概要	免疫性神経疾患における細胞性免疫機構とサイトカインの重要性について、ウイルス誘導による脱髄疾患の動物実験モデルを用いて研究する。炎症性神経疾患の発症機序を探究する。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	各教員の研究テーマにそって研究を行うことにより健康基礎科学の高度な専門知識と研究・開発能力を獲得する。またその成果を発表し、博士論文としてまとめる。
SBOs（行動目標）	研究計画を立案することができるようにする。研究計画の実行に必要な研究技術を取得することができる。研究内容および研究成果を効率よくプレゼンテーション出来るようにする。
授業計画	1) 研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる 2) 計画にそって実験および調査を実施する。 3) 実験や調査結果をまとめ、その結果を評価・考察する。 以上のような研究サイクルによって研究テーマを発展させる。その成果を学会等において発表し、最終的には原著論文としてまとめる。教員は討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。
授業の進め方	研究を実践しながら科学的思考および討議を行う。
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 特になし 【参考書・参考資料等】 各研究テーマおよび関連する研究領域の原著論文および総説
成績評価の方法	研究に取り組む態度及び研究成果
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	随時、質問や相談を受け付ける。

科目名	医療生命科学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Health and Medical Sciences
担当教員	太田 浩良
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域 1, 2, 3 年次 通年 ・不定
単位数、講義室	6 単位
授業概要	消化管組織の病理, 特にヘリコバクター感染関連胃粘膜病変を中心に, 組織・細胞レベルから研究する。また, 消化器外発生をみる胃・腸型腺癌の組織発生と臨床病理学的特徴について研究する。
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	各教員の研究テーマにそって研究を行うことにより健康基礎科学の高度な専門知識と研究・開発能力を獲得する。またその成果を発表し, 博士論文としてまとめる。
SBOs (行動目標)	研究テーマに沿って実験計画から実践、結果に対する考察ができ、論文にまとめることができるようになる。
授業計画	1) 研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる 2) 計画にそって実験および調査を実施する。 3) 実験や調査結果をまとめ, その結果を評価・考察する。 以上のような研究サイクルによって研究テーマを発展させる。その成果を学会等において発表し, 最終的には原著論文としてまとめる。教員は討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。
授業の進め方	研究テーマに沿った実験、討論、論文作成を行う。
テキスト, 教材, 参考書	【テキスト】 特になし 【参考書・参考資料等】 各研究テーマおよび関連する研究領域の原著論文および総説
成績評価の方法	研究に取り組む態度及び研究成果
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	

科目名	医療生命科学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Health and Medical Sciences
担当教員	相良 淳二
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域 1, 2, 3 年次 通年 ・不定
単位数、講義室	6 単位
授業概要	細胞内の自然免疫システムおよび細胞死シグナル経路と、それが関与する自己免疫疾患およびガンについて研究する。
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	各教員の研究テーマにそって研究を行うことにより健康基礎科学の高度な専門知識と研究・開発能力を獲得する。またその成果を発表し、博士論文としてまとめる。
SBOs (行動目標)	
授業計画	1) 研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる 2) 計画にそって実験および調査を実施する。 3) 実験や調査結果をまとめ、その結果を評価・考察する。 以上のような研究サイクルによって研究テーマを発展させる。その成果を学会等において発表し、最終的には原著論文としてまとめる。教員は討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。
授業の進め方	文献詳読、ディスカッション、実験と実験データ検討を適宜行う。
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 特になし 【参考書・参考資料等】 各研究テーマおよび関連する研究領域の原著論文および総説
成績評価の方法	研究に取り組む態度及び研究成果
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	

科目名	医療生命科学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Health and Medical Sciences
担当教員	藤本 圭作
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域 1, 2, 3 年次 通年 ・不定
単位数、講義室	6 単位
授業概要	呼吸器疾患、特に慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、睡眠呼吸障害に関して、その病態と診断解析方法を学ぶ。研究テーマを与え、生体情報の取得、解析、病態の考察およびそれに対する対処法の開発を自らおこない、多くの文献を読み、最先端の知見を得ることが本授業の概要である。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	各教員の研究テーマにそって研究を行うことにより健康基礎科学の高度な専門知識と研究・開発能力を獲得する。またその成果を発表し、博士論文としてまとめる。
SBOs（行動目標）	与えられたテーマについて、 1．実験あるいは検査をおこなうにあたって、英文を含む論文、文献を読破し、何が解明されていないのかといった背景を明らかにし、これに基づいて研究の目的を明らかにする。 2．この目的を達成するための条件・状況、対象数、方法について計画を立てる。 3．倫理委員会への申請書を提出して承認を得る。 4．被検者に対してきちんと説明し、承諾を得ることができる。 5．実験あるいは検査を自らおこなうことができ、再現性、信頼性が得られる。 6．実験あるいは検査にてデータを取得し、管理、集計および統計学的分析ができる。 7．結果に対して多くの文献を参考にして考察ができる。 8．英文として論文が書ける。
授業計画	1) 研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる 2) 計画にそって実験および調査を実施する。 3) 実験や調査結果をまとめ、その結果を評価・考察する。 以上のような研究サイクルによって研究テーマを発展させる。その成果を学会等において発表し、最終的には原著論文としてまとめる。教員は討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。
授業の進め方	自ら、研究を遂行する過程でアドバイスを与えながら教育する。
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 特になし 【参考書・参考資料等】 各研究テーマおよび関連する研究領域の原著論文および総説
成績評価の方法	研究に取り組む態度及び研究成果
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	いつでも質問、相談が可能であるが、まずは自分で勉強して考えることが重要。

科目名	医療生命科学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Health and Medical Sciences
担当教員	川上 由行
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域 1, 2, 3 年次 通年 ・不定
単位数、講義室	6 単位
授業概要	感染病原因子の迅速診断法の開発評価および感染病原因子に対する化学療法剤の感受性等について臨床微生物学的に研究する。また、科学的根拠に基づいた論理的院内感染対策を遂行するために必要な手法および感染制御に関連する実証的研究を行う。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	感染症学 / 臨床微生物学に関するテーマにそって研究を行うことにより健康基礎科学の高度な専門知識と研究・開発能力を獲得する。またその成果を発表し、英文による博士論文としてまとめて専門ジャーナルに掲載する。
SBOs（行動目標）	感染症の症例を微生物学のみならず、関連する専門領科学領域の知識と統合して考えることが出来る。また、常に問題意識を保持し続け臨床微生物学の進展に寄与し続ける姿勢を体得する。
授業計画	1) 研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる 2) 計画にそって実験および調査を実施する。 3) 実験や調査結果をまとめ、その結果を評価・考察する。 以上のような研究サイクルによって研究テーマを発展させる。その成果を学会等において発表し、最終的には「英文の原著論文」としてまとめる。教員は討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。
授業の進め方	毎月定期的に開催するセミナーにおいて、研究の進展状況を報告し、今後の進め方に就いて討議する。
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 特になし 【参考書・参考資料等】 各研究テーマおよび関連する研究領域の原著論文および総説
成績評価の方法	研究に取り組む姿勢及び研究成果
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	

科目名	医療生命科学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Health and Medical Sciences
担当教員	奥村 伸生
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域 1, 2, 3 年次 通年 ・不定
単位数、講義室	6 単位
授業概要	先天的なフィブリノゲン異常症と欠損症の原因解析の研究と後天的に修飾されたフィブリノゲン(シトルリン化・糖化)の機能研究を行う。研究方法には分子生物学的機能解析法を用いる。
一般学習目標G10(期待される学習効果)	各教員の研究テーマにそって研究を行うことにより健康基礎科学の高度な専門知識と研究・開発能力を獲得する。またその成果を学会発表し、博士論文としてまとめる。
SBOs(行動目標)	研究テーマに関連する文献をはじめとする関連情報の収集能力を習得する。 研究テーマに関連する文献をはじめとする関連情報の分析能力を習得する。 研究結果を分析・評価する能力を習得する。 研究結果を英文論文として情報発信する能力を習得する。
授業計画	1) 研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる。 2) 計画にそって実験を実施する。 3) 実験結果や調査結果をまとめ、その結果を評価・考察する。 以上のような研究サイクルによって研究テーマを発展させる。その成果を学会などにおいて発表し、最終的には原著論文としてまとめる。教員は討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。
授業の進め方	学習目標にしたがって、3年間継続的に研究を行う。文献詳読、ディスカッションを通して1週間毎、1月毎に進行状況を確認・検討し、必要があれば順次修正を行う。
テキスト, 教材, 参考書	【テキスト】 特になし 【参考書・参考資料等】 各研究テーマおよび関連する研究領域の原著論文および総説
成績評価の方法	研究に取り組む態度及び研究成果
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	(奥村伸生) 個別の相談は事前の連絡(e-mail:nobuoku@shinshu-u.ac.jpまたは内線3570)によって随時対応する。

科目名	医療生命科学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Health and Medical Sciences
担当教員	齋藤 直人
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域 1, 2, 3 年次 通年 ・不定
単位数、講義室	6 単位
授業概要	運動生理学・生化学について、分子生物学的手法を用いて広範囲に研究する。また、運動器再建に重要な役割を担う生体材料の開発研究を行う。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	教員の研究テーマにそって研究を行うことにより医療生命科学の高度な専門知識と研究・開発能力を獲得する。またその成果を発表し、博士論文としてまとめる。
SBOs（行動目標）	
授業計画	1) 研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる 2) 計画にそって実験および調査を実施する。 3) 実験や調査結果をまとめ、その結果を評価・考察する。 以上のような研究サイクルによって研究テーマを発展させる。その成果を学会等において発表し、最終的には原著論文としてまとめる。教員は討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。
授業の進め方	
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 特になし 【参考書・参考資料等】 各研究テーマおよび関連する研究領域の原著論文および総説
成績評価の方法	研究に取り組む態度及び研究成果
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	

科目名	医療生命科学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Health and Medical Sciences
担当教員	寺田 信生
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域 1～3年次 通年 ・不定
単位数、講義室	6単位
授業概要	<p>人体など個体の形成は、細胞内蛋白の複合体ネットワークに基づく、という基本的な科学的視点をもつ。</p> <p>この追究のために 科学的根拠に基づく解析法。 問題発案、仮説、実験、結果、考察の手順を、粘り強く繰り返せる研究能力。 まとめる能力（国際的に発表）、評価され、さらに を繰り返す力。 を、身につけるようにすすめる。</p> <p>中心とする研究テーマは、細胞膜関連蛋白複合体（膜内蛋白、膜骨格蛋白、細胞骨格蛋白）の予定であるが、おもしろそうであれば適時修正する。 この授業は人体構造の基本を理解する科学的観点から、男女共同参画に関する内容を含んでいます。</p>
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<p>生命科学の高度な専門知識と技術を習得する。 情報収集をし、何が新しい知見かを見極めて研究・開発する能力を獲得する。 またその成果を発表し、博士論文（英文）としてまとめるグローバルな情報発信能力を身につける。</p>
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>分子細胞生物学に基づく解析法を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>形態学的解析：光学・電子顕微鏡試料作製、凍結技法など。</li> <li>遺伝子工学的解析：PCR、遺伝子改変など。</li> <li>生化学的解析：免疫沈降、GST融合蛋白作製など。</li> <li>生理学的解析：神経電気生理など。</li> </ol> </li> <li>細胞組織構築について理解する。（1.の手法に基づく） <ol style="list-style-type: none"> <li>細胞の基本構造：とくに細胞接着とそのシグナル伝達機構。</li> <li>組織構築：動的解析の方法。</li> <li>器官構築：形態学的解析。</li> <li>個体構築：遺伝子改変モデルマウスの解析。</li> </ol> </li> </ol>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>研究テーマにそって、文献検索および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる。 自由な発想に基づく課題提起 過去に誰も行っていないという確認（文献検索と、自分の研究の位置づけ） 現実的な（従来の）解析法による課題解決のための立案～さらに新たな解析法の考案。</li> <li>計画にそって実験を実施する。 的確、正確な実験手技、方法。行動目標にあげた手技を確実に修得する。 再現性。 種々の方法での検証。</li> <li>実験結果をまとめ、その結果を評価・考察する。 図や表を含む結果の提示と、そのまとめ。 考察に基づく、仮説の再検証。 学会発表、英文論文作製による科学者のコミュニケーション。</li> </ol> <p>以上の研究のためのサイクルを繰り返して、研究テーマを発展させる。 （なお具体的な日程については、本人の修得過程や研究の進み方をみながら、適宜段階的に決めていく。）</p>
授業の進め方	授業計画に示すように、実験の立案、実施と結果のまとめ、考察を繰り返す。
テキスト、教材、参考書	<p>【テキスト】 適宜紹介する。</p> <p>【参考書・参考資料等】 研究テーマに関連する原著論文および総説。</p>
成績評価の方法	自ら研究に取り組む態度、および研究成果（英文論文）。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	生物現象をいろいろな手法を用いて解明してもらいたいです。このための実験が、手技的にうまくいかなかったり、実験手技はうまくいっても結果が仮説とは異なるなどの繰り返しになりますが、生命の不思議を少しでも科学的に理解しようとする挑戦を続けてみてください。

科目名	医療生命科学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Health and Medical Sciences
担当教員	日高 宏哉
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域 1, 2, 3 年次 通年 ・不定
単位数、講義室	6 単位
授業概要	リン脂質およびアポリポ蛋白分子とその代謝産物の脂質代謝や蛋白代謝の調節因子としての機能解析を行い、脂質および蛋白代謝異常症の早期検出法の開発を行う。機能解析は HPLC 分析、質量分析 (TOF-MS, LC-MS, GC-MS)、原子吸光分析などの精密分析技術を用い、早期検出法または臨床検査に利用可能な簡易で迅速な分析技術を開発する。また、分析技術を用いて、臨床的に応用できるかどうかを評価する。
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	各教員の研究テーマにそって研究を行うことにより、健康基礎科学の高度な専門知識と研究・開発能力を獲得する。またその成果を発表し、博士論文としてまとめる。
SBOs (行動目標)	1) 脂質、アポ蛋白、リポ蛋白の構造、機能、代謝を理解し、説明できる 2) 精密分析技術の原理を理解し、基礎的操作ができる 3) 測定結果の解析ができる 4) 健康基礎科学における早期検出または臨床検査法に利用できる分析技術の開発ができる 5) 健康基礎科学または臨床的に応用できるかどうかを評価できる。
授業計画	1) 研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる 2) 計画にそって実験および調査を実施する。 3) 実験や調査結果をまとめ、その結果を評価・考察する。 以上のような研究サイクルによって研究テーマを発展させる。その成果を学会等において発表し、最終的には原著論文としてまとめる。教員は討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。
授業の進め方	1) 研究方法の打ち合わせと結果評価 2) 学術論文の抄読会
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 特になし 【参考書・参考資料等】 各研究テーマおよび関連する研究領域の原著論文および総説
成績評価の方法	研究に取り組む態度及び研究成果
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	いつでも相談、打ち合わせ等ができる

科目名	医療生命科学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Health and Medical Sciences
担当教員	羽山 正義
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域 1, 2, 3 年次 通年 ・不定
単位数、講義室	6 単位
授業概要	病理組織細胞診断学における形態学的研究法の新しい技術論および病理診断方法の開発を目指した研究を行う。主として正常組織と腫瘍組織の組織学的細胞増殖能を解析し、病理診断への応用を検討する。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	研究テーマにそって研究を行うことにより健康基礎科学の高度な専門知識と研究・開発能力を獲得する。またその成果を発表し、博士論文としてまとめる。
SBOs（行動目標）	形態学的研究に必要な幅広い研究手法を身につけるとともに病理診断に役立つ新しい検査法を考え出す能力を身につける。
授業計画	1) 研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる 2) 計画にそって実験および調査を実施する。 3) 実験や調査結果をまとめ、その結果を評価・考察する。 以上のような研究サイクルによって研究テーマを発展させる。その成果を学会等において発表し、最終的には原著論文としてまとめる。教員は討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。
授業の進め方	
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 特になし 【参考書・参考資料等】 各研究テーマおよび関連する研究領域の原著論文および総説
成績評価の方法	研究に取り組む態度及び研究成果
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	

科目名	医療生命科学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Health and Medical Sciences
担当教員	寺澤 文子
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域 1 , 2 , 3 年次 通年 ・不定
単位数、講義室	6 単位
授業概要	血液凝固異常症を中心とした疾患の病態解析を行うための研究課題を設定し、タンパク生化学的、血液学的、細胞化学的、および分子生物学的解析法を用いた研究指導を行う。
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	各教員の研究テーマにそって研究を行うことにより、健康基礎科学の高度な専門知識と研究・開発能力を獲得する。またその成果を発表し、博士論文としてまとめる。
SBOs (行動目標)	研究テーマに関連する文献検索と判読ができる。さらに実験計画から、実践、結果に対する考察ができ、論文作成および学会発表ができる。
授業計画	1) 研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる。 2) 計画にそって実験および調査を実施する。 3) 実験や調査結果をまとめ、その結果を評価・考察する。  以上のような研究サイクルによって研究テーマを発展させる。その成果を学会等において発表し、最終的には原著論文としてまとめる。教員は討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。
授業の進め方	研究テーマに沿った文献購読、実験、討論、論文作成を行なう。定期的に研究報告を行い、研究の進行状況の確認、研究方法の検討、助言を通して研究推進をサポートする。
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 特になし 【参考書・参考資料等】 各研究テーマおよび関連する研究領域の原著論文および総説
成績評価の方法	研究に取り組む態度及び研究成果。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	個別の相談は随時受け付ける。 e-mail: fterasa@shinshu-u.ac.jp

高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を備え、国内外の保健・医療・福祉の現場において研究を推進し、健康の保持と疾病や障害の予防・治療、医療安全に広く貢献できる人材

## 修士(看護学・保健学) 学位授与

最終試験の合格

論文要旨・審査結果  
要旨の公開  
・保健学専攻委員会における  
論文審査結果の公開

30単位以上を修得

(保健学専攻 博士前期課程)

論文審査  
・審査委員会ならびに保健学専攻委員会による2段階審査

論文発表会  
・専攻大学院委員会開催の全保健学科教員に対する公開発表会

学位論文提出

審査委員の決定  
・主指導教員≠審査主査  
・3名以上の教授(必要と認める際は準教授、講師をもって代えることができる)

論文予備審査  
・複数の教員による学位授与審査に値するかの確認・指導

論文作成

特別研究  
10単位(必修)  
・各分野・領域における研究進捗状況の報告と討論  
・特論、演習を通じた論文執筆のための基礎的素養の獲得  
・学会参加による研究発信能力と最新情報の獲得  
・教員間の研究に関する情報の共有と院生へのフィードバック

グローバルな情報  
発信能力・参画力

保健・医療・福祉の  
現場における研究  
推進能力

情報収集  
・分析能力

研究課題の決定

・研究指導担当教員との綿密な検討・討論による研究課題の決定  
・各分野の複数教員による研究課題・研究手法のヒアリングと指導

学位論文作成・  
論文審査

指導教員の決定

・オープンキャンパス開催時の複数教員との面談や入学資格審査時における教員との面談により決定

授業科目・研究指導

分野共通  
科目(検査)  
2単位(必修)  
(病態検査解析学)

専門分野の  
深い学識

分野共通  
科目(看護)  
4単位以上(選択)  
(看護理論など3  
科目から選択)

実践能力の応用・  
発展の基礎

分野・領域別  
科目  
6~8単位以上  
(選択)

(各分野領域に設  
けられている特論、  
演習科目より選択)

専門分野の深い  
学識と研究能力

科学的根拠に基づく  
臨床問題解決能力

専門分野の  
高度な実践能力

情報収集  
・分析能力

研究科専攻共通科目

2単位(必修)(医療倫理学)  
4単位以上(選択)(研究方法論, 医療情報処理科学, 臨床判断  
解析学, 国際保健論など8科目から選択)

高い倫理観

情報分析能力

保健学分野に関  
する幅広い学識

2年次

1年次

1. 高い倫理観と豊かな人間性を有し、人類の幸福と福祉の向上に熱意のある人
2. 科学的思考による問題解決能力を有し、国際的視野でものごとを考えることができる人
3. 高度専門職業人として、地域社会の保健医療に貢献する意欲のある人
4. 保健・医療・福祉において、指導的役割を担う意欲のある人
5. 将来の保健学における教育者・研究者を志望する基礎学力と熱意のある人

1.保健学の学問体系の確率と発展に寄与し、学際的研究を積極的に推進することにより、世界に向けてその成果を発信できる人材 2.高い倫理観と高度な専門的知識に基づいた実践能力を持ち、保健・医療・福祉の現場あるいは大学・大学院において専門的・指導的立場から課題を見つけ、自立的な研究や教育研究指導を行える人材

## 博士(保健学) 学位授与

最終試験の合格

論文要旨・審査結果  
要旨の公開

・保健学専攻委員会における要旨、  
論文審査結果の公開

14単位以上を修得

(保健学専攻 博士後期課程)

特別研究  
6単位(必修)

・各分野・領域における  
研究進捗状況の報告と  
討論  
・特講、演習、セミナー  
を通じた論文執筆のた  
めの素養の獲得  
・学会参加による研究  
発信能力と最新情報の  
獲得  
・教員間の研究に関す  
る情報の共有と院生へ  
のフィードバック

グローバルな情報  
発信能力・参画力

保健・医療・福祉の  
現場における研究  
推進能力と指導力

情報分析能力

情報収集能力

研究課題の決定

・研究指導担当教員との綿密な検討・討論による研究課題の決定  
・各分野の複数教員による研究課題・研究手法のヒアリングと指導

論文審査

・審査委員会ならびに保健学専攻  
委員会による2段階審査

論文発表会・審査会

・審査委員会による公開口頭試問による  
審査

学位論文提出

審査委員の決定

・指導教員≠審査主査  
・3名以上の教授(必要と認める際は研究  
指導資格を有する准教授をもって代  
えることができる)

論文予備審査

IFのついている英文誌、信州医誌(英  
文に限る)もしくは保健学専攻委員会が  
認めた当該領域で権威のある邦文雑誌  
に限定

学会誌等への学術論文投稿

・英文雑誌もしくは保健学専攻委員会  
が認めた雑誌に限定

論文作成

分野・領域別  
演習

2単位以上  
(指定選択)  
(各分野領域別に  
設けられている演  
習科目より1科目  
指定、他は選択)

専門分野の  
高度な研究技術

専門分野の  
高度な実践能力

専門分野の  
深い学識

専門関連分野に  
おける幅広い学識

分野・領域別  
特講

2単位(必修)  
(各分野領域別に  
設けられている  
特講を指定)

専門分野の  
深い学識

情報収集  
・分析能力

研究科専攻共通科目

4単位(必修)(保健・医療・福祉連携論、生涯保健学研究法)

高い倫理観

保健学分野に関  
する幅広い学識

分野別マネー  
ジメント能力

TA・RAでの  
指導能力

指導教員の決定

・オープンキャンパス開催時の複数教員との面談や入学資格審査時における教員との面談により決定

授業科目・研究指導

学位論文作成・  
論文審査

3年次

2年次

1年次

- 1.保健学領域において、科学的・倫理的な思考に基づいた独創的かつ実践的な研究を遂行することに意欲のある人
- 2.保健・医療・福祉の現場あるいは大学・大学院において専門的・指導的立場から研究や教育を行うことに意欲のある人
- 3.保健医療職者に対し、質の高い臨床研究方法に関する指導を実践することに意欲のある人







平成24年4月発行

信州大学大学院医学系研究科

〒390-8621 長野県松本市旭3丁目1番1号

連絡先：医学部学務グループ（大学院係） TEL 0263(37)3376（直通）